

518

421

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4

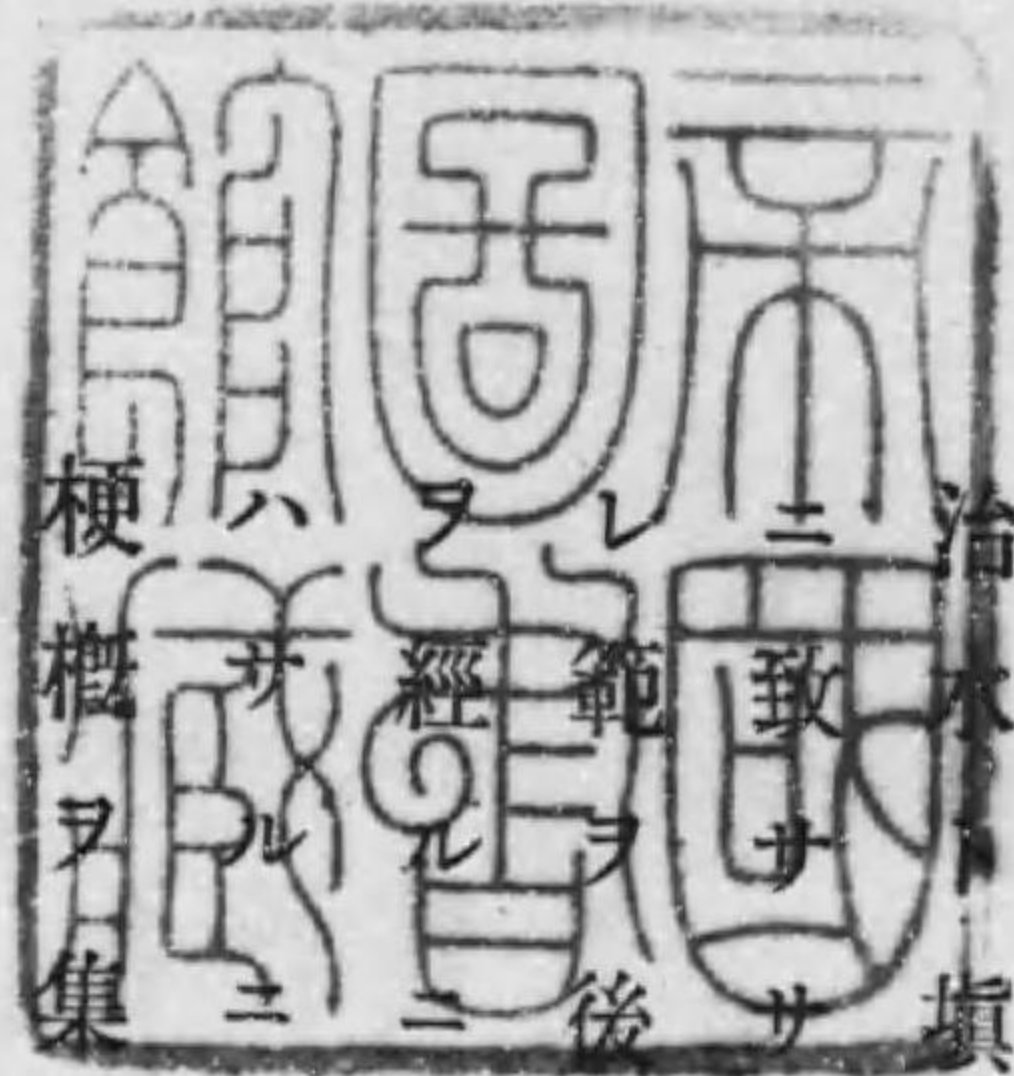
始



治水及填築

(明治以後)

內務省土木局



序言

築トハ民生休戚ノ繫ル所爲政者常ニ思
 ルナシ殊ニ明治維新以後此種事業盛ニ
 世ニ貽スニ足ルモノ尠カラスト雖漸
 從ヒ舊記散逸シ當時苦心ノ跡ヲ窺フ
 至ルヘキヲ惧ル茲ニ其ノ主要ナルモ
 録シテ爲政者ノ參考ニ資セムトス

大正十一年七月

内務省土木局





六五十一

明治二十一年



治水及填築 (明治以後)

目次

○治水

東京府	一頁
(一) 神田堀及新川開鑿工事	一
(二) 隅田川口改良第一期工事	一
(三) 洲崎辨天町護岸堤防復舊工事	二
(四) 多摩川治水工事	二
京都府	三
(一) 京都疏水工事	三
(二) 久世外二村惡水路ノ鑿開	五
(三) 桶越川擴鑿	六
(四) 由良川筋水害豫防組合ノ事	六

大阪府

- (一) 神崎川上流及融川ノ治水工事 六
- (二) 堤防防禦規則ノ制定 七

神奈川縣

- (一) 酒匂川改修工事 七
- (二) 九十間堤、錢座堤、中土手堤新設ノ事 八
- (三) 酒匂川及狩川河口導水工事 八

兵庫縣

- (一) 生田川堤防工事 九
- (二) 生田川附替工事 九
- (三) 兵庫新川開鑿工事 一〇
- (四) 兵庫運河開鑿工事 一一
- (五) 湊川附替工事 一二
- (六) 武庫川上流運河開鑿工事 一五

新潟縣

- (七) 三原川河口突堤工事 一六
- (八) 揖保川護岸工事 一六
- (九) 千種川改修工事 一六
- (一〇) 赤穂町水害豫防方法ノ事 一七
- (二) 圓山川河口杭出工事 一七
- (三) 染河内川改修工事 一八

埼玉縣

- (一) 大河津分水工事 一八
- (二) 信濃川改修工事 一九
- (三) 信濃川筋制水其他ノ工事 二〇
- (四) 五十嵐川築堤及排水 二一
- (五) 大面組郷内惡水排除工事 二二
- (六) 荒川筋大津村地先河身改修工事 二二
- (七) 阿賀野川制水工事 二三

群馬縣	(一)	萬平出シノ事	二二
	(二)	上谷沼新田ノ排水路工事	二四
	(三)	庄内古川堰枠及門樋工事	二四
	(四)	行幸堤新設工事	二五
	(五)	江戸川新堤工事	二五
	(六)	熊谷堤修築工事	二六
	(七)	大里郡ノ縣費築堤工事	二七
	(八)	吉見堤修築工事	二七
	(九)	萬吉堤修築工事	二八
	(一〇)	長池址ノ事	二八
	(一一)	荒川北縁堤防組合ノ事	二九
群馬縣	(一)	榛名湖疏水工事	三〇
	(二)	天狗岩堰水路改修工事	三〇
千葉縣			三一

茨城縣	(一)	小野川疏鑿工事	三一
	(二)	利根運河開鑿工事	三一
	(三)	坂川排水工事	三三
	(四)	水害豫防ニ關スル規則制定	三三
茨城縣	(一)	久慈川河口工事	三四
	(二)	久慈川築堤護岸工事	三四
	(三)	那珂川河口工事	三五
	(四)	那珂川河岸缺留工事	三六
	(五)	勘十堀締切工事	三六
	(六)	飯沼川治水工事	三七
栃木縣	(一)	那珂川筋小川及箒川筋淨法寺護岸工事	三九
	(二)	鬼怒川分流逆木治水工事	三九
奈良縣			四二

(一)	大和川航路改良工事	四二
(二)	葛下川改修工事	四三
(三)	水防規定發布	四四
三 重 縣		
(一)	上之輪新田切上工事	四四
(二)	壬生野村修堤工事	四五
(三)	宮川派川締切工事	四六
(四)	宮川上流開鑿工事	四六
(五)	佐奈川水害豫防組合ノ事	四七
(六)	堤防保護規則ノ制定	四七
愛 知 縣		
(一)	黒川開鑿工事	四八
(二)	入鹿溜池重修工事	四九
(三)	木津用水改良工事	五一
(四)	鵜戸川惡水路改修工事	五二

靜

(五)	兩國輪中改修工事	五五
(六)	味碗洗堰修築工事	五六
(七)	庄内川通船開始ノ事	五七
(八)	矢作川上流航路開鑿工事	五八
(九)	矢作川流域三河國三郡輪中治水事蹟	五九
(一〇)	幡豆郡ノ三工事	六六
(二)	半田汐留圪工事	六六
(三)	豊川舊堤防ノ得失	六七
(三)	豊川河口ノ狭窄	六九
岡 縣		
(一)	蒲原運河開鑿工事	七〇
(二)	富士川改修工事及其ノ效果	七〇
(三)	治河協力社ノ事	七三
(四)	天龍川改修工事	七四
(五)	天龍川水防組合ノ事	七六

	(六)	社山疏水事業ノ蹉跌	七八
	(七)	大井川改修工事	八一
	(八)	木屋川航路ノ事	八二
	(九)	大井川水防組合ノ事	八三
	(一〇)	狩野川航路ノ事	八四
山		梨 縣	八五
	(一)	戸、小柳、鹽三川改修工事	八五
	(二)	富士川改修工事	八六
	(三)	直轄工事トシテノ富士川改修	八七
滋		賀 縣	八八
	(一)	瀬田川浚渫工事	八八
	(二)	深澤疏水工事及小南築堤工事	八八
岐		阜 縣	八九
	(一)	油島新田地先喰違洗堰水量ニ關シ輪中間ノ爭議	八九

	(二)	板屋川堤防修繕ニ關スル紛議	八九
	(三)	明治維新後堤防ノ築設	九〇
	(四)	鶉外六箇村惡水排除工事	九一
	(五)	足近輪中石造閘門工事	九一
	(六)	官費補助伏替ヲ爲セシ逆水留門樋工事三件	九一
	(七)	水防規定ノ事	九三
長		野 縣	九四
	(一)	千曲川掘割工事	九四
	(二)	千曲川屈曲部改修工事	九五
	(三)	天龍川築堤工事	九五
宮		城 縣	九六
	(一)	貞山運河ノ事	九六
	(二)	名取川及廣瀬川粗朶工事	九八
	(三)	鳴瀬川流域粗朶工事 附 多田川改修工事	九八
	(四)	北上、東名兩運河工事 附 野蒜築港	九九

(五)	鳴瀬川河狀變遷ノ事	一〇四
(六)	田貝堤防修築工事	一〇五
(七)	阿武隈川水制工事	一〇五
(八)	阿武隈川河口改修工事	一〇六
(九)	北上川低水工事ノ概況 <small>(岩手縣併叙)</small>	一〇六
(一〇)	北上川流域漕運會社設立ノ事 <small>(岩手縣併叙)</small>	一〇八
(二)	北上川水防ノ事	一一〇
福島縣		
(一)	猪苗代湖疏水工事	一一一
(二)	長瀬川河身改修工事	一一六
(三)	阿賀川航路改修工事	一一六
(四)	阿武隈川治水工事	一一七
青森縣		
(一)	相坂川護岸工事	一一八
(二)	岩木川河口改修工事中止	一一八

山形縣

(一)	馬見ヶ崎川坊城堤ノ事	一一九
(二)	馬見ヶ崎川堤防改築工事	一一九
(三)	寒河江川治水工事	一二〇
(四)	赤川修築工事	一二一
(五)	最上川及赤川低水工事ノ成績	一二一

秋田縣

(一)	米代川筋改修工事	一二三
(二)	米代川筋能代地先流路修築工事	一二四
(三)	子吉川航路改善ノ事	一二四
(四)	子吉川筋掘替工事	一二五
(五)	子吉川新河口維持工事	一二五

福井縣

(一)	三國町九頭龍川派川締切工事 附 阪井港ノ修築	一二五
-----	------------------------	-----

(二)	九頭龍川堤防増設ノ事	一三〇
(三)	九頭龍及足羽二川ノ沈床工事	一三一
(四)	春江堤防築造工事	一三一
(五)	眞名川流域堤防工事	一三二
(六)	水害豫防組合ノ事	一三三
石川縣		
(一)	淺野川水害豫防組合ノ事	一三三
(二)	犀川水害豫防組合ノ事	一三三
(三)	手取川水防方法ノ事	一三四
富山縣		
(一)	十二町潟排水工事	一三四
(二)	常願寺川水害豫防組合ノ事	一三四
(三)	常願寺川改修工事	一三五
(四)	神通川下流改修工事	一三六
(五)	庄川改修工事	一三六

鳥取縣		
(一)	天神川流域水害豫防組合ノ事	一三七
(二)	日野川航路開鑿不結果ノ事	一三七
(三)	日野川流域水害豫防組合ノ事	一三八
(四)	千代川河口改良工事	一三八
島根縣		
(一)	水防規則ノ事	一三八
(二)	神戸川水害豫防組合ノ事	一三九
(三)	斐伊川流域水防組合ノ事	一三九
岡山縣		
(一)	吉井川制水及復築工事	一四〇
(二)	旭川低水工事	一四〇
(三)	砂川水防組合ノ事	一四一
(四)	足守川堤防組合ノ事	一四一

(五)	高梁川改修工事	一四二
(六)	高梁川流域航路改良工事	一四四
(七)	高梁川本流及派川西高梁川水防組合ノ事	一四五
廣島縣		
(一)	蘆田川末流淤塞ノ狀況	一四五
(二)	天井川筋水防組合ノ事	一四七
(三)	太田川流末淤塞ノ狀況	一四七
山口縣		
(一)	錦川航路開鑿工事	一四八
(二)	榎野川改修工事	一四八
(三)	榎野川改修組合ノ事	一四九
和歌山縣		
(一)	西牟婁郡水害復舊工事	一五〇
(二)	彦、五郎堤改築工事	一五〇

(三)	日置、富田、會津三川改修工事	一五一
(四)	瀬田川治水工事	一五二
(五)	日高川堤防引設ノ事	一五二
(六)	日高川航路改良工事	一五三
(七)	紀ノ川河口天然ノ浚渫	一五三
(八)	紀ノ川水害豫防組合ノ事	一五四
徳島縣		
(一)	第十堰増築工事	一五五
(二)	吉野川改修工事	一五五
(三)	別宮川堤防工事ヲ目的トセル水利組合ノ事	一五六

高知縣		
(一)	仁淀川下流水害豫防工事不成立	一五七
(二)	渡川航路浚渫料徴收ノ事	一五七
福岡縣		

(一)	矢部川改修工事	一五七
(二)	礦業組合及鑛業組合ノ遠賀川流域浚渫ノ事	一五八
(三)	遠賀川河口突堤工事	一五九
(四)	築上郡ニ於ケル河川改修ト記念造林	一五九
大分縣		一六〇
(一)	廣瀬高森兩用水路工事	一六〇
(二)	大野川上流航路ノ廢止	一六三
佐賀縣		一六四
(一)	牛津川航路開鑿工事	一六四
熊本縣		一六四
(一)	石卷堤防修築工事	一六四
(二)	綠川流域水防組合ノ事	一六六
(三)	石塘水害豫防組合ノ事	一六六
(四)	薄場石堰築造ノ事	一六七

宮崎縣

(五)	氷川水害豫防組合ノ事	一六八
(六)	球磨川航路取締及右支川邊川航路開鑿ノ事	一六八
宮崎縣		一六九
(一)	五箇瀬川上流ノ航路開鑿	一六九
(二)	美々津川上流ノ航路開鑿	一六九
(三)	美々津川河口ノ水制工事	一七〇
(四)	大淀川中流ノ航路開鑿	一七一
(五)	本庄川堤防工事	一七二
鹿兒島縣		一七二
(一)	川内川河身改修工事	一七二
北海道廳		一七三
(一)	開拓使時代ノ堤防工事	一七三
(二)	開拓使時代ニ於ケル石狩川河口開鑿工事	一七四
(三)	谷地排水工事	一七五

(四) 龜田川附替工事 一七五

(五) 石狩川下流ニ於ケル河岸原生林ノ保護及柳樹栽植 一七六

(六) 染退川治水工事 一七七

附 一七八

砂防 一七八

奈良縣

(一) 葛城川流域砂防工事 一七八

愛知縣及岐阜縣

(一) 庄内川流域山地ノ荒廢 一七九

(二) 庄内川流域山林取締方法ノ事 一八〇

(三) 庄内川治水ノ根本策 一八一

(五) 矢作川治水ノ急務ハ治山ニ在ル事 一八一

富山縣

(一) 庄川流域砂防工事 一八二

岡山縣

(一) 高梁川砂防工事 一八三

(二) 高梁川流域砂防工成績 一八三

(三) 砂川流域砂防工成績 一八四

(四) 足守川流域砂防工成績 一八五

(五) 旭川流域砂防工成績 一八五

廣島縣

(一) 堂々谷砂防工事 一八六

徳島縣

(一) 吉野川流域砂防ノ事 一八七

○ 填 築

東京府

(一) 東京市ノ埋立工事 一八八

兵庫縣

- (一) 辨天濱港灣埋立工事 一九〇
 - (二) 辨天濱埋立工事 一九一
 - (三) 西出町及和田岬海面埋立工事 一九一
 - (四) 高濱埋立工事 一九二
 - (五) 川崎造船所海面埋立工事 一九二
- 長崎縣 一九三
- (一) 山田、愛野兩村地先海面ノ埋立 一九三
- 愛知縣 一九三
- (一) 滌美郡地先海面埋立工事 附 牟呂用水ノ事 一九三
- 山口縣 一九六
- (一) 千歲濱築立工事 一九六
- 福岡縣 一九六
- (一) 折尾村本城海面埋立工事 一九六

北海道廳

- (二) 黒崎町海面埋立工事 一九七
- (一) 開拓使時代ニ於ケル埋立工事 一九七
- (二) 開拓使時代以後ニ於ケル埋立工事 一九九

治水及填築 (明治以後)

○治水

東京府



(一) 神田堀及新川開鑿工事

明治十七年神田堀ヲ再鑿ス蓋シ江戸市中明暦大火ノ後萬治元年正月鎌倉河岸ヨリ銀町ヲ鑿チ新渠ヲ設ケ馬喰町ニ至リ濱町堀ニ通シ其土ヲ以テ堤ヲ南岸ニ築キ以テ防火ノ用ト爲シカ安政四年堤ヲ崩シテ之ヲ埋メ市店ヲ開キシテ是歲再ヒ之ヲ開鑿ス即チ今ノ神田堀是ナリ又明治三十五年新川ヲ開鑿ス即チ神田川口新渠ヲ穿テテ堀留川ニ達シ以テ外濠ニ通スルモノ是ナリ

(二) 隅田川口改良第一期工事

本工事ノ目的ハ永代橋以下ニ於ケル隅田川口航路ノ浚深ニ在リ其ノ改良ノ程度ハ水深ヲ大潮干潮平均水面以下十二尺トシ永代橋以下成ル可ク現在ノ落筋ニ從ヒテ砲臺外ニ於ケル水深十二尺ノ線ニ達セシム此浚深區域延長五千二百五十間ニシテ幅員ハ金杉沖以下ヲ五十間同所以上永代橋ニ至ル迄ヲ七十間ノ函堀トス是レ後者ハ單ニ航路ノ外船舶碇泊ノ餘地アラシムルノ必要アルヲ以テナリ

二
浚深ヨリ生ヌル土砂ハ之ヲ埋立ニ利用シ以テ本工事ノ財源ヲ作レリ浚深土量合計四十五萬三千七十八坪餘ニシテ埋立地竣功總面積十二萬八千五百三十二坪餘ナリトス尙外ニ工事ノ末期ニ於テ豫定面積二萬九千七百坪ノ第五號埋立地ヲ計畫シ明治四十四年七月二十三日ヲ以テ所要土量ノ約二分ノ一(土量四萬坪)ヲ埋築スルヲ得タリ之カ殘坪ハ第二期工事ニ於テ竣功セシムル豫定トス蓋シ本第一期工事ハ明治三十九年十二月二十一日著手シ同四十四年七月二十三日竣功セリ工費豫算額貳百五十九萬八千七百拾七圓餘ニシテ實施額貳百四拾九萬壹千六百六拾九圓餘ナリ

(三) 洲崎辨天町護岸堤防復舊工事

本護岸並堤防ハ去ル明治廿年ノ築造ニ係リ同三年六月及九月兩度ノ暴風雨ニ際シ大破ニ至リシヲ以テ翌年五月改築工事ヲ施行セリ然ルニ四十四年七月廿六日突如海嘯ノ襲來ヲ受ケ南海岸堤防及護岸石垣ノ殆ト全部ヲ破壊セラレ悲慘ナル大災害ヲ廓内ニ加フルニ至レリ依テ同年七月廿九日市會ノ決定ヲ經之カ復舊ニ際シ一層工事ノ堅牢ヲ期スルカ爲メ從來ノ構造ヲ改メ且ツ海嘯當時ノ水位十三尺三寸ニ上リシヲ以テ堤防馬踏高ヲ十五尺五寸トシ舊堤防ヨリ一尺五寸ヲ高メタリ其工費ハ護岸石垣復舊費金七千貳百圓堤防復舊費金參萬圓計金參萬七千貳百圓ニシテ同年十月三日起工以來銳意工ヲ進メ翌四十五年二月四日ヲ以テ竣功セリ

(四) 多摩川治水工事

本川ハ羽村堰以下點々堤防ノ設アリ斷續一定セス其下流中丸子(神奈川縣橋樹郡)以下双岸堤防並趨シテ海岸防波堤ニ連ナルモノハ元ト現形ノ半ニ達セサル小堤ナリシヲ明治三十年以前増築シテ完全ナルモノト爲セリ又缺留工事ハ多ク明治二十三年ノ洪水以後ノ築造ニ係ルモノニシテ其ノ主要ナルモノハ西多摩郡熊川村、北多摩郡福島、立川、谷保、上、下石原ノ各村、南多摩郡小宮村大字北平、多摩村大字關戸及橋樹郡(神奈川縣)稻田村大字菅、大師河原村大字河原等ノ地先ニシテ何レモ粗朶工事ヲ施行セリ右地先ノ外ハ專ラ蛇籠ヲ用ヒタルカ舊來ハ平水位ヨリ凡六尺以上ノ高サニ施行セルモ其ノ不良ナルヲ認メ何レモ粗朶水制ノ如ク平水位ニ布設セシカハ著シク砂利洲ヲ生セシメ又從來ノ締切法ヲ變更シ務メテ平水面ニ布設シタルカ爲メ速ニ枝流ノ埋塞ヲ來セルカ如キ殆ト粗朶工事ト同様ノ結果ヲ得タリ

京都府

(一) 京都疏水工事

京都疏水ハ琵琶湖畔大津三保崎ヲ起點トシ委蛇曲直洞ニ入り堤ニ倚リ以テ京都市ニ至ル著名ナル工事ニシテ當時ノ府尹北垣國道大ニ舊都ノ衰頹ヲ憂ヒ之カ挽回ノ策トシテ施設セシ一大事業ナリ其ノ齎ラスヘキ效果ヲ擧クレハ水力ヲ利用シ工作製造ノ方法ヲ改良スル其一ナリ水利ヲ開通シテ舟楫ノ便ヲ興コシ運輸ノ業ヲ盛ナラシムル其二ナリ宇治、紀伊、愛宕、葛野四郡灌溉ノ不足ヲ補ヒ旱涸ノ患害ヲ防ク

其三ナリ各所ニ水車ヲ設ケ精米其他ノ用ヲ起ス其四ナリ縦横市街ニ給引シテ井水ノ缺乏ヲ充タシ或ハ
 火災ノ消防ニ供スル其五ナリ下水ヲ洗滌シテ汚濁ヲ除キ衛生ノ利ヲ舉タル等其六ナリ是ヲ以テ明治十
 四年四月東湖岸ト西京都小川頭ニ至ルノ平面高低ヲ測ルニ百四十尺餘ノ落差アリテ愈水力ノ利用完全
 ナルヲ確認シ十六年十月英斷以テ聯合區會ニ謀リシニ大ニ此ノ有利ナル事業ヲ賛成シ六拾萬圓ノ支出
 ヲ可決セリ於是詳ニ之ヲ内務省ニ具申シ其許可ヲ乞フニ至リシカ同省ノ所見ト相去ルコト遠ク更ニ六
 拾五萬圓ヲ増加シ百廿五萬圓ノ巨額ヲ要ス乃チ再ヒ之ヲ區會ニ諮問セシニ即日全會一致以テ速ニ起工
 ノ議ヲ可決セリ然ルニ上流滋賀縣下流大阪府ハ疏水ノ及ホス影響ヲ不利ナリトシ之ヲ當路ニ申請スル
 所アリタレハ不幸中途ニシテ或ハ阻止セラレンコトヲ憂ヒシカ兩府縣ニ對スル水防工費ヲ補償スルノ
 提議ヲ以テ圓滿ノ解決ヲ得タリ遂ニ十八年一月廿九日起工特許ト共ニ國庫ハ拾五萬圓ヲ補助ス府亦勸
 業費ヨリ拾五萬圓ヲ補助シ上下京兩區恩賜產業基金參拾九萬餘圓ヲ加ヘ殘額五拾六萬圓ヲ以テ市民
 ノ負擔ニ歸セリ於是同年三月疏水事務所ヲ府内ニ設ケ所長及諸員ヲ置キ日ニ起工準備ヲ爲シ、カ漸ク
 十九年三月十八日ニ至リ工ヲ起シ廿一年十月工師田邊朔郎及府民總代高木文平ヲ米國ニ派遣シ水力使
 用ノ方法及ヒ器械運轉ノ實況等ヲ調査セシメ其得ル所ニ依リテ大ニ此工ヲ董督シ遂ニ廿三年三月卅一
 日ヲ以テ略功ヲ竣レリ四月聖駕臨幸竣功式ヲ舉ケサセ給フ本府ノ光榮何物カ之ニ過キン抑モ琵琶湖疏鑿
 ノ利ハ昔人既ニ之ヲ唱道セルアリ南禪寺知恩院等ニ其設計ヲ描ケル舊圖アリト云フ之ニ據レハ大津ヨ

リ南禪寺マテ直徑三千四百間ニ過キヌ又天保中其費用ヲ金貳拾萬兩ト概算セルモノアリキ這次ノ功程
 ハ前ニ記スル如ク三保崎ニ起リ長等山ヲ鑿ツコト一千三百餘間宇治郡山科村ニ導キ御陵山ヲ穿ツコト
 七十間日岡峠(粟田山)ヲ穿ツコト四百七十間粟田口蹴上ニ於テ之ヲ岐分シ幹線ハ此ニ傾斜ヲ爲シ水壓
 動力ヲ生ス市中ニ供スル各種電力ノ給與所ナリ支線ハ北折シ南禪寺ノ後ヨリ高キニ傍ヒテ意如嶽神樂
 岡ヲ繞リ高野加茂二川ノ底ヲ橫斷シ上京區小川ニ出テ市中ノ給水源ト爲ル而シテ幹線ハ又京都ト大津
 間ノ運渠ノ用ニ供セラレ二百餘艘ノ荷船、客船ヲ備ヘ機力ニ由リテ傾斜ヲ上下シ琵琶湖ト鴨水ノ間ヲ往
 來ス延長六千一百餘間ナリ剩水ハ更ニ鴨河ニ沿フテ南ニ導キ伏見町ニ通スル新運河ト爲ル工事ノ完ク
 成リシハ廿七年八月ニシテ實ニ九星霜ヲ經タリ費ス所豫算ヲ超過シ百參拾九萬圓ニ上レリ偉哉其ノ成
 績能ク輿望ヲ充タシ府民其便ヲ得テ其利ニ浴スル最モ大ニシテ舊都ノ繁榮ヲ維持スルニ足レリト云フ

(一) 久世外二村惡水路ノ鑿開

乙訓郡(山城)久世、久我、羽束師諸村ハ桂川沿岸ノ地ナルヲ以テ惡水停滯セルモ久世村字大藪ノ排水
 樋門ハ世俗論場ト稱セラレ隣村トノ爭絶エヌ實績舉ラサルヲ以テ川島庄兵衛、井上藤次郎、永田徳兵
 衛、布施九郎左衛門、金谷傳左衛門、三輪善九郎ノ六名排水路ノ鑿開ヲ計畫シ明治五年官ニ請テ實測シ
 七年三月工ヲ起シ翌八年十月功ヲ竣ル即チ久世村字大藪ヨリ字築山ヲ經テ桂川堤防ニ樋門ヲ設ケ久我
 村字島敷ニ至ル延長實ニ千八百間ナリ之ニ依リテ從來ノ論爭ハ地ヲ掃ヒ沿岸五百町歩ノ田畑宅地ハ被

害ヲ免ル、ニ至リ村民恩澤ヲ頌シテ止マスト云フ

(三) 樋越川 擴鑿

竹野郡(丹後)網野ノ樋越川ハ延寶年間湖口小左衛門、足達久兵衛、平山治右衛門、離湖氾濫ノ害ヲ除カンカ爲メ暗渠ヲ鑿チテ湖水ヲ海ニ疏注セントシ工ヲ起シ三年ニシテ成ル長三百十有間高三尺五寸廣三尺ヲ有ス蓋シ樋越トハ伏管通水ノ謂ナリ爲メニ田圃水害ヲ免ル、モノ十五町新ニ開墾セルモノ十七町ナリシト云フ明治十八年ニ至リ久兵衛ノ遠裔又八郎等渠路擴鑿ヲ企テ官ニ請ヒ地方稅補助ヲ得九月工ヲ起シ翌年五月功ヲ竣ル即チ廣ヲ六尺トシ磬石二百十間鑿石百八十四間工費參千九拾四圓ヲ要シ村民身ヲ以テ役ヲ助クルモノ一千餘ニシテ工事ノ結果田圃害ヲ免ル、モノ三十七町ニ上レリ

(四) 由良川筋水害豫防組合ノ事

明治二十五年三月由良川筋何鹿郡以久田村位田、綾部町綾部、青野、井倉、中筋村岡、延ノ各大字聯合シテ一ノ水害豫防組合ヲ設ク即チ堤防護岸防禦ヲ以テ目的ト爲セルモノナリ

大阪府

(一) 神崎川上流及岫川ノ治水工事

明治十一年神崎川上流北ハ今ノ三島郡味生村、味舌村、岸部村、吹田町南ハ西成郡大道村、中島村間

ニ於ケル曲流ノ附換アリ明年又岫川ノ開鑿アリ是等ノ工事ハ素ヨリ灌溉ノ利漕運ノ便ヲ得ルニ在リタレトモ其主因ハ寧ロ洪水ノ危險ヲ少カラシメ若クハ全ク之ヲ免レントスルニ存セシナリ然レトモ其施工ハ或ル一局部ニ限ラレシモノ多クシテ其效果年ヲ經ルニ隨ヒテ減殺シ或ハ瀉心ヲ移シ壤洲ヲ生シ或ハ泥沙ヲ沈メテ河床ヲ淺ウシ氾濫ノ害漸ク復タ舊ノ如クナレリ

(二) 堤防防禦規則ノ制定

淀川沿岸ハ平遠開豁沃土多ク隨テ堤防保護ノ責任亦最モ重大ナリ然ルニ從來町村ノ適宜組合ヲ設ケ水防ノ方法ヲ定メタルモノ其制畫一ニ出テス緩急事ヲ誤ランコトヲ慮リ府ハ明治十九年二月ヲ以テ堤防防禦規則ヲ發布セリ即チ堤防ノ洪水防禦ハ堤防所屬及關係町村組合ヲ設ケテ之ヲ負擔シ受持區域ハ標木ヲ建テ之ヲ示シ常ニ杭木、空俵、鐵其他水防ニ必要ナル諸品ヲ最密便宜ノ場所ニ備置キ出水ノ多少緩急ニ應シ相當ノ手配ヲ爲スヘキ事等ヲ規定セルモノナリ

神奈川縣

(一) 酒匂川改修工事

酒匂川ハ急流ニシテ古來沿岸ノ被害尠カラス依テ明治二十年足柄上郡川村以下河口ニ至ル約六里間ノ内水災甚シキ部分ノ平面測量ヲ爲シ漸次粗朶工ニ據リ河身ヲ改修シ護岸ヲ完全ナラシメントセリ爾來

實測ノ結果ニ依リ施工シ著シキ改良ヲ爲スヲ得タリ但シ測量ノ區域ハ左右沿岸堤塘ノ位置ヲ包含スルニ止マレリ

(二) 九十間堤錢座堤中土手堤新設ノ事

九十間(數凡十一間馬踏四間高一丈一尺延長二百三十二間) 錢座(數凡七間半馬踏二間高一丈一尺延長八十七間) 中土手(數凡十三間半馬踏六間半高一丈一尺延長四百八十間) ノ三堤ハ足柄上郡吉田島村ニ在リ明治十七年同村下部及水下十八箇村協議ヲ以テ酒匂川水防ノ爲メ同十八年ニ起工シ二十四年十一月ニ至リ竣功ス其工費額貳萬六千六百拾參圓餘ノ内七分ハ官費ヲ以テシ三分ハ右十九箇村ノ支出トセリ蓋シ築堤ノ結果ハ其效頗ル顯著ナリト云フ

(三) 酒匂川及狩川河口導水工事

酒匂川河口ハ大洋ニ面スルヲ以テ時々暴風激浪ノ爲メニ砂礫ヲ打揚ケ河口ヲ填塞シテ流路ヲ妨タルコト甚タ少カラス明治二十九年五月中斯ノ災害ニ遭遇シ河口全ク壅塞シ河水沮滯シ遂ニ流路ハ海濱ニ沿ヒ左折千餘間ノ長キニ亘リテ缺出シ足柄下郡酒匂村ノ一部氾濫ノ害ヲ被ムレリ依テ縣ハ堆砂ヲ鑿開シ相當ノ導水工事ヲ施スニ際シ會マ出水アリ流勢衝至自ラ堆砂ヲ破テ海ニ出テ遂ニ恰好ノ形狀ニ復セシコトアリト云フ

又右支狩川河口ノ水面ハ幹川酒匂ニ比スルニ低クシテ平時尙三尺ノ差アリ故ニ出水ニ際シテハ幹川ノ水量多キカ爲メ其橫壓スル所トナリテ全ク流下ヲ妨ケラレ遂ニ河口ニ湛エテ上流ニ溢レ沿岸ノ民其害

ニ苦ム故ヲ以テ會流ノ一角地達摩尻(字名)ニ導水堤長四十間ヲ設置シ平時並ニ洪水時ノ河水疏導ノ用ニ供ス

兵庫縣

(一) 生田川堤防工事

明治二年四月此時ニ方リテ神戸生田川堤防未タ全ク堅固ナラス而シテ河身流砂ノ堆積ヲ見ル依テ川床堀浚千二百二間水勿筈百十六箇所(此費金千六拾四兩餘)掘根圍延長二千十五間竝堤腹附嵩置(此人足千五百五十七人)ノ修築アリ沿河ノ諸村各持場ヲ定メテ此役ヲ助ク六月復タ損所ヲ修繕シ貳百八兩餘ヲ費消ス漲溢ノ患年トシテ之レナキハナシ是ニ於テ同四年河身附替ノ舉アリ

(二) 生田川附替工事

神戸海岸石垣築造ニ前後シテ著手サレシハ生田川流路移轉ノ土工ナリ即チ八部郡ノ東界生田川ノ流路ヲ東ニ移シ菟原郡熊内村字馬淵ヨリ同郡脇濱村地先字小野濱海岸ニ注カシメ多年暴漲ノ患ヲ除カント欲スル者ニシテ河線ノ西岸ハ外國人居留地ニ界ス依テ明治四年二月縣廳ハ辨官ニ上申シテ工事ハ土木司ニ命セラレ村人足等ニテ成功セシムルヲ得策トスト縷陳セシニ聽許セラレ豫算金四萬參千八百貳拾八兩餘ノ認可指令アリ是ニ於テ三月十日土工ニ著手シ清算金參萬六百七拾貳兩餘ヲ以テ六月九日竣功

セリ斯クテ新川竣功後其舊川ノ積地ヲ測量シテ十七畫ト爲シ之カ賣却ハ入札ニ附セシニ加納某第二番落札ナリシモ第一番落札有本某ト協議ノ上總地所ヲ共有スルニ決シ開發工事ニ著手セシニ明治八年ニ至リテ全ク市街ト爲ル今ノ加納町是ナリ

(三) 兵庫新川開鑿工事

新川開鑿ハ兵庫區長神田兵右衛門ニ依リテ企テラレ築島島ノ上町ヨリ稍西南へ彎曲シテ今出在家町ヲ貫キ新渠ヲ疏通シテ船舶碇泊場ト爲シ和田岬迂回ノ不便ヲ免レシメントスルモノニシテ此目論見ヲ以テ屢縣廳ニ上陳シ猶兵庫津ノ町會所賦金(現今ノ營業稅ノ如キモノ)貳萬五千圓ノ縣廳ニ保管セラル、モノヲ新川疏鑿ノ費用ニ充テントコトヲ主張セシカ明治七年二月三日縣廳ハ少屬石川季遠外一名ヲ新川開鑿掛ニ命シ河幅ヲ十五間ト爲シ兩側屋敷地道式共都合九十九間ノ地所ヲ買上ケ建家ハ引移料ヲ支給スル所アルヘシトノ布告ヲ發セリ是時ニ方リ神戸商人島田組島田重五郎ハ營利ノ目的ヲ以テ此事業ニ加入セント欲シ縣廳ニ申込ミシカハ縣廳ニ於テハ兵庫ノ發起人等ト協議セシメ會社組織ノ一團ト爲シテ其功ヲ遂ケシメントセリ而シテ賦金貳萬五千圓以外ノ工費ハ重五郎引受ニテ支出供給スヘシトノコトニテ同年七月ニ至リ工事請負入札ヲ行フ疏鑿線路ノ延長二百四十八間疏川ノ深サ千潮時六尺石垣ノ高サ河底ヨリ直立一丈一尺ノ設計ニシテ此工費壹萬壹千六百六拾貳圓餘ヲ以テ大阪堂島成田梅吉ニ落札シ同月十一日ヨリ工事ニ著手セリ尙堀鑿ニ因リテ生スル土砂ヲ以テ島上町、匠町、松屋町、鍛冶屋町、宮前町、

川崎町等海岸延長二百五十間幅二十二間地坪六千五百五十一坪ノ地ヲ築造スルノ許可ヲ得タリ又此大土木ヲ起セシ所以ハ全ク公益ノ一點ヨリ發起セシ者ナレハ今島田組ノ營利ヲ目的トスル者施工ノ首ニ立テルハ世人ノ指目スル所專ラ營利事業タルノ感ヲ抱クノ嫌アリ是ニ於テ神田兵右衛門ハ地方名望家ノ入社ヲ促シ川邊郡伊丹町ノ小西新右衛門、兵庫ノ北風莊右衛門ヲ加ヘ北風ハ五千圓小西ハ壹萬五千圓既記兵庫町會所賦金貳萬五千圓ト共ニ四萬五千圓以上ノ工費ハ悉皆島田重五郎ニ於テ出金スルノ約ヲ結フ工事ハ八年五月ニ至リ始メテ成功セリ此工成ルヤ兵庫泊船場ノ形勢ハ往日ト其趣ヲ一變セリ元來兵庫港ハ東北ニ面シ南方一圓ハ砂灘ニシテ船舶ノ風難ヲ避クルニ便ナラサルナリ故ニ東南風ノ爲メニ沈没或ハ破損ノ被害年々其幾何ナルヲ知ラス今新川開鑿ノ大工事成リテ後年永ク其惠ニ賴ル工費精算金拾貳萬六千九百八拾四圓餘内參萬千六百拾壹圓餘ハ各町買上地代、六萬七千六百貳拾七圓餘ハ土木諸費其他ハ舊建家取除料並借家人立退料等ナリ

(因ニ云フ、工費資本金四萬五千圓ノ外ハ島田組ニ於テ負擔出資ノ約ナリシニ明治七年島田組ノ破産スルヤ資金忽チ支出ノ途ヲ失ヒタレハ是ニ於テ神田兵右衛門等頗ル苦心ス此時八部郡御影村嘉納治郎右衛門、島田八郎助代理ノ名義ヲ以テ其後ヲ繼ク而シテ新川社中ハ北風、小西、嘉納ノ外藤田善右衛門、前田徳左衛門ヲ加フ)

(四) 兵庫運河開鑿工事

八部郡林田村ノ海濱ヨリ兵庫南逆瀬川町新川ニ達スル迄運河ヲ開キ船舶ヲシテ兵庫港口和田岬ノ風濤激潮ノ危難ヲ避ケシメ通過ノ船舶ヨル通船料ヲ徵收シ又運河沿岸ノ地ヲ修理シテ宅地ト爲シ以テ貸地代ヲ利セントスル目的ヲ以テ兵庫運河株式會社ナルモノ設立サル資本金參拾五萬圓ナリ會社發起人ハ武井守正、近藤薰、谷勘兵衛、藻川豊三郎等ニシテ明治二十二年以來專ラ運河ノ計畫ニ盡力シ終ニ起工スルニ至ラシメタルハ池本文太郎ノ功多キニ依ル（最初文太郎及南佐兵衛、八尾善四郎等ノ計畫ニ起因ス）明治二十九年一月三十日運河起工式ヲ舉行ス即チ前記林田村大字東尻池村地内ノ海岸ニ起リテ兵庫新川ニ達スルモノヲ本線トシ山陽鐵道兵庫停車場附近ニ起リテ南ノ方本線ニ達スルモノヲ支線トス本支線分岐スル所ト支線ノ起頭トニ船溜ヲ設ク兵庫新川口ヨリ船溜迄長五百九十三間七分五厘深千潮面以下六尺敷二十間石垣ハ左右五分法ニ河底一尺掘込ムモノトス又本支線分岐ノ所ノ三角形船溜ハ面積二萬五千五百七十三坪餘ニシテ支線起頭ノ船溜ハ敷長三十間幅五十間ナリ又本支線船溜護岸及物揚場石垣延長三千七十五間トス以上工費貳拾壹萬六千四百圓潰地代金拾參萬四千四百圓道路築造家屋土藏移築費五千圓合計參拾五萬圓ハ資本全部ヲ充當セントスルモノニシテ將ニ三十一年ヲ以テ竣功シ幾多ノ船舶ハ無難ノ捷徑ト避難ノ營處ヲ得ヘキナリ

(五) 湊川附替工事

湊川附替工事施行ノ目的ヲ以テ明治三十年八月十日湊川改修株式會社設立サル資本金百萬圓藤井一郎

ヲ社長トス工事設計ハ湊川上流洗心橋ノ上手ニ於テ舊川ヲ締切リ其處ヨリ新川ヲ鑿チ兵庫縣監獄署ノ側面ヲ過キテ斜ニ西南ニ赴キ會下山背後ノ丘陵ヲ隧道ヲ以テ通過セシメ長田神社前八雲橋ノ下手ニ於テ蒲藻川ニ合流シ此河幅ヲ擴張シテ海ニ注カシムルモノトス此新川ノ延長二千四百四十二間五分川床狹キ所九十六尺廣キ所百二十尺堤防狹キ所二間半廣キ所六間ナリ隧道ノ長三百三十間其幅ハ二十四尺ニシテ高二十五尺ノ馬蹄形ト爲サントス新川敷地ニ要スル土地ハ總テ民地ヲ買收セサルヲ得サルナリ而シテ新川開通ノ曉ニ至リナハ舊川敷ハ新町橋ニ至ル迄舊形ヲ保存シ其以下ヲ平地ニ切下ケテ市街地ト爲スモノニシテ之カ爲メニ會社ノ有スル地坪ハ五萬九千九百八十四坪餘ノ見込ナリト云フ尙會社ノ所得ニ屬スヘキ土地ハ舊川尻接續ノ海面ヲ埋立テ總坪凡壹萬ヲ得ヘキナリ工事成功期限ハ三十年八月十日ヨリ向フ二箇年トス工費總額八百貳拾萬五千九百貳拾七圓餘三十一一年十一月二十一日起工式ヲ舉ケタリ抑モ湊川ハ昔ニ其水源ノ淺キノミナラス水源地ノ禿山ナルカ爲ニ平素ハ一滴ノ水流ヲ見サルニ拘ラス降雨苟モ數時間ニ互レハ水流俄ニ汨々トシテ到リ土砂ヲ輸シ來リテ川床ヲ高カラシム斯ノ如キモノ年々ニシテ今ヤ川床ノ平地ヲ拔クコト實ニ二十尺以上ニ及兵神兩市ノ水害ヲ免カレンカ爲ニ一大長堤ヲ以テ兩市街ヲ劃ルニ至リタルハ兩市ノ交通ヲ遮斷スルノミナラス湊川ノ吐出スル所ノ土砂ハ他年神戸港ヲ填埋シテ由々敷大害ヲ醸スニ至ランコトヲ市民ノ常ニ憂慮已マアル所タリ既ニ明治ノ初年ニ於テ兵庫ノ北風正造、藤田積中及神田兵右衛門等ハ湊川流域變更ノ必要ヲ覺リ附替ノ希望ヲ達セン

ト努メタレトモ時機未タ到ラスシテ其目的ヲ遂クルコト能ハサリシナリ明治六年ニ至リ神戸港長ジヨ
ンマルシヤルカ神戸港修築ノ設計ヲ立テシ時ニモ其考案中ニ湊川吐出ノ土砂ノ他日神戸港ノ大害ヲ結
果スヘキヲ明カニシ此避害ノ點ニ關シテハ最モ深キ考慮ヲ運ラセシヲ見ル明治十年ノ頃横濱港修築ノ
議アリ當時神戸港ノ修築亦必要ナリトノ説ヲ唱フル者アリシカ其際神戸港ノ修築ハ須ラク先ツ湊川附
替ヨリ始ムヘシトノ説最モ勢力アリト云フ尋テ十四年ノ頃市民前田文吉ハ兵神兩市街ノ交通ヲ便ナラ
シメンカ爲ニ湊川隧道往還ヲ設ケント發議シ之ヲ北風正造等ニ謀ル而カモ隧道ヲ穿ツノ姑息策ハ寧ロ
湊川附替ノ決行期ヲ緩カラシムルニ至ランコトヲ想ヒ前田ニ語ルニ隧道ノ計畫ヲ棄テ、附替ノ實行ヲ
速カサラシムルニ勉ムルノ勝レルヲ告ク前田大ニ然リト爲シ自ラ任シテ奔走盡カスル所アリシモ此大
業ヤ容易ニ實行ノ運ニ至ラス既ニシテ明治十六七年ノ頃大阪市民藤田傳三郎ハ一己ノ事業トシテ湊川
附替ヲ爲サント欲シ屢實地測量セシ所アリテ終ニ二十年六月一日其筋ニ改修ヲ出願セリ出願ノ要旨タ
ル湊川川流附替ノ爲ニ生スル土地ハ無代下渡ヲ請ヒ併セテ改修費用ノ内五萬圓ノ保護ヲ得ント欲スル
ニ在リテ藤田ハ一旦斯ク出願セシモ更ニ同志者ヲ得タルヲ以テ同年九月前願書ヲ取下ケ再ヒ同志者連
署ヲ以テ同一趣旨ナル願書ヲ提出セシニ二十一年一月十六日ヲ以テ工費補助ハ聽届ケラレス私費起工
ノ見込アラハ更ニ出願スヘシトノ指令アリタレハ更ニ協議ノ上同年三月私費起工ノ出願ニ及ヒタレト
モ各種ノ故障起リテ事業著手ノ場合ニ至ラス空シク經過セシニ二十八年一月ニ至リテ前發起者ノ外兵

庫ノ小曾根喜一郎東京ノ大倉喜八郎外二十五名ヲ加ヘ一ノ會社事業トシテ目的ヲ達セントノ議ヲ生シ
二十九年四月十二日三十餘名發起連署ノ願書ハ其筋ニ提出サレ既ニシテ其筋ニ於テ審査ノ上神戸市會
ニ諮問スル所アリ市會ハ四月二十七日此諮問ノ討議ヲ開キ意見ヲ附シテ可決ノ副申ヲ爲シシカハ其筋
ニ於テハ工事方法ノ内市會ノ意見ヲ容レテ變更ヲ加ヘシメ十二月ニ至リ十七箇條ノ條件ヲ附シテ起工
ノ許可ヲ與ヘタリ蓋シ出願者ノ改修工事設計ハ湊川上流字源氏ヶ鼻ニ於テ舊川ヲ締切リ夫ヨリ會下山
前ヲ斜ニ荊藻川ノ東ニ注カシメント欲セシニ市會ノ意見ハ兵庫市街ノ保安ノ爲メニ會下山背後ヲ通過
セシムヘシト云フニ在リ此設計變更ハ工事費ニ於テ莫大ノ相違ヲ來スモノアリト雖發起人等ハ之ニ從
フニ決シテ三十年一月ヲ以テ湊川改修株式會社發起ノ申請ヲ爲シ二月二十四日ヲ以テ認可ヲ受ケ五月
會社設立ノ申請ヲ爲シ六月九日免許アリ八月十日會社設立ノ登記ヲ經テ會社ハ此ニ始メテ成立ヲ全フ
セリト云フ

(六) 武庫川上流運河開鑿工事

武庫川上流丹波國多紀郡日置村大字八上上ヨリ同郡古市村迄ヲ田松川ト唱フ地勢四面山ヲ帶ヒ陸運最
モ不便ナルヲ以テ明治六年ノ頃篠山町ノ有志者之ヲ憂ヘ運河開鑿ノ企アリ豊岡縣篠山支廳此舉ヲ贊助
シ加古川ノ支大蜘蛛川ヨリ分派シテ疏鑿ノ工終ニ成功スルヲ得タリ然レトモ三田町ニ達スルニ一晝夜
ノ長時間ヲ要シ施工ノ目的ニ副ハサルノミナラス惡水路ノ河線ヲ遮斷スルアリ當初懸樋ヲ以テ流通セ

シニ其後極管朽腐流路亦廢絶シテ只其形ヲ存スルノミ蓋シ工費壹萬圓ニ上リ元豊岡縣勸業貸下金及有志者寄附金ヲ以テ之ニ充ツ運河ノ利益ヲ以テ漸次之ヲ償還スルノ見込ナリシト云フ

(七) 三原川河口突堤工事

三原川(淡路國)河口ハ常ニ西北ノ風強ク怒濤猛浪衝テ至リ土砂押送航路ヲ杜絶スルコト四季幾回ナルヲ知ラス是ニ於テ從來屢公費ヲ投シテ水剝杭其他沈杵等ノ工事ヲ施設シ或ハ浚深ヲ爲スト雖一朝激浪ニ際スレハ破壊シテ其形跡タモ認メ得ス未タ曾テ效ヲ奏シタルコトナシ近年流末右岸ノ最終點ヨリ海中十數間ノ一小波止堤ヲ築設シ聊カ浪砂ノ害ヲ除キ航路亦稍疏通セルカ大船巨舶ノ進航ヲ難シシ貨物ノ集散微々タルヲ以テ地方ノ民之ヲ憂ヒ良港タラシメント計畫スト雖目下地方經濟ノ許サ、ル所ナレハ切ニ時機ノ到ルヲ待テリ

(八) 楯保川護岸工事

楯保川中流山崎以南ハ高水防禦堤アリ嘴崎以下ノ工事ハ專ラ割石ヲ以テ築造スト雖山崎新宮間ノ堤腹及ヒ護岸ハ皆野面石ヲ以テ之ヲ葺キ堤脚ニ樞ヲ沈下スルノ習慣アリ近來護岸沈床ヲ試工シ其成績尤モ可良ナリト云フ

(九) 千種川改修工事

千種川改修工事ハ明治二十六年八月工ヲ起ヌ即チ赤穂郡南野中村内派川尾崎川分流地點ニ於テ幹川千

種川ヲ堰止メテ耕地ト爲シ派川ノ最上流ナル龜ノ甲ノ堰埭ヲ決シテ幹川ヲ通シ以テ水害ヲ除キ舟路ノ便ヲ圖ルモノニシテ二十七年七月遂ニ功ヲ竣ル工費拾萬四千六百餘圓ヲ要セリト云フ是ニ於テ從來ノ派川尾崎川ハ幹川トナリ千種川ノ名ヲ襲フニ至レリ蓋シ是ヨリ先二十五年十月八日臨時赤穂郡町村組合會ニ於テハ千種川流域幹支派川改良起工ノ件四箇條ヲ決議シ目的ノ遂行ヲ期セルカ抑モ前記龜ノ甲堰ハ千種川ノ河床砂石埋堆シ赤穂城下舟運ノ便ヲ杜絶セシニ依リ之ヲ救ハンカ爲メ文政年中派流尾崎川ニ設ケラレタルモノナリシモ獨リ赤穂町ノミ舟楫ノ利ヲ得ルニ止マリ漸次河床埋堆シ年々坂越、高雄等諸村ノ濕地及水害ヲ増加シ利益ニ比シ其損害莫大ナルヲ以テ撤廢ヲ要スルニ至レルモノナリ

(一〇) 赤穂町水害豫防方法ノ事

千種川流域内水防ニ關シテハ兵庫、岡山兩縣未タ何等ノ規定ナシト雖獨リ赤穂郡赤穂町ニ於テハ水害豫防規則ヲ設ケ沿岸ヲ劃シテ受持區域ヲ定メ出水ノ多少ニ隨ヒ緩急警報ヲ爲シ漸次人員ヲ増加シ遂ニ關係地方民ヲシテ舉テ出役セシム而シテ其指揮監督ハ町役場吏員及町會議員之ニ任シ杭木、槌、空俵等ノ用具ハ町費ヲ以テ購入準備セリ

(一一) 圓山川河口杭出工事

圓山川ノ流末ハ北面シテ北海ニ注キ河口ノ幅員僅ニ二百餘間常ニ西北風浪ノ突撃ヲ蒙リ土砂押送ノ害尠少ナラス是ヲ以テ往年津居山對岸百餘間ノ杭出工ヲ施設シ以テ之カ防禦ニ供シ其效ヲ奏スルヲ得タ

リト雖尙大船巨舶ヲ進航スルニ由ナシ而カモ春夏兩季ニ在リテハ帆船林立但馬國中ノ最上港タルヲ妨ケスト云フ

(三) 染河内川改修工事

染河内川ハ河幅狭小ナレトモ水流急激ニシテ岩石ノ流出多ク流域ノ破壊夥ク被害ノ慘狀見ルニ忍ヒサルモノアリシカ共栗郡染河内村會ノ決議ヲ經テ縣費ノ補助ヲ稟請シ明治二十六年ヨリ之カ改修ノ工ヲ起シ三十四年迄ニ竣功セシ堤防、根圍、缺留、捨石等村内ヲ通シテ五十五箇所其延長二千三百三間總工費八千參百五拾八圓餘ノ巨額ニ上レリト云フ

新潟縣

(一) 大河津分水工事

大河津分水ハ南蒲原郡金子新田名主外山教四郎ノ首唱ニ係リ信濃川治水ノ大業ハ此ノ分水ニ如カスト爲シ慶應元年有志ト共ニ江戸ニ詣リ幕府ニ建言スル所アリシカ幕府ハ中ノ口川ノ起點タル信濃川ノ呑口ヲ狹塞スルヲ以テ最急務ナリトシ其工事ニ著手スルコト、ナレリ然ルニ教四郎等ハ幕府ノ方針姑息ニシテ終ニ大河津分水ヲ放擲スルニアラスヤト憂慮シ大ニ之ニ反對シ維新後薩長兩藩ニ因縁シテ至誠當局ヲ動カシ明治二年漸ク分水事業ヲ實行スルニ決シ住友吉左衛門ヲ資本主ト爲シ工事ヲ進行シタリ

シカ七年八月ニ至リ縣令楠本正隆ヨリ分水ノ效果顯著ナラサルニ依リ事業ヲ中止スルヲ可トストノ諭示ヲ受ケ遂ニ八年三月ヲ以テ廢止ノ悲運ヲ見ルニ至レリ本事業ニ關係最モ深カリシハ新發田藩ヲ始トシ村上、長岡、輿板、三日市、峯山、桑名、高崎ノ諸藩ニシテ當初ヨリ投セラレタル金額約壹百萬圓ニシテ其民間ヨリ徵收セシハ約貳拾五萬圓ニ達シタリト云フ

(二) 信濃川改修工事

長岡下流本川河身改修工事ノ端緒ハ既記大河津ノ分水ニシテ即チ大河津ニ於テ信濃川ヨリ直路西北ヲ指シ須走ノ山間ヲ經テ海岸ニ至ル迄凡ソ一里半ノ間ヲ開鑿シ洪水ヲ放流セシメントスルニ在リ此ノ分水工事中止ニ次テ大河津、道金間ヲ超越堤防ト爲スノ設計ト中ノ口川河幅取擴ノ設計ヲ立テシト雖共ニ行ハレサリシカ漸ク明治十九年ニ至リ長岡下流河身改修ノ設計ヲ立テ二十年ヨリ之ヲ施行スルニ至レリ即チ低水工事及高水工事ヨリ成リ主トシテ洪水防禦ヲ目的トシ兼テ運輸ノ便ヲ開クニ在リ低水工事ニ於テハ低水量ニ相當ナル流敷ヲ定メ常ニ適度ノ水深ヲ保タシムルモノニシテ洪水ニ際シ水流ノ屈曲ヲ減シ衝突力ヲ殺キ堤防ヲ保護スルモノナリ高水工事ハ高水敷ヲ改良シ舊來ノ堤防ヲ改築スルモノニシテ純然タル防禦工事ナリ計畫高水量ハ長岡、道金間ニ於テ十七萬立方尺大野以下ニ於テ十九萬立方尺トス之ニ對スル高水敷ハ三百間乃至四百間トス計畫低水量ハ概ネ六千乃至一萬立方尺トス之ニ對スル低水敷ハ八十間乃至百六十間トス低水工事ハ内務省ノ直轄ニ係リ國庫金ヲ以テ之ヲ支辨シ高水工

事ハ新潟縣ニ於テ地方稅ヲ以テ之ヲ支辨ス其工費豫算總額ハ參百六拾萬圓ナリ之ニ次テ起スヘキハ本川流末ノ改良ヲ目的トセル河口修築ノ工事ナリ此二工事ニシテ全ク竣功セハ本川ニ於ケル水害並ニ運輸ノ狀況ヲ一新スヘシ然リト雖河身ノ改良ナルモノハ其水源ノ涵養及土砂ノ扞止ト相待テ其功ヲ奏スルモノナルカ故ニ本川改修工事カ其最終ノ目的ヲ達スルハ前途猶遠ナリト謂フヘシ

(因ニ云ク本川航路改良及洪水防禦工事ハ明治三十八年度ニ終ル而シテ所謂大河津分水ヲ包含セル第二期工事ハ同四十年年度ヨリ施行セリ)

(三) 信濃川筋制水其他ノ工事

信濃川筋右岸中魚沼郡中條村、古志郡宮内村大字大島及水梨、長岡町大字草生津、黒條村大字黒津ノ各地先ニ先年數個ノ制水工ヲ施セシニ能ク其目的ヲ達シ河岸ノ崩壞ヲ免レタリ又南蒲原郡尾崎村ニ於テ右支刈谷田川ヲ會スル處河身亂流ナルヲ以テ明治十八年改修第一著ノ工事ヲ起スニ伴ヒ以下兩岸數箇所ノ制水工ヲ施セリ左岸ニ在リテハ古志郡川西村大字藤澤地先流路衝突ノ部分ニ制水工ノ設ヲ見ル又南蒲原郡須頃村地先字萬代島ニ於テ本川兩派ニ分レ左邊ヲ本流トシ右邊ハ水量寡少ナリシニ河身改修ニ際シ左邊ヲ締切リ流路右邊ニ就ク又中蒲原郡鷺卷村大字鷺ノ木ト西蒲原郡金卷村ノ間ニ於テ道金ヨリ分派セシ中ノ口川合流ノ上部ニ方リ信濃川及中ノ口川中間内部郷村ニ係ル數百町步灌漑ノ殘水一條ノ流路ヲ爲シテ信農川ニ落ツ乃チ本川高水ノ際其逆流ヲ防クカ爲ニ一大樋門ヲ築ク其構造ハ煉瓦積

ニシテ穹形三個ノ吐口ヲ有シ門扉ヲ以テ開閉セシム之ヲ鷺ノ木水門ト稱ス又左岸新潟市學校町通ノ河岸白山神社ノ上部ニ於テ市街ニ通スル一流路ヲ分派シ字白山浦ニ樋門ヲ設ケ本川高水ニ際シテハ之ヲ閉鎖ス

(四) 五十嵐川築堤及排水

南蒲原郡三條町ノ對岸五十嵐川ト信濃川ト合流スル地點ニ在ル本成寺村月岡外七大字地積四百二十五町步ノ一區域ハ内部ノ土地ヲ保護スル爲メ兩川ニ堤防ヲ築カス水ノ自然ニ浸入スルニ任カセタルヲ以テ春秋雨潦ニ遇ヘハ忽チ沼湖ト化スル有様ニシテ開村以後數百年間拱手傍觀シ來リシカ明治七年ニ至リ隣村ノ人松尾與十郎兩川ノ築堤ヲ首唱シ對岸三條町民ノ大反對ヲ排シ遂ニ八年十月縣ヨリ築堤ノ許可ヲ受ケタリ當初ノ設計ハ外部ノ洪水ヲ防クヘク堤防ヲ大字月岡ヨリ西本成寺ニ至ル五十嵐川西岸二里ノ間ニ築クコトノミナリシカ内部ノ排水灌漑等之ニ伴ハサレハ治水ノ效十分ナラストシ續テ長約千間幅ノ三間溝渠ヲ掘鑿スルノ計ヲ樹テ合セテ同年十一月兩事業始ント同時ニ著手セシカ翌九年九月竣功セリ工費五千參百八拾貳圓餘ヲ要セリ其後同堤防ノ腹附上置工事ヲ出願シ許可ヲ得タリ工費四千七百圓餘十年八月ニ至リテ完成ス前後四週年ノ努力ニ依リ全ク洪水ノ害ヲ受クルコトナキニ至レリ十一年 明治天皇聖駕北巡ノ節特ニ此ノ築堤ヲ嚮ハセラルハノ光榮ニ浴シタリト云フ又月岡地内ニ於ケル惡水ヲ山腹ニ暗渠ヲ穿チテ五十嵐川ノ上部ニ放下スルノ設計ハ同シク與十郎ノ畫策ニ出テ同人死後有

志相謀リ其遺志ヲ繼キ十餘年ノ後北越鐵道敷設ノ舉アルニ際シ同會社ヨリ金壹千五百圓本郷ヨリ壹千圓ヲ支出シ三十、三十一兩年ニ亙リ工事ヲ施行シ計畫ヲ實現スルヲ得タリ

(五) 大面組郷内惡水排除工事

大面組郷内惡水排除工事ノ起原ヲ尋ヌルニ遠ク寶歷年間ニ在リテ爾來屢關係諸村ノ間ニ折衝ヲ重ネ明治年間ニ至レルモノナリ由來五十嵐川ノ西南、刈谷田川ノ東南ニ在ル四十二箇村ハ春夏ノ交霖雨アレハ連山ノ溪流耕地ニ瀰漫シ良田ノ流失ヲ免レサルヲ以テ之カ治水ニ就テハ數次議ニ上リシト雖水路掘鑿ノ地元タル西本成寺村ノ之ニ反對セルノミナラス郷内ニ於テモ異議アリテ容易ニ決セザリシカ大河津分水ノ首唱者タル外山教四郎ノ男靜一郎父ノ遺志ヲ繼キ郷内排水工事ノ設計ヲ爲シ明治十八年十一月西本成寺村ヲモ説服シテ誓約ヲ締結シ水利士功御實測願ヲ縣令篠崎五郎ニ提出シ越エテ二十年再ヒ直江疏鑿目論見ヲ作製シ其筋ノ許可ヲ得テ九月工事ニ著手シ十一月功ヲ竣レリ爾來關係郷内ノ惡水排除豫想外ニ良好ニシテ恰モ別耕地ヲ見ルノ感アリト云フ

(六) 荒川筋大津村地先河身改修工事

荒川左岸岩船郡大津村地先ハ河流ノ激衝ヲ受ケ耕地缺壞ノ害ニ苦ミ文化、萬延、文久ノ際治水工事ヲ施セシト雖流心ノ左傾依然已マス即チ文久年間ニハ左岸長百七十五間ノ間ニ牛柁八箇所ヲ築キシモ其效ヲ奏セス慶應元年更ニ其下流延長九十一間ノ間ニ水剝柁出九箇所及抗出等ヲ施行シ流心ノ右轉ヲ計

リシカ明治三年四月大洪水ノ影響ヲ被リ本流ハ左岸ノ堤敷ヲ流路トセリ依テ復舊工事ヲ施セシニ翌四年四月再ヒ大洪水ニ襲ハレ悉ク流亡ニ歸シタリ抑モ本地先ニ就テハ享和三年水利組合關係諸村ニ於テ幕府ノ裁定ヲ仰キ川敷百間ト定メラレ瀨替締切ノ許可ヲ得タルニ基キ這般災害善後策トシテ翌五月中元組合諸村協議ヲ遂ケ村上藩廳ノ允許ヲ得テ河身改修ノ工ヲ起シ再ヒ舊川敷ヲ閉塞シ其右方ヲ開鑿シテ流路ト爲セリ翌五年春季ノ洪水ニ締切工事ハ小部分ノ破壞ヲ來セシカハ同年三月復築以來十一、十二兩年ノ大洪水ニ流心遂ニ右岸ニ變シ始メテ本村危難ノ患ヲ絶チシヲ慶セシニ十五年復流水漏洩ニ起因シ舊川敷ハ派川ノ如クナリ之ヲ等閑ニ附スレハ大害ノ因トナルヘキヲ以テ十七年中其分派口ヲ閉塞セシニ依リ今ニ至ルマテ水災ヲ見ス本流ハ概ネ右岸ヲ通過セリ

(七) 阿賀野川制水工事

北蒲原郡赤坂村大字渡場對岸中蒲原郡巢本村下流ハ地勢平坦ニシテ本川ノ水害區域廣大ナルニ依リ兩岸總テ堤防ノ設アリト雖屢破壞ノ厄ニ罹ルヲ以テ明治十六年ノ頃内務省土木局ニ於テ制水工事ニ著手シ局部改修ヲ施セシカ數年ナラスシテ中止トナレリ

埼玉縣

(一) 萬平出シノ事

萬平出シトハ首唱者熊谷驛人竹井萬平ノ名ニ因シテ稱セルモノナリ長七十五間高一丈二尺馬踏一丈蓋シ同驛ニ於ケル荒川本堤屢洪水ノ爲メ破壊セラレ北埼玉郡ハ一面ノ泥海ト爲リ民其害ニ苦ミ幾度カ修繕ヲ加ヘタリシカ尙明治元年九月ノ出水ニ本堤ヲ破壊セシカハ萬平首唱者トナリ此ノ水害防禦工事ヲ施セシナリ

(二) 上谷沼新田ノ排水路工事

北足立郡芝村上谷沼新田三十餘町歩常ニ水湛エ夏季插秧困難動モスレハ腐朽シ殆ント堤外地ト異ナラサルヲ以テ明治三年芝村西組ノ名主須賀保實東組名主等ト協議シ新ニ幅一間半長約二百間ノ溝渠ヲ掘鑿シ見沼代用水西縁用水路下ニ樋ヲ伏セ常ニ排水シ得ルコト、ナシタレハ村民農業ノ便益ヲ受クルコト尠少ナラサリキ

(三) 庄内古川堰梓及門樋工事

庄内古川ハ北葛飾郡内ニ於ケル大惡水落ニシテ水路延長約八里廿町關係區域七千三百餘町歩廿三箇町村ニ亘リ江戸川ニ注流スルモノナルカ江戸川ノ水位ハ常ニ高キヲ以テ往古ヨリ逆水ノ爲メ排除ノ效果全カラス之カ改良ニ盡力シタルハ同郡幸松村大字樋籠ノ田中氏ニシテ祖先以來屢次改良工事ヲ施セシカ宗太ノ世ニ至リ天保九年堀繼工事ヲ起シ十四年ニ至リ竣功シタルカ此工事ハ水路延長二千五百四十八間加藤村ニ逆水門樋一箇所ヲ設ク爲メニ惡水ノ疏通良好トナリ沿岸村落收穫ノ確實ナルヲ見戸口大

ニ繁殖スト云フ同人養子爲次郎亦治水ノ志篤ク明治四年宇關羽地内ニ逆除ケ堰梓ヲ設置シ大ニ逆水ノ漲溢ヲ免レシメタリ然ルニ加藤村ノ門樋年所ヲ經テ頽敗シ逆流ノ害復タ起リ頻年水防ニ苦ミ看スノ稻禾ヲ失ヘルコト數萬頃ナリ是ニ於テ有志相謀リ門樋再建ヲ發起ス其經費ハ害ヲ受クル所ノ厚薄ヲ計リ組合内地所持主ニ課シ又篤志者ノ寄附金ヲ募リ猶其ノ補足ヲ官ニ乞ヘリ而シテ總額ハ壹萬千貳百圓ナリ縣會其ノ補給ヲ決議ス是ニ於テ河身ノ姿勢ヲ計リ更ニ地位ヲ半割地内ニ相シ廿四年二月工ヲ起シ五月ニ至リ成ル門樋ノ構造ハ瓦石ヲ疊ミ其ノ堅牢至レリ盡セリ壯觀實ニ全縣ニ冠タリト云フ

(四) 行幸堤新設工事

行幸堤トハ權現堂川通北葛飾郡行幸村大字外國府間及高須賀地内ニ於ケル堤防長十四町餘ノ總稱ニシテ明治八年中關係町村ニ於テ壹萬八千四百餘圓ヲ投シ島川ヲ橫斷築設セシモノナリ之ヨリ以前ハ利根川出水毎ニ權現堂川増水島川ニ逆流シ流域内ノ被害尠少ナラサルノミナラス左右堤防延長三里餘ニ亘リ水防ニ努力スト雖往々破堤ノ慘害ヲ被リ今尙處々ニ池沼アリテ被害ノ跡ヲ留ム然ルニ行幸堤ノ效果ハ水防區域ヲ短縮シ流域内數十町歩ハ築堤ト共ニ權現堂川堤内ニ屬シ曩日ノ害ヲ免ル、ヲ得築堤ノ效倍ス大ナリ宜哉九年 明治天皇東北巡幸ノ際鳳輦ヲ駐メサセ給ヒ叡感アラセラレ行幸堤ト稱スルコトヲ許サセ給ヘリト云フ

(五) 江戸川新堤工事

北葛飾郡梅郷、新川二村江戸川ニ面シ未タ堤防ノ設ケ有ラス洪水毎ニ郡内諸村其害ヲ被リ居民常ニ之ヲ患フ石川得郎、田中原太郎首唱シテ新堤ヲ西岸ニ築ク長千五百四十間餘費金九千八百廿圓（内縣費補助七千貳百廿餘圓）明治廿五年十一月起工二十六年八月竣功多年ノ患害始テ除カル

(六) 熊谷堤修築工事

大里郡ハ荒川ノ洪流ヲ控ヘ春夏雨潦往々暴漲勢遏抑ス可カラス熊谷堤其衝ニ當ル安政六年石原、久下諸村ヲ決シ元治元年復タ久下、石原ノ間ヲ決ス其都度應急工事ヲ施スト雖水害止マサルヲ以テ郡人増田豊昭ナル者秋山蔚、肥留川道敷、茂木武柱ト謀リ修堤ノ議ヲ興シ明治四年ニ至リ上書具狀ス朝議特ニ五千七百餘圓ヲ貸シ其費ニ充テシム是ニ於テ里民金ヲ寄附スル八千參百餘圓又公費壹萬餘圓ヲ擲チ以テ其不足ヲ補ヒ八年三月工ヲ起シ十二年三月成ルヲ告ク工費以上貳萬四千餘圓役丁十三萬三千餘人堤隆然トシテ以テ起ル長四里卅二町餘高六尺ヨリ二丈ニ及フ厚之ニ稱フ基外排スルニ石匣ヲ以テシ建ツルニ竹礎ヲ以テス是ニ於テ嚮ノ激スル者恬然安流以テ長ク潰決ノ患ヲ免ルヘキナリ蓋シ時ノ縣令ハ白根多助ナリ

其後四十三年八月ノ大洪水ニハ幸ニ潰決ヲ免レタレトモ將來ヲ慮リ縣ハ有司ヲ派シ更ニ修築工事ヲ起シ久下村民專心戮力其ノ役ニ徒フ修堤延長實ニ二千六百五十六間工費金八萬六千六百拾四圓四十四年二月十九日工ヲ起シ明年二月十日功ヲ竣ル密ニシテ鞏ク高クシテ厚シ殆ント丘陵ノ如ク假令霖潦復タ

至ルモ意フニ應サニ悔ナカルヘシト云フ

(七) 大里郡ノ縣費築堤工事

明治四十一年大里郡麻生村大字大麻生地内ニ長八百三十八間ノ新堤ヲ縣費ヲ以テ築造セリ四十三年八月十日ハ古來未曾有ノ洪水ニシテ荒川南北兩岸ノ堤防總テ越水シ終ニ吉岡村大字萬吉及村岡地内ニ於テ二箇所延長百二十八間又市田村大字手島及小泉地先ニ於テ二箇所延長百八十四間餘又吉見村大字玉作地先ニ於テ長六十五間破堤セシヲ以テ（別項吉見堤
修築參看）家屋ノ流失人畜ノ死傷夥シク其慘狀ハ筆紙ノ盡ス可キ處ニアラス依テ破堤ニ付テハ國庫ノ補助ヲ得縣ニ於テ之カ復舊工事ヲ爲セリ其他四十四年ニハ大麻生村大字大麻生地内へ長四百七十九間ノ新堤ヲ四十五年ニハ吉岡村大字萬吉地先へ長六百九十間（別項萬吉堤
修築參看）及御正村大字樋春地先へ長五百廿五間ノ新堤ヲ大正三年ニハ同村大字押切地内へ長六百八十間餘ノ新堤ヲ執レモ縣費ヲ以テ築造セリ又四年武川村大字明戸、大麻生村大字川原明戸入會地内長五百八間ノ舊樋ヲ縣費ヲ以テ増築セリ

(八) 吉見堤修築工事

大里郡市田村大字手島、小泉ノ堤ハ安政六年七月廿五日荒川漲溢ノ爲メ決潰シ家數戸ヲ漂ハス當時修築堅牢ト稱スト雖歲月ノ久シキ寢ク弛罅ヲ生シ明治四十三年八月十日ノ洪水ニ復又壞決其長百八十四間餘市田、吉見兩村及比企郡吉見四村屋ヲ沒シ人ヲ弱ラシ號泣四聞悲慘ヲ極ム復タ往年ノ比ニアラス

水退キ縣廳直ニ修築ノ事ヲ策シ其翌四十四年三月十二日工ヲ起シ手島、小泉ノ人其役ヲ專ラニシテ堤ヲ修ム延長實ニ四百六十五間餘ニ及ヒ工費參萬五千參百卅五圓ニ上リ役スル所ノ人夫五萬四千餘ニ達シ十月十日ニ至リ功ヲ竣ル堅牢舊ニ倍シ人心始メテ寧キヲ得タリ

(九) 萬吉堤修築工事

大里郡萬吉堤ハ荒川漲溢ノ衝ニ當リ往々潰決ノ患ヲ免レス明治四十年八月十五日洪水堤ヲ決シ明年舊堤四百餘間ヲ増築シ又新堤六百餘間ヲ築ク而シテ四十三年八月十日ノ暴風雨ニ河水暴漲堤遂ニ潰裂シ災害ノ甚シキ近古比無シ是ニ於テ縣ハ四十三年度臨時費ヲ以テ舊堤四百五十四間ヲ増補シ壞堤二百四十五間ヲ移築シ更ニ四十四年度臨時縣費ヲ以テ新ニ堤五百八十間ヲ築キ縣費補助ヲ以テ百廿四間ヲ續築ス馬踏二間高凡十尺五寸總費貳萬六千八百四拾壹圓ナリ工事率ネ災餘ノ民ヲ役シ賃銀以テ衣食ニ充ツルヲ得セシメタリ

(一〇) 長池址ノ事

北足立郡大蘆村ニ舊ト長池アリ明用、三町免兩村ニ跨カル荒川堤ニ沿ヒ東西ニ貫通ス面積一萬九千二百四十七坪古ヘ堤外畑地ノ惡水路ニシテ幅六尺深三尺ノ小渠ナリシカ文政八年八月十五日洪水ノ爲メ一ノ潦地トナリ爾來漲溢アル毎ニ崩缺シ終ニ前記三村ニ連亘シ深二十五尺ノ一大潦池ヲナシ堤下ニ洞穴數所ヲ生シ危險尤モ甚シ知事吉田清英深ク之ヲ患ヒ明治十四年二月埋築ノ議ヲ起シ十七年十一月測

量ヲ了シ十八年十二月土工ヲ興シ十九年六月七日竣功ス日ヲ閱スルコト百八十餘、費金壹萬八千參百貳拾壹圓餘之ヲ地方稅ニ辨シ人夫一萬五千九ハ堤防組合一町六十四箇村ノ寄附ニ係リ堤亦頗ル堅牢ト爲ル

(二) 荒川北緣堤防組合ノ事

大里、北埼玉、北足立三郡ニ亘ル荒川北緣堤防組合ノ沿革ヲ尋ヌルニ享保十四年忍ノ城主阿部豊後守令シテ石原村以東五十七箇町村ノ組合ヲ設ケシメ領内石高四萬八千石ノ水害ヲ豫防セントシ荒川北岸凡四里ニ亘ル堤防ヲ管理シ出水ノ際ハ堤防附近町村ヨリ人夫ヲ出シ水害ヲ防禦スルノ任ヲ負ハシム而シテ組合ノ費用ハ一箇年ノ豫算ヲ編制シ組合總代徵收及支出ノ事ニ當リ總代ハ之ヲ關係町村ニ通達シ町村ニ於テ徵收シ總代ニ納付スルヲ例トセリ此慣行ハ文政六年松平下總守代リテ城主ト爲リ維新ノ後廢藩ニ至ルマテ變更スル所ナカリシト云フ明治四年ノ廢藩ヨリ十一年マテハ官廳ノ監督ヲ受ケ專ラ組合ニ於テ堤防ヲ修補シ十二年ヨリ地方費ヲ以テ支辨スルコト、ナレリ然カモ組合ハ猶持續シテ水防ニ從事セシカ十九年三月區町村會法ニ依リ從前ノ關係町村ヲ以テ區域トシ荒川北緣堤防組合ト稱シ石原村外五十六箇村聯合會規則ヲ發布シ(十一箇條)尋テ二十五年荒川北緣水防規程ヲ制定シ(九箇條)該規程ト從來ノ慣行トニ基キ水防及其事務ニ從事セリ組合管理者ハ大里郡長ニシテ組合ノ費用ハ關係各町村及大字ノ負擔歩合ヲ定メ地價ニ賦課ス

群馬縣

(一) 榛名湖疏水工事

群馬郡長野堰ハ烏川ノ水ヲ引キ水路延長四里許沿堰ノ地一市一町七村ニ涉リテ其ノ灌溉反別一千七百二町歩餘ヲ有ス相傳フ今ヨリ七百有餘年前(或云一千餘年前)上野國守長野康業ノ創設スル所ナリ降テ寶永年間高崎城主大河内輝貞其封内ヲ巡視シ尙溝渠ノ耕種ノ用ニ乏シキヲ憂ヒ乃チ擢確嶺ノ麓ヲ穿テ榛名湖ノ水ヲ引カント欲ス故アリ之ヲ果サス爾後無慮二百餘年明治三十三年六月ニ至リ長野堰普通水利組合成ル衆議漸ク熟シ天神嶺ノ麓ヲ穿テ榛名湖ノ水ヲ引カント欲シ翌三十四年十二月疏水工事起業認可願ヲ縣知事ニ提出セシニ三十六年七月許可セラレタレハ同年九月工ヲ起シ三十七年十月功ヲ竣ル即チ沼尾天神峠ノ二水門ヲ設ケ前者水門敷ハ湖面平水位以下六尺五寸ニシテ後者水門敷ハ湖面平水位以下四尺八寸ニ在ラシム流下勾配ハ何レモ千分ノ一ヲ採リテ沼尾方面ハ水門ヨリ直ニ長二十間ノ煉瓦溝ニ入り掘鑿溝路ヲ通スル百四十間ニシテ在來流路ニ連絡セシム天神峠方面ハ水門ヨリ石積溝ヲ通シテ直ニ延長百四十五間内法幅四尺五寸ノ隧道ニ入り隧道ヨリ石積溝ヲ落下シテ榛名川ノ上流ニ導キ榛名川ヨリ烏川ニ入り烏川ヨリ長野堰取入口ニ至ルモノトス工費總額參萬四千壹百圓ヲ要セリ

(二) 天狗岩堰水路改修工事

群馬郡天狗岩堰ハ慶長年間總社ノ城主秋元長朝ノ創設スル所ニ係リ利根川ノ水ヲ引キ灌溉ニ供ス明治三十三年水利組合ヲ設ケテ之ヲ管理ス關係區域群馬、佐波二郡十箇村大字五十九ニ亘リ灌溉反別一千八百四十二町歩ヲ有ス然ルニ同三十九年ノ洪水ニ用水路四百三十餘間ヲ亡失セルヲ以テ其ノ改修ヲ企ツ即チ舊水路ヲ距ル西方十五間ノ處ニ於テ隧道延長二百八十三間餘幅十二尺高九尺之ニ木枠ヲ建込前後ヲ掘割トシテ其延長百二十四間餘其他導水路ノ修理床浚石垣等ヲ合セ延長千四十餘間工費貳萬六千七百八拾六圓餘ヲ計上セリ四十年二月二十一日工事ニ着手セシニ實地ニ際シ殆ント豫想外ノ困難ヲ生シ隧道内木枠ノ組立及隧道掘割ノ伸縮石垣等ノ變更ヲ見ルアリテ同年六月十五日ヲ以テ竣功セリ

千葉縣

(一) 小野川疏鑿工事

伊能景晴ハ佐原ノ里正ナリ佐原ノ地利根川ノ衝ニ當リ堤防潰決ノ患アリ難ヲ避ケテ他ニ移ルモノ數十戶景晴之ヲ憂ヒ天保十二年隣邑ト議シ河身改修ヲ企テ書ヲ作り官ニ申ス官之ヲ聽ルシ且ツ其費ヲ給ス是ニ於テ地勢ヲ相シ前洲ヲ鑿開ス河身轉シテ水患息ム又椿ヲ南和田洲岸諸處ニ植エ以テ波流ノ震蕩ヲ捍ク小野川口沙游シ舟楫通セス景晴贊ヲ捐テ長一千尺廣六十尺ヲ疏鑿シ堤ヲ兩側ニ築キ以テ漕運ヲ通セントス工費豫算錢貳千參拾壹貫匁ト金五兩明治七年成ル商旅之ヲ便トス即チ今ノ内務省鑛工場ヨリ

川口渡船場ニ至ル間ナリ

(二) 利根運河開鑿工事

利根運河ハ利根川ト江戸川トノ航路ヲ連絡スル水道ニシテ東葛飾郡ニ在リ乃チ從來利根川ヲ溯リ關宿ヲ經テ江戸川ニ出テタル迂回ノ航路ヲ短縮シタルモノニシテ明治年間ノ一大工事ナリ是レ徳川幕府カ屢企テ、毎ニ失敗ニ了レル利根ノ水ヲ内海ニ落下セシメントセシ印旛沼開疏ニ比シテ著シキ成功ト謂フ可シ運河開通ノ計畫ハ明治十九年ニ起レリ當時東京千葉茨城ノ一府二縣知事ヨリ内務大臣ニ運河開通ノ必要ヲ開陳シテ企業ノ許可ト金參萬圓ノ補助トヲ請ヘリ然ルニ政府ハ右上申中ノ國庫補助ヲ聽許セスト雖其ノ起工ヲ容レ發起人ヲ定メ免許命令案ヲ副ヘ更ニ伺出ツヘシト指令セリ而シテ該企業ノ目的ヲ以テ組織サレタル利根運河株式會社ハ翌二十年五月九日開鑿ノ出願ヲ爲シ同年十一月十日認可ヲ得二十一年五月工事ニ着手シ二十三年二月創メテ兩河口ヲ開放シ江戸利根兩川ノ河水ヲ疏通セシメ同三月二十五日通船營業ヲ開始シ五月十日ニ至リ全部ノ工事ヲ竣成セリ工費ノ主ナルモノハ人夫二百二十萬人餘ノ賃銀及木材石材鑛物セメント粗糞粘土等ノ買入代ニシテ是等ニ支出シタル經費ハ五拾萬圓餘トス運河ハ東葛飾郡新川村深井新田ニ起リ同郡田中村宇船戸ニ終ル其長二里二町十五間ニシテ河幅ハ狹キ處三十三尺廣キ處九十尺其他ハ總テ六十尺ナリ(但河底)會社ノ資本金ハ最初五拾六萬圓ナリシヲ二十九年之ヲ切下ケ四拾萬圓ニ改メタリ營業年限ハ二十三年三月二十五日業務開始ヨリ滿六十箇年

ニシテ千葉縣ノ命令書ニ從ヒ運河ヲ通航スル船筏ノ通航料ヲ收得スルヲ以テ營業ノ目的トス運河ヲ通航スル船舶若クハ筏ニハ制限アリ即チ(一)諸船舶吃水四尺以下(二)川汽船長九十尺幅二十七尺以下(三)帆船及各種ノ船舶長八十尺幅二十尺以下(四)筏長九十尺幅十二尺以下トス

(三) 坂川排水工事

坂川ノ治水ハ文化天保ノ頃下總國葛飾郡饒崎ノ里正渡邊氏父祖三世五十六年ノ苦辛ヲ以テ當時澇水放瀉ノ效ヲ奏シ農民歡喜ノ色アリシモ輓近江戸川ノ河心漸ク高キヲ加フルト共ニ坂川亦當年ノ快瀉ヲ見ス霖雨一タヒ到レハ田面乍チ一大湖沼ニ化シ比年稻禾腐蝕ノ慘害ヲ被ル坂川普通水利組合ニ於テハ之カ救濟ノ方法トシテハ蒸汽作用ニ依リ運機排水ヲ爲スノ外ナキヲ認メ之カ實施ニ決シ明治四十二年二月新水路四百間ノ開鑿及排水機設置ニ着手シ六月上旬ニ至リ竣功ヲ告ケタリ工費合計八萬七千參百圓餘ナリ汽機試運轉ノ成績ヲ舉クレハ回轉數ハ一分間百六十二ニシテ能ク三千立方呎ヲ排出シ百四十四回轉ヲ以テ優ニ所要ノ水量ヲ排出スルヲ得タリ乃チ豫期ノ如ク腐稻爛禾ノ慘禍ヲ免レタリト云フ

(四) 水害豫防ニ關スル規則制定

本縣ニ於テハ夙ニ明治八年七月水防規則(十箇條ヨリ成ル)ヲ定メ堤防取締專務者及各人民ヘ令達セリ然ルニ後年ニ至リ規則ノ實施緩漫ニ流レ之ヲ等閑ニ附スル村落アリタレハ十六年七月之カ厲行ヲ諭達シ更ニ翌十七年九月堤防取締概則(八箇條ヨリ成ル)ヲ定メ兩者相待チテ洪水防禦ノ目的ヲ達センコトヲ期セリ

茨城縣

(一) 久慈河川口工事

久慈河口ハ古來變遷少カラス動モスレハ漕運ノ沮滯ヲ來シ且危險甚シキニ至リシヲ以テ文化六年庄屋五來半五郎ナル者改修ヲ企畫シ翌七年三月河口ニ石堤ヲ築キタルニ其功空シカラス川流ノ方向殆ント寛文年間ノ如クニ復セシカハ(寛文十一年以前ハ四五石積ノ船ヲ容易ニ出入スルヲ得タリト云フ)衆皆其徳ヲ頌シ稱シテ半五郎磯ト云フ然ルニ星霜ヲ經ルニ隨ヒ激浪或ハ洪水ノ爲ニ破壞セラレ今ハ其形跡判明セヌ明治年間ニ至リ二十三年縣ハ久慈町字前川ニ長五十間ノ川除杭ヲ建設シ頗ル效ヲ奏シタリト雖腐朽破損流失等事故頻出永ク之ヲ保持スル能ハサリシカハ久慈町ニ於テ獨力之カ改良ノ策ヲ講シ諸種ノ工事ヲ施セシモ一モ實績ヲ舉タル能ハス河口ハ幾ント土砂ヲ以テ填塞セラレントシ舟楫ノ利ヲ減殺シ漁民ノ困苦少カラサルヲ以テ二十八年地方稅ノ補助金四百餘圓ヲ得之ニ町内有志ノ釀金六百餘圓ヲ合シ字前川ニ長六十間ノ水欄ヲ設置シ大ニ河口ノ改良ヲ圖リ稍從來ノ困難ヲ排除スルヲ得タリ

(二) 久慈川築堤護岸工事

明治三十年久慈郡西小澤村堅岩久慈川築堤十間成ル工費金四拾貳圓餘同年那珂郡村松村石神豊岡同川護岸十六間亦成ル工費金參百參拾六圓餘ナリ

(三) 那珂川河口工事

那珂川ハ太平洋激浪ノ襲壓スル所トナリ直ニ海ニ注クヲ得ス湊町ニ沿フテ北方ニ向ヒ字牛久保地先ニ至リ岩礁ノ間ヲ過キテ海ニ朝ス故ニ落筋ノ通セサル處ハ波濤ノ爲メ土砂自ラ沈澱堆積シテ右岸祝町臺場下ヨリ北方ニ面シ渚洲ノ蜿蜒トシテ突出スルコト凡四百間船艀容易ニ出入スルヲ得ス加之湊町東方一帶ノ地盤低キヲ以テ沿岸ノ人家年々風浪ノ害ヲ蒙ルコト尠カラス然レトモ洪水ニ際シ堆積セル砂洲ヲ洗滌シ河水ヲ直流セシメタルコト古來屢ナリシカ文久四年ニハ舊態依然タリシニ明治三年七月ノ出水ニ積沙停滯衝刷刮蕩ノ功前例ノ如クナリキ而カモ平時ハ沙嘴漕運ニ便ナラサルヲ以テ一定ノ航路ヲ設ケンカ爲メ河口ノ改築ヲ企畫セルコト數次縣知事安田定則大ニ力ヲ盡ス所アリシモ毎ニ工費ノ巨額ニ累セラレ其目的ヲ達スル能ハス會マ二十三年八月七日大洪水アリ所謂沙嘴ヲ衝キ流心稍直向セシカハ好機逸ス可カラストシ同年九月十一日湊町字辰之口地先ニ制水工事ヲ施設シ二十五年一月ニ至リ竣功セリ即チ初メ杭打長五十間沈床二十間ヲ營築セシニ激浪ノ障礙ニ遇ヒ次テ兩者各二十間ヲ増築シ更ニ沈床ヲ入レ遂ニ龜張ヲ以テ上層工事ヲ施ス等前後四回ノ工ヲ重ネ漸ク完成セルモノナリ工費ハ汐除護岸等ニ費セシモノヲ除キ地方稅町費等ヲ合シ其額金四千五百圓内外ナリトス工事ノ結果ハ沙嘴過半洗去ラレテ落筋稍東方ニ轉シ湊町沿岸ノ舊水路ニ一大砂洲ヲ生シ人家激浪ノ害ヲ免レ水路ヲ短縮シ洪水ノ排出稍順暢トナレルモ落筋依然トシテ深カラス現今千潮最淺六尺ニシテ冬季ハ滿潮ニ際スルモ一

丈ニ滿タス故ニ漕運ノ便ニ至リテハ毫モ效果ヲ得サルノミナラス却テ昔日ノ水路ニ復スルニ如カスト唱フルノ徒勞カラス其他同年二月二十三日湊町ニ於テハ蘭工師ムルドルノ設計ニ依リ築港ノ目的ヲ以テ町債金五千圓ヲ募集スルノ許可ヲ得タルモ未タ實行ノ運ヒニ至ラスト云フ

(四) 那珂川河岸缺留工事

那珂川筋ニ於テハ著大ナル工事ナシト雖輒近河岸缺留ノ爲メ粗桑工ヲ施設シ稍觀ル可キモノナキニアラス今其大要ヲ掲ケンニ左ノ如シ

那珂郡戸田村二百九十五間工費貳千四百六拾九圓餘(地方稅貳千四百參拾六圓餘町村費參拾貳圓餘) 明治二十五年六月着手二十六
年四月竣功同郡國田村百四十二間工費壹千參拾五圓餘(地方稅壹千九圓餘町村費貳拾五圓餘) 同二十五年五月着手二十六
年四月竣功東茨城郡飯富村一千三百七十二間工費壹萬八千貳百貳拾圓餘(地方稅壹萬八千貳百拾圓餘拾圓餘町村費拾圓餘) 同二十五年五月
着手二十六
年六月竣功水戸市百三十四間工費貳千貳百貳拾六圓餘(地方稅貳千貳百拾壹圓餘同餘市費拾五圓餘) 同二十三年四月著
手二十四
年六月竣功東茨城郡下大野村三百五十二間工費四千四圓餘(地方稅參千九百六拾四圓餘同餘町村費參拾九圓餘) 同十七年四月
着手二十五
年七月竣功那珂郡湊町二百二十間工費參千四百拾貳圓餘(地方稅參千七百七拾四圓餘同餘町村費六拾八圓餘) 同二十五年四月
着手二十六
年十二月竣功其他同郡野口村大字金井ニ起ル粗桑工アリ

(五) 勘十堀締切工事

澗沼ノ末流ハ往古ヨリ東茨城郡下入野村地先ヲ經テ大場村ニ達シ大貫村字八枚ニ通セリ河幅僅ニ三間

ニ過キサレカ故ニ漕運ノ利ニ乏シク且上流水害ノ因トナルヲ以テ寶曆年間水戸藩士松並勘十國費ヲ以テ大貫村字谷原地ヲ鑿開シ澗沼ヨリ直流セシメタリ今ノ入野川ハ即チ其河址ナリ其後又勘十水害防禦ノ爲メ排水路ヲ開カンコトヲ計リ大貫村字船渡ノ東ニ方リ少許ノ凹地アルヲ鑿チテ澗沼ノ派川トシ直ニ海ニ達セシメタリト雖波浪漸次土砂ヲ打寄セ遂ニ填塞シテ其效ナキノミナラス澗沼川洪水毎ニ河水暴漲シテ兩岸宅地ヲ破壊缺損スルノ患アリ弘化三年ノ洪水ニハ災害極度ニ達ス依テ藩吏出張防備ニ務メ締切工事ニ着手シ完全ノ施設ヲ爲ス爾來同所ヲ締切ト云ヒ川ヲ勘十堀ト稱ス其後元治元年ニ至ル迄激浪或ハ洪水ノ爲メ締切堤防ノ壞缺數回ニ及ヒシカ明治八年那珂川大出水流末ノ川敷ヲ變セシカハ澗沼川ニ逆流シ勘十堀ニ向ヒ遂ニ締切ヲ缺壞シ堀ノ沿岸非常ノ災害ヲ被リシノミナラス那珂河口ハ大ニ流勢ヲ減殺セシヲ以テ波浪ノ爲メ土砂堆積シテ遂ニ河口ノ閉塞ヲ見ルニ至レリ是ニ於テ平大貫外二村討議ノ末締切復舊ニ決シ三村ノ協議費及篤志者ノ寄附金ニ依ルノ外不足ハ官費ノ補充ヲ受ケ漸ク現今ノ處ニ完全ナル締切工事ヲ施シ民其堵ニ安セリ工費金千八百五拾九圓餘ヲ要シ内官ノ補充ニ係ルモノ五百五拾參圓餘ニ上レリ

(六) 飯沼川治水工事

享保年間飯沼開發成就後(飯沼ハ曾テ下總國結城岡田猿島三郡ノ間ニ介在シ縱七里橫一里餘ニ亘リ蘆荻叢生シ漁獵ノ入會地ニシテ平素浪浪ニ供スルコトナク加之出水ノ際ハ鬼怒川逆流シテ氾濫シ沿沼廿四箇村ノ耕地ヲ水腐ニ歸セシメ其害少ナカラサリシヲ享保年間井澤彌惣兵衛ノ計畫ニ依リ十年正月起工シ猿島郡馬立村入沼口ヨリ幸田神山等ヲ經テ利根川ニ通スル新築ヲ穿ツ廣七間五合延長二萬三千七百五十六間五合之ヲ總稱シテ飯沼落シ堀(今飯沼川)ト云フ飯沼澗沼址ノ檢田ハ總反別ニ

千二百三町餘ナリ外ニ溝渠田畔道(多々年所ヲ經テ利根鬼怒兩川ノ河底漸ク高ク溝渠亦崩壞シテ排水往時ノ如クナラヌ加フルニ頻年利根ノ洪水ヲ以テシ逆流飯沼川ニ氾濫シ新田漸次衰滅ニ歸セントス馬場村(結城郡)秋葉源二郎之ヲ憂ヘ應應三年代官某ニ訴ヘ逆水防止起工ヲ許サレタレトモ大政奉還國事多端ノ時ニ際シ實行ヲ見ルニ至ラスシテ逝ケリ明治十九年鴻野山村秋葉李之助源二郎ノ遺志ヲ繼キ有志ト謀リテ起工請願ヲ爲セシカ機熟セスシテ止ム爾來十有二年李之助等ノ盡力渝ルモトナク三十二年飯沼反町水除根水害豫防組合ヲ組織シ起工ノ認可指令ヲ受タルニ至リ則チ日本勸業銀行ヨリ資金參萬五千圓ヲ借入レ堤防ヲ築キ開門ヲ設ク開門ハ鐵扉ニシテ自働方法ヲ應用セリ(飯沼川及利根川ノ水量如何ニヨリ自ラ開閉ス)其年十月工ヲ起シ三十二年四月竣功ス斯クテ逆水防禦ノ目的ヲ達シタリト雖水源地ノ山林濫伐及池沼開墾ノ頻行等ニ依リ水量著シク増加シ且ツ反町開門外ニ於ケル利根川ノ水流緩漫ナルトニ因リ飯沼地帯ニ於ケル内水氾濫シ再ヒ毎歲水害ヲ蒙ルノ悲境ニ陥レリ依テ内水排除ノ方法トシテ四十三年度ニ於テ神大實村(猿島郡)太字神田山地先馬洗橋下流反町開門ニ至ル片上ヶ堤ヲ撤廢シ岩井町太字邊田、七郷村太字下出島地先ヲ延長八百三十餘間ノ引堤ト爲シ八百餘町歩ノ渚水地ヲ設ク此工費五千餘圓ヲ要セリ又四十四年度ニ於テハ反町開門一箇所ヲ増設ス此工費五千八百圓大正元年度ニハ飯沼川弓馬田村高臺地先水路擴張及浚渫工事(延長千三百五十五間)ヲ爲シ此工費壹萬四千四百餘圓ヲ要シタリ然レトモ未タ内水排除ノ目的ヲ達スル能ハスシテ歲々多大ノ被害ヲ重ネ飯沼新田ハ益々棄被ノ地ヲ増加シ人民他地方ノ新

栃木縣

開地ヲ求メテ連年移住スル者多ク享保當時ニ比シテ殆ント反對ノ現象ヲ呈セリ依テ大正元年以來耕地整理組合組織ノ計畫ヲ立テ排水事業ヲ實行セントシ技術員ノ派遣ヲ本縣知事ニ申請シ許可ヲ得テ既ニ調査ヲ了セルモ未タ關係者一同ノ意見一致セスシテ實行ヲ見ルニ至ラス

(一) 那珂川筋小川及箒川筋淨法寺護岸工事

那須郡那珂村太字小川那珂、箒兩川落合附近ハ晚近河身大ニ亂レ年々水田ヲ浸蝕スルコト尠カラサルヲ以テ明治二十五年ノ頃落合ヲ下ル數町ノ地ニ沈床工ヲ施スコト三箇所其延長六百間餘ニ及ブ然ルニ二十九年ノ大洪水ニ悉ク破潰セルヲ以テ同年國庫ノ補助ヲ得テ延長六百五十間ヲ復築シ翌三十年ノ央ニ至リ竣功セリ工費壹萬貳千八百七拾參圓餘ヲ要セリト云フ又同郡同村太字淨法寺ハ箒川流身ノ衝路ニ當ルヲ以テ土壤ノ缺壞尠カラス依テ明治二十五年ノ頃沈床粗築工ヲ施スコト長凡三百間餘然ルニ二十九年ノ大洪水ニ施工ノ大半ヲ破壞セルヲ以テ亦國庫ノ補助ヲ得テ完全ナル復舊工事ヲ起シ翌三十年ニ至リ竣功セリ

(二) 鬼怒川分流道木治水工事

鬼怒川ハ鹽谷郡天宮村字逆木ニ至リ東西二派ニ分レ阿久津村ニ至リ復タ合シテ一川ト爲ル從來同川ノ

水害ハ主トシテ西鬼怒ノ沿岸ニ在リ蓋シ西鬼怒ハ其河底東鬼怒ニ比シ低卑ナルヲ以テ流勢專ラ此方向ニ直下シ急奔激突遂ニ堤防ヲ缺壞スルニ由ル故ニ之カ治水ノ策トシテ東西分流口ニ於テ西鬼怒ヲ閉塞シ以テ悉ク東鬼怒ニ流入セハ此患ヲ除クヲ得ン往時西鬼怒ヲ開鑿セシ時代分流ノ必要ハ用水灌溉ノ利ヲ享ルニ在リタレトモ爾後當初ノ目的ニ反シ東西鬼怒其位地ヲ易エ先キノ本流タリシ東鬼怒ハ河床漸ク埋堆シ用水タリシ西鬼怒却テ大ヲ致シ水害ヲ逞フスルニ至レルモノナリ是レ明治三十年逆木治水工事ノ起ル所以ナリ是ヨリ先キ十七年縣令三島通庸始メテ蘭式粗朶工事ヲ起セシカト翌十八年ノ出水ニ破壞シ空シク水泡ニ歸セリ尋テ二十二年大ニ氾濫シ翌二十三年九月更ニ大洪水アリ沿岸被害最モ慘狀ヲ極ム二十四年二月日本鐵道會社ハ前年ノ被害ニ鑑ミ參拾萬圓ヲ投シ西鬼怒下流ニ石堰堤一箇所ヲ新設シ而シテ該築堤中央ニ約二十間ノ流身口ヲ開ケリ是レ西鬼怒ノ水量ヲ減スル目的タリシカ其年九月竣功ヲ告クルト同時ニ洪水ノ爲メ破壞セラレ管ニ所期ノ效ヲ奏セサルノミナラス字上平護岸石張工ノ突出セル爲メ一層水勢ヲ激甚ナラシメ却テ水害ヲ助長スルニ終レリ翌二十五年七月西鬼怒沿岸各大字人民連署シテ逆木工事施行ヲ出願セリ縣官及內務省技師等實地ヲ視察シ床止メ工事起工ノ議ヲ決シ日本鐵道會社ニ照會シテ八千圓且ツ地元人夫ヲ寄附セシメ縣費壹萬餘圓ヲ合シ壹萬八千五百餘圓ヲ以テ該工事ニ著手成功シ尙二十七年更ニ於テ防禦工事ヲ施シ治水上幾分ノ效果ヲ見ルニ至リシモ未タ完全ト云フ可カラス果シテ二十九年九月ノ大洪水ニ當リ水量ノ増大未曾有ト稱シ俄然堤防ヲ決シ沿岸被害

最モ悲慘ヲ極メタリ西鬼怒川沿岸被害ノ絶エサルハ其原因主トシテ逆木分流口ノ宜シキヲ得サルニ在リシカ二十九年ノ出水氾濫ニ徴シ殆ント疑フヘカラサルモノアリ依テ知事ハ吏員ヲ派遣シ實地ヲ測量セシメ更ニ新計畫ヲ立ツルニ至レリ今其ノ大要ヲ記スレハ(一)主トシテ分流口ヲ改良スルノ目的ヲ以テ西鬼怒川ヲ從來ノ分流口ニテ締切リ其川床ヲ埋メ新ニ字稚兒ヶ淵ニ隧道ヲ開穿シ以テ東鬼怒本流ヲ同隧道口ヨリ分流セシメ之ヨリ下流數百間新川ヲ開鑿シ從來ノ西鬼怒川ニ注カシム(二)本川ヲ直流ナラシムルカ爲ニ民有地ヲ買上ケ之ヲ開鑿シ河幅ヲ一定シ且ツ南北兩岸ニ石張(三)猶ホ本川ノ氾濫シテ西鬼怒川ニ向テ暴漲シ去ルヲ防カンカ爲メ南岸ニ第一第二ノ石堰堤ヲ築造シ及三個ノ水制ヲ設ケテ水勢ヲ緩ナラシム(四)更ニ護岸石張工ノ外面ニ石堤ヲ築ク事是ナリ此設計タル工費實ニ拾壹萬圓ヲ要セシモ容易ニ縣會ヲ通過シ且ツ國庫補助ヲ稟請シ許可ヲ得タリ乃チ三十年五月九日東鬼怒本流掘割ニ著手シ續テ西鬼怒新川掘割工事ニ從事八月二十四日假堀トシテ竣功ヲ告ケ時恰モ用水期ニ會セシヲ以テ流水セシニ好結果ヲ得タリ然リ而シテ其最モ急ヲ要スル工事ハ出水期前ニ於テ一時西鬼怒川ニ假締切ヲ爲スニ在リ然レトモ東鬼怒新川未タ竣功セサルカ爲メ本瀬締切工事ヲ施ス能ハス然ルニ一方ニ於テ出水期日ノ切迫ノ來レルアリ監督吏員ハ日夜人夫ヲ督勵シ唯其ノ出水ニ遭遇シテ九俣ノ功ヲ一簣ニ虧クヲ恐レタリ果シテ九月八日ニ至リ天候險惡風雨滯然トシテ來リ其變測ル可ラサルモノアリ又一秒時タモ悠々安心スヘキニ非サルヲ以テ夜半ニ及フモ尙人夫ヲ督責就業セシメ漸クニシテ假締切

竝ニ新川掘割ノ成功ヲ見ルニ至レリ翌九日水量増大將ニ氾濫セントシテ施設宜シキヲ得河身悉ク變更
 シ所期ノ目的ヲ全クセリ思フニ假締切工事ニ對スル水量ノ適度ナリシハ能ク舊川流身ヲ埋堆スルニ至
 リシモノ乎是レ逆木工事成功ノ第一著手ト云フヘク更ニ進ンテ本工事ニ從事シ新ニ用材三萬九千七百
 餘本ヲ購入シテ不足ヲ補充シ兩岸護岸石垣工事（南ニ在ルモノ四百十六間及後方石垣）ヲ始メ第一石堰堤（長三
 百九間）下流護岸二百八十間第二石堰堤（長百九十）及水制三箇ノ工事ニ著手シ更ニ又稚兒ヶ淵岩層ニ火
 藥ヲ裝置シ隧道百七十間（八十五間）ヲ穿通シ且其孔口ニ縣技師ノ設計ニ成レル門扉ヲ建設シ出水ノ機
 備ヲ等全工事着々歩ヲ進メ三十一年五月中旬ヲ以テ竣功ヲ告グルニ至レリ星霜ヲ閱スル一歲有餘工
 費ヲ投スル拾壹萬五千餘圓用材殆ント拾萬本ニ上リ人夫ヲ役スル廿二萬七千餘ニ及ヘリ工場ノ周圍二
 里ニ餘リ一望廣大堅牢ナル工事ヲ大成セル寔ニ治水上多トスヘキナリ工事請負人兩名相謀リ本工事ノ
 起因ヲ永ク後世ニ傳ヘント欲シ沙原松林ノ閑地ヲトシテ一大石碑ヲ立ツ即チ逆木治水工事碑是ナリ

奈良縣

(一) 大和川航路改良工事

大和川筋葛下郡王寺村龜瀬ト稱スル所ハ巖石河中ニ横リ其高一丈餘水流ヲ遮激シテ自ラ瀑布ノ狀ヲ成
 シ流勢ヲ上下ニ分チ爲ニ航通ノ便ヲ得ル能ハス平群郡平群村民某大ニ之ヲ憂ヒ明治十一年二月書ヲ堺

縣ニ呈シ私費鑿除ノ工ヲ請ヒ工成ルノ後十年一箇月間通舟荷物一駄ニ對シ金貳錢ヲ徵取シ費用ヲ回收
 セシコトヲ以テセリ十三年七月許サル乃チ十四年七月工ヲ起シ貳千餘金ヲ投シテ巖石ヲ鑿除シ十六年
 八月遂ニ功ヲ竣ル水流水始メテ平ヲ得上下航通其度ニ適ヒ大ニ便益ヲ受クト雖上流ノ澱滯淵深ヲ疏シテ
 航通ノ快速ヲ來セカ爲メ頻年流水排去シテ水量ヲ減シ土砂澆源シテ河床ヲ低クシ遂ニ却テ淺流ニ化
 シ本川及ヒ左支寺川二流固有ノ便ヲモ併セ失ヒ其害延ヒテ大阪府ニ於ケル本川ノ末流ニ及ヒ僅々數年
 ニシテ土砂ノ河床ヲ埋堆スルコト殆ント五尺ニ達セシカハ同廿年以來遂ニ浚疏工事ヲ創施スルニ至レ
 リト云フ

(三) 葛下川改修工事

大和ノ葛下川源ヲ北葛城郡二上ニ發シ北流紆餘曲折同郡王寺村ヲ經テ大和川ニ注ク大雨毎ニ暴漲往々
 堤防ヲ缺壞シ田廬ヲ淹沒シ隨テ修ムレハ隨テ壞ル村民尤モ困ム明治廿二年ニ至リ戶長森利七惣代谷豊
 治郎公金村資各壹千圓ヲ收メ次テ小鍋堤二百間ヲ修ム既ニシテ大阪鑄造會社將ニ軌道ヲ王寺村ニ通セ
 シトス此軌道堤防ノ衝ニ當リ之ヲ布設センカ排水ノ道ヲ杜塞シ洪水ノ害更ニ劇甚ナルヘキモノアリ村
 民保井増造堀口長治郎等深ク之ヲ憂ヘ相互利害ノ有ル處ヲ察シ遂ニ改修スル事ニ決ス乃チ會社ハ金四
 千六百五拾圓ヲ捐出シ村資貳千圓ヲ支出シ大ニ土功ヲ興シ小鍋以北堤防ノ曲折セルモノヲ修ムルコト
 一千二百圓以テ河腹ヲ廣ム此處用工三萬五千人廿三年八月工ヲ起シ翌年十二月成ヲ告ク是ニ於テ平復

タ水害アルナク能ク治水ノ目的ヲ達セリト云フ
本縣ニ於テハ地方稅支辨ニ屬スル河川ニ對シ明治廿一年中縣令ヲ以テ水防ニ關スル規定ヲ發布シ之ヲ
實施セリ即チ非常ノ出水ニ依リ堤防急破シ防禦ヲ要スルトキハ地元町村ヨリ水下關係ノ町村へ便宜ノ
方法ヲ以テ急報防禦スル事地元町村ハ前記急報ト同時ニ町村役場郡役所警察署巡查駐在所警邏巡查本
縣土木課最寄出張土木官吏中最近ノ箇所へ所轄(本縣土木課ヲ除ク)ノ異同ニ拘ラス急報出張ヲ請フ事水下町村ハ
急報ニ接スレハ其關係者へ無洩通報シ直ニ急報ノ箇所へ馳付ケ防禦法ニ盡カスル事水防用具ハ大略莖
菰俵板戸疊藁杭柵竹粗朶流菰木石土繩蔓明松蠟燭油燈眞灯燈舟木材掛矢等ヲ備へ置ク事等ナリ

(三) 水防規定發布

三重縣

(一) 上之輪新田切上工事

桑名郡大山田村大字上之輪新田ハ木曾川ノ流末ニ位シ耕地卑濕ニシテ毎年豊穰ヲ見ル能ハス同村ノ肝
煎片桐忠右衛門之ヲ憂ヒ天保元年長五十間ノ大樋管ヲ設ケ水腐ノ患ヲ除キタリシニ安政元年ノ震災ニ
耕地樋管共ニ窪陷シ再ヒ水腐ノ地ト爲レリ忠右衛門前功ノ水泡ニ歸シタルヲ歎シ百方苦慮セシモ志ヲ
果サスシテ逝ケリ男忠兵衛父ノ遺志ヲ繼キ以爲ラク地盤ヲ高クスルノ一途アルノミト遂ニ切上掘工事

ヲ藩廳ニ請願ス許サレヌ更ニ乘込樋ヲ伏セ耕地ニ入砂ヲ爲サムコトヲ請フ亦許サレヌ是ニ於テ先ツ村
民ヲ誘導シテ同意ヲ得堤防ヲ切斷シテ一舉ニ入砂シ地盤ヲ高クセンコトヲ請ヘリ藩廳忠兵衛ノ志堅キ
ニ感シ費額金四百七拾兩ノ六分ヲ下附シ四分ハ村費ヲ以テ支辨スルノ許可ヲ與フ慶應三年堤防切割工
事ニ著手セシニ幾許ナラスシテ伏見ノ變起リ藩ノ貸與金ヲ停止セラレタレハ遂ニ切割セシ處ヲ村費ヲ
以テ舊形ニ復シ空シク工事ヲ中止セリ明治五年復タ桑名縣ニ請願セシニ官之ヲ容レ其費金四百七拾兩
ノ内六分六厘ヲ官費三分四厘ヲ村費負擔ト定メタリ斯クテ工ヲ起シ先ツ卅町歩ノ耕地切上ノ功ヲ竣ル
然ルニ一反歩二石有餘ノ收穫ヲ見ルニ至リタレハ村民效果ノ空シカラサルヲ感シ十、十一兩年ニ涉リ
未了ノ耕地切上ノ工ヲ起シ費用壹千有餘圓ヲ以テ遂ニ全耕地ノ工ヲ竣ヘ六十町歩ノ水腐ヲ救蘇セリ是
ニ於テ忠兵衛ノ素志始メテ達シ闔村其利ヲ被ル忠兵衛更ニ切割堀ノ沼地ヲ填埋スルノ工ヲ起シ遂ニ成
功セリ

(二) 壬生野村修堤工事

阿山郡壬生野村ニ於テハ明治九年大洪水以後雨潦下ル毎ニ土砂ノ河川ヲ埋ムルコト甚シカリシモ久シ
ク堤防修補ノ舉ナク動モスレハ大被害ノ來ランコトヲ慮リ廿七年五月金谷道路ノ擴築ト共ニ大字川東
地内瀧川通ノ堤防中最モ危急ナル箇所延長三百五十間ヲ修築シ工費金壹千五百參拾餘圓ノ内地方稅補
助金八百六拾餘圓ノ外六百六拾餘圓ハ村費ト直接關係地主ノ寄附金トヲ以テ支辨セリ

(三) 宮川派川締切工事

宮川筋度會郡御蘭村大字高向ハ土地東南ニ低傾シ山田町地内ニ於テ檜尻川ヲ派ス是レ昔時洪水ニ際シ高向ヲ經流セル浸水ヲ收容セシ水路ニシテ蓋シ又一個ノ放水路タリシナリ是ヲ以テ山田町ノ民往時之カ締切ヲ肯セサリシカ地元村落切ニ之ヲ望ミ明治十二年始メテ茲ニ堤ヲ築キ廿四年ニ至リ成ル所謂綿屋戸堤是ナリ是ヨリ先キ同村大字小林及神社町大字馬瀬間ニ於ケル派川馬瀬川締切工事ハ十九年竣功セリ其ノ地形檜尻、馬瀬兩派相酷似スト云フ其他豊濱村ニ於ケル大字磯村及土路西條間ノ締切工事アレトモ其年代ヲ詳ニセス蓋シ宮川ハ會テ此地ヲ流下シ土路西條ノ地ハ今ノ大字檜原ノ如ク河口ニ於ケル一島嶼ヲ成セシコト明ニシテ亦以テ往時ノ河狀ヲ推知スルニ足ラン

(四) 宮川上流開鑿工事

宮川ノ主流ハ群峯重疊到處鬱蒼タル杉檜樹林ナラサルハナク實ニ天賦ノ森林地タリ然ルニ水源ヨリ多氣郡萩原村大字天ヶ瀬ニ至ル流路六里餘ノ間ハ河幅狹隘河底ニ巨岩大石横ハリ濫流急劇頗ル漕運ノ不便ヲ極メ豊富ノ森林ヲシテ空ク腐朽ニ歸セシメントスル虞アルノミナラス比年社會ノ進歩ニ伴ヒ木材ノ需用頓ニ増加シ斯ル狀態ニ委スヘキニアラサルヲ以テ地方有志相謀リ四日市八卷道成外四名初メテ河身私費開鑿ヲ其筋ニ請願シ許可ヲ得明治二十二年工ヲ起シ專ラ岩石ヲ破碎シ二十四年ニ至リ功ヲ竣ル即チ開鑿延長一萬二千九百卅間ニシテ岩石ヲ破碎スルコト十五萬八千五百六十三立方尺工費總額金

七千九百貳拾八圓餘ヲ要セリ爾來大ニ昔日ノ觀ヲ改メ木材狩下ノ便ヲ得萩原村天ヶ瀬同村下眞手ノ二箇所ニ於テ年々筏ト爲シ市場へ運漕スル員數一ケ年平均六萬本以上トス而シテ本事業ニ投シタル工費償却ノ爲メ木材ノ價格ニ應シ通河錢ヲ徵收セリ

(五) 佐奈川水害豫防組合ノ事

奈佐川(備田川右支)堤防水害豫防組合ハ同川堤防ヲ保持シ非常水害ヲ豫防スルヲ目的トシ規約ヲ設ク組合會ノ組織等ハ普通水利組合ト大差ナシ組合ノ費用ハ地價八分家屋二分ノ割合ヲ以テ之ヲ賦課ス

(六) 堤防保護規則ノ制定

本縣ニ於テハ堤防保護規則ヲ設ケ平時ヨリ地元及關係町村ニ堤防及立竹木ノ保護ヲ負擔セシメ堤防接近ノ場所ニ適宜水防具儲藏小屋ヲ設ケ空俵繩及杭木等ヲ準備セシム其員數ハ河川ノ大小堤防ノ模様ニ依リ適宜斟酌シ一定セスト雖最下限堤防長百間ニ村空俵卅個繩十房(二十等)及杭木(長九尺末口三寸以上)十五本以上ノ割合トシ以テ非常ノ際防禦ニ從事セシム而シテ急破ノ虞アルトキハ鐘鼓ヲ鳴ラシ關係町村若クハ大字ニ其急ヲ報セシム尙堤防保護ノ爲メ堤外五間以內ニ於ケル土石ノ採掘芝草ヲ刈取木石ヲ堆積等ハ悉ク之ヲ禁止シ不得已場合ニ於テハ其旨出願セシメ其他民有敷堤塘ノ進退樹竹ノ栽植伐採又ハ樋管修繕ノ爲堤防ノ掘鑿亦出願セシメ許可ノ後ニアラサレハ施行セシメス水防ノ用具ハ前記儲藏ノ杭木繩空俵ノ外出役人夫各自携帶ノ鎌鍬畚鋤簾掛矢槌等トス

愛知縣

(一) 黒川開鑿工事

黒川(庄内川)ノ開鑿ハ其ノ目的庄内用水灌溉ノ疏通ヲ圖リ關係數十箇村ヲシテ潤澤普及ノ利ヲ受ケシメ且ツ木曾川ト堀川(名古屋市)トヲ連絡セシメ新ニ舟楫漕運ノ便ヲ開カントスルニ在リテ明治九年十一月工ヲ限シ十年十月成ルヲ告ク其ノ黒川ト稱スルハ計畫者ノ氏ニ取ルナリ縣屬土木課長ニシテ名ハ治愿本工事ノ外功績甚多シ今其ノ功程ヲ舉ケンニ庄内川ノ南岸東春日井郡高村間大字瀬古地内八田川(木曾川分)落口ト斜ニ相對スル所ニ樋管ヲ設ケテ分派ス之ヲ第一閘門ト稱ス以下長二百七十間ノ新渠(水ノ要所)ヲ鑿チ夫ヨリ矢田川北岸堤脚ニ至ル長三十六間ヲ新ニ疏鑿シ(川床十一間上廣)二城村大字川(川床六間上廣)ヲ鑿チ夫ヨリ矢田川北岸堤脚ニ至ル長三十六間ヲ新ニ疏鑿シ(川床十一間上廣)二城村大字川村ヨリ來レル舊用水路ヲ此ニ合セ矢田川流底ヲ横斷シテ長八十九間四尺ノ暗渠(高横各)ヲ通シ同川留樋ニ竝ヘ新ニ長十四間ノ留樋(内法高横)ヲ設ク之ヲ第二閘門ト稱ス而シテ凡二十五間ヲ距テ、三口落シ戸ノ關柵(尺幅十八尺)ヲ構ヘ東西各二個ノ分水口ヲ設ク即チ西第一分水口ニ長八間(内法高五尺二寸五分)ノ樋管ヲ置キ之ヲ西春日井愛知二郡五十九箇村ノ用水原樋(水坑)トシ第二分水口ニ長八間(内法高五尺三寸)ノ樋管ヲ置キ之ヲ西春日井愛知二郡八箇村ノ用水原樋(水坑)トシ東第一分水口ニ長四間(内法高一尺)ノ樋管ヲ置キ之ヲ西春日井郡内三箇村ノ用水原樋(水坑)トシ第二分水口ニ長四間(内法方)ノ樋管ヲ置キ之ヲ

名古屋城内及西春日井愛知二郡内四個村ノ用水原樋(舊御用)トス而シテ幹流水路ハ關柵ヨリ南方西春日井郡金城村大字東志賀地内大幸川ニ至ル長八百八十九間(川床六間上廣七)ヲ鑿チ夫ヨリ大幸川ニ沿ヒ斜ニ西南ニ向ヒ名古屋市深井町ニ至ル長一千十七間(川床六間上廣)ヲ疏シ更ニ深井町ヨリ長三百二十九間(川床八間上廣十二)ヲ掘リ以テ鹽町堀川ニ接續セルモノナリ即チ幹流水路延長一里八町餘ニ亘ル寔ニ大工事ト謂フ可キナリ

(二) 入鹿溜池重修工事

庄内川ノ右派新川ノ右支五條川ノ水源入鹿溜池ハ往昔山間ノ一村落后リシヲ寛永十年尾藩主徳川氏命シテ其住民ヲ他ニ移シ園村五百有餘石ノ地ヲ池底ト爲シ堤塘ヲ設ケ樋管ヲ伏セ終ニ一大池ヲ創鑿セルモノナリ即チ周圍三里ニ及ヒ閘門及立樋ヲ構ヘ灌溉ニ便ス然ルニ明治元年五月霖雨數日池水暴漲三堤ノ一ナル西方ノ河内屋堤ヲ決シ奔水猛逸巨石ヲ流シ喬木ヲ倒シ瞬間六十二箇村形跡ヲ失シ餘波延テ數十百箇村ニ及ヒ田圃ノ荒廢數千町家屋ノ流亡一千又餘戸溺死幾ント一千人古今未曾有ノ災害ト稱ス乃チ藩主直ニ破堤九十間修築ノ工ヲ起シ假ニ馬踏四間高五間敷二十九間ノ堤防ヲ築キ又貯水在來ノ閘口ニ及ハサルヲ以テ此堤防ニ水流長三十間高四尺横六尺ノ假樋管ヲ設ケ以テ一時用水ノ便ヲ與ヘ尙堤防ノ漸次復舊ヲ計畫シ豫算金拾萬六千九百圓ヲ以テ同年十一月ヨリ翌二年十二月ニ至ルノ間先ツ該堤防ニ重修増厚ヲ加ヘ馬踏四間高十間三尺敷五十四間三尺トシ貯水漸ク在來ノ閘口ニ及フヲ以テ假樋管ヲ

廢シ更ニ中堤ニ水流長二十五間四尺五寸高四尺八寸横十三尺餘ノ放水樋ヲ新設シ此堤防ヲ重修増厚シ馬踏三間高六間敷二十六間ト爲スニ方リ偶々廢藩ニ際シ未タ復舊ニ至ラスシテ止ム延テ新縣此業ヲ繼キ五年及七年官費ヲ以テ重修増厚ヲ加ヘ十一年更ニ事由ヲ内務卿ニ稟申セシヲ以テ木木局長及水利工師蘭人等實地ヲ検査スト雖殊別ノ考案ヲ與フルコトナシ然ルニ之ヲ荏苒ニ附セシヲ以テ貯水乏ク灌溉村落ハ比年早損ニ苦ミ近郷村落ハ破堤ヲ恐レ共ニ安スル能ハス屢復舊ヲ請願ス十二年縣令安場保和縣僚黒川治愿ニ命シ確乎不拔ノ計畫ヲ立テシム治愿以爲ラク堤ヲ速ニ復舊シ之カ保存ヲ爲サントンレハ池水ノ暴漲ヲ減殺スルノ法ナカルヘカラス既ニ放水樋ノ豫備アリト雖狹隘ノ開口ヨリシテ放射セシムルヲ以テ噴水極メテ猛逸中堤ノ保持太タ危険ナリ若シ數旬ノ霖雨アルトキハ周圍三里ニ滿ツル水量始終能ク之ヲ維持スヘカラサルヲ以テ其増減ノ權衡ヲ審査シ小富士山脚ノ巖石ヲ穿テ硯門ヲ造リ餘水ヲ此ニ漏泄スルトキハ其地堅質ニシテ堤防ノ耐保必然ナリトシ其方案ヲ設ケ里民ニ示ス里民ハ富士山神其土石ヲ愛スルカ故ニ其山脚ヲ穿テ河川ト爲シ土石ヲ減殺スルハ神怒又測ル可カラスト爲シ頻ニ之ヲ拒絕セシモ治愿敢テ意トセシ大ニ肝膽ヲ碎キ工費ノ支出方ヲ計畫シ上司ニ稟シテ政府ノ補助金ヲ受ケシメ之ニ縣費及民費ヲ加ヘ其年十一月工ヲ起シ十五年四月ニ至リ竣成セリ其間二年有半ノ久シキニ涉ルト雖毫モ怪ムヘキコトナシ是ニ於テ里民始テ妄説ノ信スヘカラサルヲ知得セリ本工事係官ハ岩本賞壽堀田安善ノ二名ニシテ其巖石斲取ノ如キハ安善實地ニ就キ之ヲ監督シ夙夜寒暑ヲ冒シ外督内正其

苦又想フヘシ工費ハ明治元年ヨリ二年ニ至ルノ間舊藩ニ於テ支出セシモノ金四萬七千七百貳拾參圓餘外ニ民費參千九百七十六圓ヲ課セリ五年ヨリ七年ニ至ルノ間新縣ニ於テ施行セシ復舊工事官費金參千參百六拾貳圓餘民費六百圓十二年ヨリ十五年ニ至ルノ間復舊工事及硯門掘鑿其他ニ官費縣費及雜收入計金貳萬八千貳百九拾壹圓餘外ニ民費五百圓ヲ要セリ以上通計八萬四千四百五十參圓餘ニ上レリ復舊堤防ハ長九十間直立高十五間幅員上層三間下層七十九間之ヲ舊堤幅員ニ比スルトキハ下層七間ヲ増加セリ又池中水位六間三尺ヲ程度トシ餘水ハ硯門ヨリ放流ス此硯門長壹百四間高十五間山層ニ隨ヒ漸ク低ク最低四間トス幅員上口六間床三間ナリ即チ本堤ノ北(全池ノ西南隅)小富士山脚ノ巖石ヲ穿テタルモノニシテ此穿取ノ巖石ハ悉ク堤防土料ノ補足ト爲セリ本工事完成ノ後早損破堤ノ兩患ヲ除キ村民始テ堵ニ安ンセリ翌十六年村民謀リ一大碑ヲ建テ其ノ事蹟ヲ不朽ナラシムト云フ

(三) 木津用水改良工事

木津用水ハ水原ヲ木曾川ニ取リ犬山町大字木津ニ元坎ヲ設ケ丹羽、葉栗、東西春日井ノ四郡二十三箇町村反別五千三百餘町歩ニ灌溉ス慶安元年尾藩祖徳川義直ノ創設ニ係ルト傳フ主要水路四アリ曰ク木津用水幹線(延長一里四町餘)新木津用水(延長三里二十九町餘)古木津用水(延長二里三十二町餘)五條川筋(延長三里二町餘)是ナリ外ニ下野用水般若用水ノ二小水路アリ蓋シ新木津用水路ハ明治十六年縣令國貞廉平ノ勸誘ニ依リ工費金貳萬圓ヲ以テ改修工事ヲ起シ從前幅員二間ナリシヲ六間ニ擴張スルコ

ト三里半ニ及ヒ工費八千圓ヲ増加シ竣功ヲ告ケタリ又改修ト同時ニ犬山西元垵ヨリ名古屋市堀川ニ至ル舟楫ノ便ヲ開キ又流末勝川町始メ七百二十町歩ノ卑低地ハ二毛作ノ良田ト化セリ又東元垵ハ明治二十五年震災復舊工事トシテ縣費ニテ改築ノ後大正三年縣費補助工事トシテ五千六百餘圓ヲ投シ口換工事ヲ施シ西元垵ハ明治十六年伏換四十二年木樋ヲ鐵筋コンクリートニ改造セリ工費貳萬七千餘圓ナリ又犬山町通稱三光山ノ對面木曾河中ノ岩石ヲ起點トシ下流長三百三十二間幅十間ノ導水堤ヲ設置シ木津用水元垵へ吸水セリ此導水堤ハ當初明治十一年安場縣令黒川土木課長ノ設計ニ成ルモノ後大正元年八月現狀ニ更正築造セリ又前記五條川筋用水路ハ灌漑反別千餘町步ナルニモ拘ラス排水惡シク降雨連ナルトキハ出水堤防ヲ破壊シ田面ニ氾濫シ收穫ヲ減耗セルニヨリ丹羽郡岩倉町ノ人水越理三郎率先シテ地方有志ト謀リ堤防ノ増築ヲ其筋ニ上申ス其議容ラレテ修堤功成リ排水ノ方宜シキヲ得今ヤ良好ノ田地トナレリ又古木津用水（合瀬川）モ灌漑區域ハ地味膏腴ナルモ排水惡シク霖潦數日ニ及ヘハ堤防ヲ破リ收穫ヲ減セルヲ以テ西春日井郡師勝村大字鹿田ノ人山田九藏明治十八年治水委員ト爲ルヤ堤防増築ノ必要ヲ屢々當局ニ上申シ其議容ラレテ今日ハ千九百五十餘町歩ノ田面二毛作ノ地トナリタリ

(四) 鷺戸川惡水路改修工事

鷺戸川トハ海西郡立田輪中ノ中央ヲ南流スル惡水路ヲ謂フ延長三千六十五間幅員狹キハ八間廣キハ二十有餘間トス立田村閘門外ニ於テ木曾川ニ會ス立田輪中ハ尾州ノ西域ニ位シ南北ニ綿延シ西南ハ木曾川ニ接シ東北ハ佐屋川ニ沿ヘル一島嶼ニシテ西一羣水ヲ隔テ、濃勢二國ニ隣ル輪中ノ村落曾テ四十有二今併合シテ二十有六トナレリ地形北部ハ隆高南部漸ク卑低赤目、早尾、新右衛門、下一色四村ノ如キハ南北ノ中間ニ在リテ地勢最モ卑低ニ屬シ木曾川之ヨリ高キコト三尺ニ過ク故ニト流ノ落水氾濫スレハ下流之ヲ沮壓シ湛水毎ニ溝渠ニ溢溢シ茫乎トシテ水陸其界ヲ識ラス況ンヤ霖雨ノ厄洪水ノ災ニ遭遇スレハ其慘害ノ及フ所名狀スヘカラサルモノアルニ於テオヤ尾州第一ノ水地ト謂フヘシ往昔萬治二年鷺戸川以下ケノ舉アリ爾來稍害ノ少キヲ覺フト雖前年木曾佐屋二水ノ決スルアリ地形一變被害却テ舊ニ倍ス四村之ヲ患ヒ前後水訟息マヌ屢穿川除害ヲ請ヘトモ舊藩之ヲ容レス終ニ名ヲ道路ニ假リ一條ノ堤防ヲ私築シ以テ防禦ニ充ツ蓋シ已ムヲ得サルニ出ツ北部其ノ不利タルヲ以テ來リテ之ヲ壞ラントス彼此竹槍相交ルニ至ル降リテ明治維新ノ後屢穿川ヲ企ツルト雖亦果サヌ十一年七月霖雨連旬湛水漲溢放流ノ便ナシ四村聯合大舉シテ道路縱橫二千有餘間ヲ私築ス南北之ヲ拒妨シ竹槍復交ル警察官吏ヲシテ之ヲ論サシムルト雖肯セス紛擾既ニ三日ニ垂ントシ縣ハ縣官黒川治愿ヲ派遣シ鎮撫ノ事ニ當ラシム反覆懇諭味爽ヨリ黄昏ニ至リ漸クニシテ紛擾ノ原因タル縱橫道路ヲ悉ク破壊セシメ爰ニ全ク鎮靜スルヲ得タリ尋テ治愿ヲ再派シ地理ヲ點檢審按シ施工ノ計畫ヲ四村ニ示ス四村相議シテ之カ實施ヲ請フ南北從ハス之ヲ論スニ一般除害ノ完全ナルヲ以テシ其利害得失ヲ明カニシ議始メテ諾フ是ニ於テ事由ヲ内務卿ニ具シ十二年四月許可ヲ得タリ即チ改修ノ計畫タル北部高島下大牧ノ間ヨリ立石、赤目ヲ

經ラ早尾ニ達スルノ間一條ノ新河ヲ穿テ之ヲ鵜戸川ニ接續シ戸倉川ノ迂ヲ直ニシ沿川悉ク新堤ヲ築キ下流古堤ヲ重修増厚シ北部諸村ノ溝渠縱横右曲左折セルヲ改良シ堤塘ヲ設ケ疏通ノ便ヲ與ヘ悉ク中心ノ鵜戸川ニ流落セシムヘシ此ノ如クンハ鵜戸川ハ内部數條ノ溝渠ヨリ流水一時ニ湊注スルヲ以テ水位自カラ高ク水勢隨テ急ヲ加ラ又水源近キヲ以テ洪水ニ際スレハ木曾川ノ暴漲ニ先ンシ其過半ヲ流落スヘシ又會テ流末ニ海潮防禦ノ閘門アリ潮汐ノ干満ニ隨ヒ自カラ開閉ノ便アリ之ヲ閉塞スレハ閘内ノ洪水前ニ倍シ益高キヲ以テ其ノ之ヲ開放スルニ及ヒテハ流出極メテ速ナリ舊時一回ノ洪水ニ閉鎖スルコト三日ナリシモノ今更ハ僅ニ一日若クハ一日半ヲ出テサルヘシ是レ其ノ要領ナリ内務省ノ許可ヲ得ルヤ其月中旬ヲ以テ工ヲ起シ十一月初旬竣功セリ一切ノ工費及潰地買收立毛損失ノ補償等實費總額金壹萬五千貳百九拾壹圓餘内八千八百四拾八圓餘ハ縣費ニシテ六千四百四拾參圓餘ハ民費ナリ新川及溝渠ノ開鑿併セテ三千二百三十六間餘新川幅員狹キハ十五尺廣キハ九間四尺溝渠幅員狹キハ五尺廣キハ十至尺新築堤防九千七百三間餘古堤防重修重厚六千二百六十五間餘架橋二十五垧樋新設二十五同修繕四潰地僅ニ八町六反ニ餘餘ニシテ流水混々トシテ疏通シ數百年ノ禍根一時ニ除却シ地方民始メテ其計畫ノ精巧ナルニ驚嘆セリ試ニ改修前後ノ收穫ヲ比較スルニ差引米一萬二千五百七十七石餘ノ利益ヲ増殖セリ田圃ノ利既ニ此ノ如ク且積年ノ紛糾頓ニ解斷シ輪中始メテ緝睦シ鼓腹ノ樂境ヲ得ルニ至レリ是ニ於テ地方民相議シ一基ノ記念碑ヲ建立シ以テ改修ノ事蹟ヲ不朽ニ傳ヘ其惠澤ヲ永遠ニ垂示スルノ舉ニ

出タリ

(五) 兩國輪中改修工事

木曾川ノ流末ニ一島嶼アリ廣袤凡三里西鍋田川ヲ繞ラシ東筏川ヲ帶ヒ南海濱ニ面ス全島二十六村内中山新田以下十四村ハ愛知縣尾張國海西郡ニ隸シ而シテ中山新田以外ノ十三村ハ芝井稻元兩輪中ニ分ル川原缺新田以下十二村ハ三重縣伊勢國桑名郡ニ屬シ而シテ川原缺新田以外十一村ハ加稻輪中ノ下ニ在リ則一島二國ニ跨リ境界犬牙出入纒ニ一條ノ堤塘溝渠ヲ以テ之ヲ別ツニ過キス地形卑濕ニシテ比年水災ヲ免レヌ會テ藩政ノ頃灌水ヲシテ海濱ニ放流セシメンコトヲ籌策シ一水路ヲ穿ツト雖工法精ナラス其目的ヲ達スルコト能ハサリキ明治十二年愛知縣ハ三重縣ト議シ内務卿ニ稟シ更ニ尾勢ノ國境ヲ鍋田川中央ニ定メ而シテ川原缺新田以下十有二村ヲ尾張國ニ編入シ海西郡ニ屬シ始メテ全島一縣ノ下ニ治ス是ニ於テ縣ハ十四年七月ヲ以テ興利除害ノ役ヲ起ス即チ舊藩ノ頃一タヒ開鑿セシ水路ハ今ヤ壅塞其用ヲ爲サスト雖内部ノ洪水ハ此水路ニ由リ海濱ニ注クヲ以テ得策トシ大ニ此ノ水路ノ改修ヲ圖リ一ハ森津村及芝井新田ノ間ヨリ鎌島、松名、寬延、間崎、稻元稻荷等六新田ヲ經テ三稻新田及三稻外操出新田ノ間ニ至リ海濱ニ注クヘキ水路ヲ改修シ一ハ稻元、狐地、狐稻等三新田ノ水路ヲ改修シ三稻新田ノ間ニ於テ前水路ニ合流セシメ各沿川其障礙トナルヘキ樋管堤防ヲ除却シ水路幅員ヲ規シテ四間乃至八間トシ其狹窄ナルモノヲ廣濶ナラシムルコト長程五百六十一間三尺埋堆ヲ浚疏スルコト長程一千有

六間左右小堤ヲ新築スルコト長程五千七百六十一間下流三稻外操出新田海濱堤防ノ閘門ヲ改造シ長十
九間三尺内法高五尺一寸横十七尺三寸三口ヲ有スル閘門二個竝長同上内法高六尺二寸横六尺三寸一口
ヲ有スル閘門一個ヲ並列設置シ各閘門裏ハ上ケ戸表ハ開キ戸ヲ設ケ内ハ以テ湛水ノ放流ヲ便ナラシメ
外ハ以テ海潮ノ浸入ヲ防ク其他内外樋管ヲ水門ニ改造セシモノ二十九水路ニ懸樋ヲ架スル三橋梁ヲ架
スル二十八不用トナレル堤防ヲ除却スルコト長程一千八百十四間餘廢棄シタル樋管及水門立切等合シ
テ廿翌十五年五月竣功セリ其ノ改修一切ノ費用金壹萬六千五百五圓餘内四千參百參拾參圓餘ハ地方稅
ニシテ壹萬貳千七百七拾貳圓餘ハ協議費トス島民工事ノ完全ナルヲ視テ皆悅服シ相協同シテ落成ノ祝典
ヲ舉ク縣令國貞廉平其典ニ臨ミ各輪中ノ舊稱ヲ停メ全島ヲ總括シテ兩國輪中ト命名ス是レ蓋シ一島中
數多ノ名稱ヲ存スルハ自カラ民心隔離ノ嫌アルカ故ニ先ツ其名ヲ正セルナリ而シテ之ヲ兩國ト改稱セ
シハ一島舊ト尾勢兩國ニ跨ルヲ以テノ故ナリ爾來積年鬱結セシ水訟頓ニ氷解シテ湛水ト共ニ疏通シ水
政一ニ歸シ民心協和太平ヲ謳歌シ尙廢地及不用堤敷等ヲ開墾シテ數十町歩ノ良田トナシ以テ輪中永遠
ノ利益ヲ享受スルヲ得タリ今全島水路改修以後ノ收穫ヲ以前ト比較スレハ其水腐ヲ免レテ產米ノ増殖
セシコト正ニ一千餘石ニ及ヘリ

(六) 味鏡洗堰修築工事

愛知春日井二郡中濃ヨリ出ル勝川ト參ヨリ出ル矢田川ト二水相會シテ庄内川トナリ庄内ヲ縈回シテ海

ニ歸ス明和四年七月水災最甚シク安永八年八月水潦復至リ衆民昏墊藩主尾侯深ク之ヲ憂ヒ人見(門右衛門子魚)
水野(千之右衛門)兩士ヲシテ水ヲ治メシム水野士惇首トシテ其事ヲ謀リ水行ヲ精覈スルニ春日井郡比良村
大蒲沼ハ群村ノ衆水會湊セルヲ以テ其沼ヲ以テ施功ノ始ト爲シ天明四年沼南味鏡堤ヲ鑿テ其堤腹ニ就
キ五分ノ石堰ヲ築キ比良村ヨリ海東郡榎津村ヲ距ルノ間ニ別ニ一巨川ヲ疏鑿セルモノ是ヲ新川ト號シ
以テ庄内川ノ水勢ヲ殺ク又往昔五條川ノ水八屋村ヲ歷テ庄内川ニ會ス故ニ其潦五條川ヲ沂リ海東郡ヲ
害ス依テ八屋ノ派口ヲ塞キ五條川ノ水ヲ新川ニ會セシム又庄内川中ヲ中須村ニ塞キ乃チ二川ヲ分チテ
下一色村ノ南ニ至ル庄内川新川ニ派纜ニ一堤ヲ隔テ、海ニ雙歸シ群村悉ク災ヲ免ル明治ニ至リ庄内川
土砂流出川底漸ク高ク暴水新川ニ漲入シ沿村ノ被害甚シキヲ以テ十一年洗堰ヲ修ム五箇月ヲ經テ其夏
六月成ル味鏡堤ヨリ低キコト九尺八寸以テ水害ヲ免ル、モノ新川沿村ノミナラス海東郡ノ東部ニ及フ
十四年九月河水洪漲石堰崩決官ニ告テ之ヲ修ム翌十五年秋十月暴水復タ堰ヲ破ル下流人民驚愕更ニ之
ヲ修メンコトヲ請フ其月工ヲ起シ翌十六年八月成ル其ノ堅牢前日ノ比ニアラス民庶豐穰ニ鼓腹スト云
フ蓋シ十一年以來修堤三次安場、國貞二縣令ノ時代ニシテ黒川土木課長專ラ事ニ當レリ

(七) 庄内川通船開始ノ事

明治十年黒川ノ開鑿アリ十六年新木津用水路ノ改修アリシヨリ始メテ丹羽郡犬山町地先木曾川ヨリ名
古屋市堀川ニ達スル航路開通スト雖當時地方民未タ其利ヲ覺ラス十八年流末村落ニ於テ偶々通船ヲ開

タノ議起リシモ議諾ハヌ十九年二月ニ至リ東春日井郡二重堀村松永左衛門ナル者奮起シテ愛船株式會社ヲ組織シ沿河村落ニ説キ其證明ヲ得テ用水季節外即チ每年秋季彼岸ヨリ夏至十日前ニ至ル二百五十日間通船ヲ營業センコトヲ其筋ニ出願允許ヲ得タリ本航路ハ概ネ水流急ニシテ下舟ハ滿載航下ノ便アリト雖上舟ハ全ク之ニ反シ僅少ノ貨物ヲモ積載スルヲ得ス加フルニ橋梁多ク風帆ノ便ナキヲ以テ曳舟ヲ爲シ辛クシテ湖ルノ状態ナリ又木曾川洪水ニ際シ往々犬山町地先木津元舟前ニ於テ砂礫非常ニ堆積シ航路ヲ壅塞スルコトアリ故ニ犬山名古屋間ニ於ケル貨物ノ遭運ハ其捷路タルニモ拘ラス今尙盛況ヲ見ルニ至ラスト云フ

(八) 矢作川上流航路開鑿工事

西加茂郡藤岡村ノ入市村團十郎矢作川上流ノ舟路ヲ開カント志シ明治六年同郡高橋村大字平井ヨリ同用ヲ溯リ東加茂郡旭村小渡及美濃國惠那郡野原村迄其距離約七里ノ間河床ノ障害タル岩石除去ノ工事ヲ企テ七年三月縣ノ許可ヲ得直ニ工事ニ着手セシニ水中ノ作業ニ係ルヲ以テ屢々意外ノ困難ニ遭遇セシモ終ニ支出合計千參百貳拾九圓ヲ以テ航路開通ノ目的ヲ達セリ工費償却ノ方法ハ舟筏割木管流材木等ニ課金シ明治八年ヨリ同四十六年ニ至ル三十八年間ニ完償スルコト、セリ今ヤ舟路開ケ上川口(藤岡村)迄ハ鵜飼船ノ往復易々タルノ外上流ニ於テモ筏ノ上下ニ操夫ノ恐怖ヲ除キ民利ヲ享クルコト多シ

(九) 矢作川流域三河國三郡輪中治水事蹟

三河國額田、碧海、幡豆三郡矢作川治水ノ事蹟ヲ溫ルニ抑モ同國ハ名ヲ河ニ得ルモ山多シ故ニ高低相望ミ燥濕ニ偏ス是ヲ以テ旱災水害兩チカラ免ル、能ハス然ルニ舊幕府時代ハ封土采邑犬牙相錯リ各其ノ利害ヲ知リテ而カモ興除ノ役ヲ企ツル者ナシ明治十二年本縣始メテ改修計畫ニ着手シ十八年ニ至リ工事完成ヲ告ク今三郡ノ地理ヲ按スルニ額田郡乙川以南十七村碧海郡矢作川以東二十六村幡豆郡矢作古川以東二十六村ハ地形相接シ長流西北ヲ圍繞シ層嶺東南ニ連亘シ而シテ其隅菱池アリ凡水ノ東南ニ出ル者皆之ニ委シ西流シテ矢作古川ニ入ル之ヲ廣田川ト云フ北部諸村ノ惡水西南ニ合流シ漸ク西シテ矢作古川ニ入ル之ヲ安藤川ト云フ南山衆溪ノ水西ニ湊合シテ矢作古川ニ入ル之ヲ須美川ト云フ地形最モ低シ矢作古川ノ如キ川底田ヨリ高キコト數尺加之古川中流小燒野堰アリ安藤川下流江原堰アリ廣田川ニハ中島、永良、室ノ三堰アリ川流之カ爲ニ障塞セラレ惡水常ニ澁滯シ六十九村中其害ヲ免ル、モノ十中二三ニ過キス安藤、廣田ノ下流及矢作古川以西ノ村落ニ至リテハ地形漸ク高ク常ニ用水ノ不足ニ苦ム小燒野江原等ノ五堰ヲ設ケ灌溉ニ供スト雖堰高ケレハ上流惡水益々澁滯スルカ故ニ其程度ヲ定メ越過ヲ許サス夏時ニ旬雨ヲ得サレハ川水忽チ涸レ大雨ニハ乙川南堤ノ低キ其水南方ニ濺溢シ六十九村一モ其害ヲ被ラサルハチシ矢作川及古川堤防亦完全ナラサルカ故ニ屢破決シ水害ハ旱災ヨリモ甚シ幡豆郡ハ矢作古川東西七十九村用水ヲ古川ニ取ル然ルニ古川派口毎歲填塞シ村民力ヲ流疏ニ竭スト雖隨テ

疏スレハ随テ填シ水量足ラス僅ニ安藤、廣田ノ餘水ヲ以テ之ヲ補フ而シテ諸村猶乏シキニ苦ム既ニ繞
 ラスニ長流ヲ以テシテ而カモ其ノ利ヲ失ヒ害ヲ布クコト此ノ如シ是レ水ヲ治メサルヤ郡民ノ不幸豈其
 レ小ナラン哉是ニ於テ其地形ヲ測量シ將ニ大ニ改修スル所アラントセシモ施工十數項ニ亘リ而モ其事
 業相待チテ成ル者ナレハ乃チ之ヲ一時ニ舉行セサルヲ得ス而シテ其費亦巨額ヲ要スルカ故ニ人心民力
 ヲ顧慮スルコト殆ント二年十五年偶マ洪水アリ矢作川其他數所破決最モ甚シキハ乙川堤防ノ破潰ニシ
 テ其害延テ六十九村ニ及ヒ良田三千餘町一面ノ湖水トナリ家屋ヲ浸ス二千餘戸流亡三十餘戸溺死者三
 十人民咸昏墊慘狀言フ可ラス上下僉云是レ豈一日モ之ヲ緩フスヘケン哉ト縣會ノ議立ロニ決シ十數項
 ノ工事一時ニ起ル今工ヲ記スルニ方リ乙川ヨリ始ム蓋シ成功ノ源ハ其破堤ニ出ツルヲ以テナリ

(一) 乙川流末改修 乙川ハ額田郡ノ山北ニ發シ下流漸ク長大西流矢作川ニ入ル其流路北ハ岡崎城市ニ
 接シ南ハ明大寺、久後崎、六名、上六名四村ニ通シ乃チ三郡六十九村ノ咽喉ナリ然ルニ岡崎藩ノ時ニ
 方リテハ其程度ヲ定メ南堤ヲ低クス俗之ヲ水越堤ト稱シ以テ城市漲溢ノ害ヲ防ク廢藩ノ後猶其規ヲ守
 ル故ニ洪水毎ニ南岸沿村氾濫ノ患ヲ免レス延及ノ害ニ至リテハ前ニ記スル所ノ如シ何ソ藩政苛刻ノ甚
 シキヤ是ニ於テ其地形ヲ實測シ先ツ洪水衝突ノ林石ヲ除キ更ニ舊線ヲ退ケ新堤ヲ築キテ之ヲ堅牢ニシ
 以テ川流ヲ廣ム久フシテ壞レサルヘシ北岸ハ菅生村ヨリ岡崎板屋町ニ達スル其長八百五十餘間ノ新堤
 ヲ築キ又舊堤ヲ改築スルコト千三百四十五間

(二) 矢作川堤防改築 矢作川堤防ハ額田郡六名村乙川下流ヨリ幡豆郡小島村矢作古川派口ニ至ル間破
 壞スル毎ニ乃チ線ヲ退キ堤ヲ築ク故ニ新舊並存ス是ニ於テ川形ニ妨ナキモノハ新舊ヲ論セス水勢ニ順
 ヒ迂曲ヲ矯正シ之ヲ改修ス其長四千六百七十五間高廣堅壯率ネ舊貫ニ倍ス

(三) 矢作古川用水改修 矢作川下流碧海郡藤井村ニ至リ分レテ二流ト爲ル幡豆郡中央ヲ南流スルモノ
 ヲ古川ト稱ス是レ即チ東西七十九村灌溉ノ繇ル所ナリ而ルニ其派口常ニ水流水勢ノ壓スル所ト爲リ土
 砂填塞シテ浚疏ノ功徒勞ニ屬スルコト向キニ言フ所ノ如シ加之古川以東村落動モスレハ小燒野堰ノ爲
 ニ水害ヲ被リ東西警視結ンテ解ケサルコト久シ是ニ於テ派口ノ浚疏ヲ問ハス更ニ一水路ヲ古川ノ西ニ
 開キ閘門ヲ設ケ矢作本流ノ水ヲ注疏シ以テ七十九村ノ用水ニ供シ而シテ古川ニ流入セシム新堤ヲ築ク
 百二十餘間

(四) 小燒野輪中改修並小燒野堰變更幡豆郡小燒野輪中八村ノ地東ニ古川アリ西ニ弓取川アリ相繞ル
 弓ノ如ク宛然一小嶼ナリ之ヲ繞ラスニ小堤ヲ以テスト雖一朝洪水アレハ古川ノ水潦八村ニ浸溢シ全嶼
 忽チ池沼ト爲ル蓋シ小燒野堰水勢ヲ遮沮スルヲ以テナリ是ニ於テ小燒野前面古川ノ廣狹ヲ均一ニシ數
 十步ヲ退キ前後一貫ノ堤防ヲ築キ以テ弓取川ノ首尾ヲ塞キ僅ニ以テ其水ヲ通シ而シテ其川流ヲ
 狭クシ中流以上專ラ用水ノ流路ニ備ヘ其以下專ラ惡水ノ放流ニ充ツ又小燒野堰ヲ廢シ更ニ堰ヲ弓取川
 用水分派ノ所ニ置ク堤防ヲ改築スルコト千四百二十四間

(五) 安藤、廣田二川改修並四堰廢棄流路別異及古川堤防改築 安藤川ハ額田郡福島新田碧海郡上和田等數村ノ惡水湊合シ在家村ニ至リテ始テ川形ヲ成ス上下三木、申村、定國、正名、福桶、安藤、下中島、高畑、幡豆郡米野、尾花、小島、江原十三村ヲ經テ矢作古川ニ入ル古川水底頗ル高クシテ小燒野堰江原堰其下流ヲ遮リ上流村落惡水ノ澁滯ニ苦ム曾テ安藤川ニ一水門ヲ設ケ古川ノ沂洄ヲ禦キシモ洪水ニ遇ヘハ古川水潦ノ妨クル所ト爲リ之ヲ開ク能ハス横溢益加ル村民改修ノ志ナキニアラスト雖上流ヲ疏セント欲スレハ下流乏ヲ告ケ下流ヲ利セント欲スレハ上流害ヲ訴フ彼此和セス迭ニ水旱ノ害ヲ被ル是ニ於テ兩全ノ策ヲ施サント欲シ乃チ諸村ヲシテ專ラ用水ノ便ヲ高橋水路ニ取ラシメ安藤川ハ只タ惡水ノ疏通ヲ主トシ江原堰ヲ廢棄シ水底ヲ濬ニ狹隘ヲ廣ム其長二千百十七間新堤二千六百四十一間而シテ其流末江原村ニ至リ將ニ古川ニ達セントスル所更ニ一水路ヲ開キ古川東岸ニ沿ヒ和氣、大和田、高河原三村ヲ經テ廣田川ニ會ス其長千四百三十五間築堤千四百二十九間廣田川ハ額田郡菱池ニ發シ菱池、福岡碧海郡定國、正名、下中島幡豆郡永野、上下羽角、貝吹、駒場、室、上下永良、岡島、高河原、華藏寺十六村ヲ經テ矢作古川ニ入ル而シテ楠川、柳川、洲川、占部川、浚川ノ數流集リ會ス然ルニ中島、永良、室三堰及古川小燒野堰上流ノ惡水ヲ遮沮シ比年水旱ノ害ヲ被ルコト亦安藤川ノ如シ故ニ之ヲ改良センニハ專ラ灌溉ノ利ヲ高橋及占部用水ニ取り而シテ廣田川ヲ以テ惡水ノ放流ニ充テ中流ノ三堰ヲ毀除シ其屈曲ヲ矯正シ狹隘ヲ鑿チ填塞ヲ疏シ華藏寺村ニ至リ將ニ古川ニ達セントスル所更ニ一水

路ヲ開キ安藤川新鑿ノ水路ニ接シ古川ノ東岸ニ沿ヒ須美川流末岡山村ニ至ル其長九百七十間新堤大小ヲ合シ凡六千七百四十間

(六) 菱池沿周圍築堤並後川、前川、石川、疊川、江尻川其他數條ノ河川改修 菱池ハ其周回三千餘間諸山溪流ノ會同スル所而シテ水源皆積山故ニ土砂流出シ池底漸ク填塞ス加之下流廣田川ノ水壅塞シ大雨ニハ池水四方ノ耕地ニ氾濫ス是ニ於テ其害ヲ除カント欲シ施工最モ多シ其一ハ池ヲ周リ堤ヲ築クコト北福岡村ヨリ南野場村ヲ經テ永野村ニ抵ル凡三千百三十四間其二ハ大狹間川、山本川、向川、下手川、新赤川ヲ浚疏シ堤防ノ新築及重修之ヲ合シ千五百九十一間トス其三ハ山添、久保田、長嶺、後川、前川、石川、赤川ノ七川皆相集リテ菱池ニ入ル而ルニ毎川土砂填塞シ川底田ヨリ高キコト丈餘堤防屢急水ノ壞ル所ト爲リ土砂田ヲ被フ其害最モ酷シ是ニ於テ新ニ川路ヲ坂崎村ニ穿テ山添川ヨリ七川ヲ横斷シ悉ク其水ヲ集メ高力、北鷺田、菱池三村ヲ經テ菱池ニ入ル相見川ト名ク其長四千六百二間堤防之ニ準ス而シテ開鑿ノ功嶮坂ノ間ニ至リテ甚タ苦ム蓋シ施工中最モ奇ニシテ難ナル者ナリ其四ハ江尻川、尾濱川、疊川、浚川、柳川及廣田川上流ノ舊堤ヲ改修ス其長凡四千二百三十五間其五ハ楠川ハ額田郡上地、坂崎二村ノ山間ニ發シ耕地ノ惡水ヲ合シテ一川ト爲リ上地、福岡、菱池三村ヲ經テ廣田川ニ入ル而ルニ水源ノ山亦濯々タリ堤ヲ破リ田ヲ填ムルコト山添、久保田等ノ害ノ如シ是ニ於テ新ニ水路ヲ山腹ニ穿ツ其長六百一間以テ溪流ノ通スル所ト爲シ更ニ惡水路ヲ鑿ツ其長九百四十八間新堤千

五百十四間其六ハ松柵二萬七千三百株ヲ坂崎、高力ノ緒山ニ栽エ土砂ノ流出ヲ扞止セント欲ス

(七) 洲川改修 洲川ハ額田郡上地、若松二村ノ山間ニ發シ福岡村ヲ經テ廣田川ニ入ル其源亦童山其害如前是ニ於テ水路ヲ改修シ川底ヲ浚鑿スル其長千二百七十四間堤防ノ新築重修合シテ二千七十五間ト爲ル上地、若松等ノ緒山ニ松柵凡七萬八千五百株ヲ植エ而シテ其溪間ニ於テ溜池二箇所ヲ築キ水路ヲ橫截シ以テ流砂ヲ防ク又貯水ヲ以テ各地ノ用水ニ供セント欲ス

(八) 須美川砂防 幡豆郡六栗、須美等諸村ノ溪流集合シテ須美川ト爲リ流レテ岡山村ニ至リ矢作古川ニ入ル而ルニ土砂流出シ其害亦甚シ之ヲ浚疏スルモノハ碧海幡豆二郡十二村ニ係リ其害ハ各緩急輕重アリ故ニ其心ヲ一ニセス屢爭論ヲ起シ浚疏ヲ怠リ而カモ其害ノ已ニ及フ愈多キヲ自覺セス是ニ於テ其害根ヲ絶タント欲シ先ヅ其緒山五百餘町ヲ各村ニ分割シ之ヲシテ各其責ニ任セシメ植フルニ松柵四十萬株ヲ以テス又溪間ニ於テ防砂ノ溜池ヲ造リ二水路ヲ開ク一ハ以テ時ニ其貯水ヲ注出シ耕地ノ灌溉ニ供シ一ハ數溪ノ水ヲ合セ入レ之ヲ須美川ニ放流ス其堤二路ヲ合シ九百六十二間深篠川築堤三百六十九間又善明村ノ溪流ニ於テ溜池ヲ造ル亦土砂ヲ防キ用水ニ供センカ爲ナリ凡松柵ヲ植フル坂崎ヨリ須美川ニ至ル總テ五十萬千八百株ト爲ル每嶺蒼然色ヲ成ス以往ノ盛效想フ可シ

(九) 占部用惡水改修 占部川ハ慶長年間ノ開鑿ニ成ル始メ碧海郡國正、中村、定國正名四村ノ用水タリ俗四村ヲ占部郷ト云フ其源矢作川ニ出テ額田碧海二郡ノ内福島、上和田等十二村ヲ經テ廣田川ニ入

ル其後分流額田郡福島新田及碧海郡法性寺以下二十五村ノ用水ト爲ル然ルニ堤防最モ低クシテ脆シ大雨ニハ氾濫ノ害ヲ憂ヒ久旱ニハ分水ノ乏キニ苦ム是ニ於テ新ニ閘門ヲ作り堤防ヲ高堅ニスルコト其長九百二十三間又水路ヲ分チテ二流ト爲ス南ハ筧ヲ廣田川ニ架シ菱池ノ西ニ達シ東ハ筧ヲ柳川ニ架シ菱池ノ東ニ達ス其間小渠ヲ穿チ之ヲ福岡村ノ耕地ニ引用ス又占部川流末ニ於テ筧ヲ廣田川ニ架シ幡豆郡永野村ニ達ス新堤大小ヲ合シ二千六百五十三間ト爲ル

(十) 高橋用水改修 高橋用水ハ矢作川ニ發シ既ニ碧海郡高橋、合歡木、福桶、安藤、幡豆郡高落、新村、東淺井七村ニ供シ猶餘水アリ是ニ於テ之ヲ改修シ併セテ碧海郡下中島、幡豆郡上下羽角以下二十二村ニ供ス先ツ高橋村ノ原樋ヲ改造シ注口ヲ疏鑿シ原樋ヨリ高橋、上下青野、福桶ノ四村ヲ經覽ヲ安藤川ニ架シ下中島ニ至リ分レテ二流ト爲リ一ハ之ヲ西南ニ導キ江原村ニ達シ一ハ南流シテ上下永良二村ヲ經覽ヲ廣田川ニ架シ駒場及室、善明、華藏寺ニ至リ須美川ニ入ル二水路新堤之ヲ合シテ三千六十四間ト爲ル

以上三郡ノ治水其設計ノ如ク成ナ工ヲ畢ル抑モ施工ノ地閘ヲ造リ樋ヲ置キ筧ヲ設ケ橋ヲ架ス其他築造ノ小ナルモノ幾百ナルヲ知ラス而シテ其大ナルモノハ前ニ述フル如シ之ヲ要スルニ施工ノ結果ハ永ク旱災水害ヲ免レ豊稔ノ功ヲ收ムルモノ三郡ノ内百四十八村ナリ豈一大工事ニアラスヤ經費總計拾五萬參千五百五拾八圓餘(内譯地方稅參萬參千六百四拾六圓餘協議費拾壹萬九千九百拾貳圓餘)内土工費拾

萬七千四百三十五圓餘種管橋梁工費壹萬貳千七拾九圓餘苗木栽植費六百四拾六圓餘漬地買上代家屋移轉料參萬參千參百九拾六圓餘ナリ人或ハ其ノ巨額ナルヲ議ス而カモ未タ其實ヲ知ラサルノミ成功ノ後屢大雨ヲ經又十六年非常ノ旱アリ一モ其害ヲ見ス是レ實效ニアラスヤ試ニ十六年ノ收穫ヲ以テ之ヲ改修前ニ比スレハ年ニ一萬九千三百三十七石餘ノ增收ヲ得タリ既ニ一歲増ス所ヲ以テ工費ノ半ヲ償フ實利ニアラスヤ蓋シ本工事計畫者ハ黒川土木課長ニシテ國貞縣令(廉平)野村大書記官(賀真)ノ時代ナリ役了ルノ後地方ノ民相謀リ碑ヲ建テ功ヲ勸シ之ヲ後昆ニ傳フ所謂三郡輪中治水碑是ナリ

(一) 幡豆郡ノ三工事

幡豆郡ノ三工事トハ上横須賀村閘門ヨリ渠ヲ穿チ古川ヲ導ク其幅十二尺東ノ方岡山、木田、小牧、寺島四村ヲ經テ矢崎川ニ注キ合流半里許ニシテ復タ堰ヲ設ケ饗庭村ノ南ヲ過キ富好新田ニ達スル新用水ハ其一ナリ矢崎川河面本ト狹隘且ツ堤防固カラズ爲ニ水害少カラス乃チ河底ヲ浚ヒ河幅ヲ擴ムルコト廣三十尺堤防之ニ稱フ即チ其二ナリ又小金堤ヨリ高橋用水ヲ導キ灌溉ニ便ス之ヲ高橋分水ト謂フ其三ナリ蓋シ同郡古川以東從來水利ニ乏シキヲ以テ村人相議シ官ニ上申シ渠ヲ穿タントス官吏ヲ遣ハシ其地利ヲ相シ其成功スヘキヲ前知シ之ヲ允ル明治十七年一月役ヲ起シ同年十二月竣ヲ告ク利ヲ得テ害ヲ免ル、モノ合セテ十九箇村ナリ

(二) 半田汐留坑工事

知多郡半田ノ舊家小栗三郎左衛門小栗七左衛門元錄八年山方新田ヲ築造シテ英比川ヲ東流セシメタル後下半年田ノ庄屋中野又左衛門ナル者同川ノ害猶除カサルヲ患ヒ救治ノ策ヲ案セシカ安政元來十一月ノ海嘯及翌二年八月ノ洪水ニ遭遇シ慘狀ノ大ナルヲ目撃シ浩嘆措ク能ハス英比諸村及岩滑村ニ交渉シ半田村ノ自普請ヲ以テ船江ヲ擴張シ十箇川及五番川ヲ船江ニ流注セシメ以テ排水ノ道ヲ開カント謀リシニ何レモ異議ナキヲ以テ官許ヲ得テ山方新田ニ於テ幅十八間長三百三十間ノ地ヲ掘上ケ以テ船江ヲ擴張シタリ是レ現今ノ船江ニシテ半田村ハ之カ爲ニ排水ノ利ヲ得タルノミナラス又海運ニ益セリ古今半田ニ施行セシ幾多ノ公益事業中恐ラク其右ニ出ツルモノナカルヘシトノ事ナリ然ルニ十箇川及五番川ヲ改修シテ船江ヲ擴張シ兩川ヲ之ニ流下セシメント欲セハ必ス汐留坑ノ設備ナカルヘカラス因テ此改修ト共ニ汐留坑ヲ設置セリ之カ費用ハ五番川ノ分ハ上半田、岩滑ノ兩村ニ於テ負擔シ十箇川ノ分ハ之ヲ十四分シ其十三分ヲ英比各關係村ニテ負擔シ一分ヲ半田村ニテ負擔スルコトニ當初ノ約束アリシカ明治二十五年ノ頃英比人ノ苦情アリ其後半田町ニテ全部負擔ノ上之ヲ改築セリ

(三) 豊川舊堤防ノ得失

豊川左岸八名郡長部村大字一畝田ヨリ渥美郡豊橋町ニ至ルノ間ハ丘陵高野或ハ近ツキ或ハ離レ其間平坦ノ耕地ヲ狭ミ各一區劃ヲ爲スヲ以テ從テ堤防(馬踏)斷續シ丘陵ニ近ツキテ止ミ又支川合流點ニ至リテ盡ク故ニ洪水ノ際ハ逆流毎ニ堤尾ヨリ耕地ヲ浸シ皆爲ニ肥沃ノ地タリ下流吉田方村一部ノ堤防(馬踏)

乃至二)ハ連續シテ海岸堤トナル右岸南設樂郡千秋村大字野田、豊島ノ堤ハ共ニ一部ノ平地ヲ掩護スルノミ本茂村大字東上以下同村大字松原ニ至ルノ間ハ山脈直ニ河岸ニ臨ミテ堤防ノ設ナシ是ヨリ以下高原漸ク離レテ西南ニ走リ本川ハ東ニ向ヒ又南ニ轉シ其間平坦ノ地ハ即チ寶飯郡ノ良田沃野ナリ而シテ其堤防ハ亦築流堤(馬路二間)ニシテ前後相重リ堤尾接續セス中間逆水氾濫ノ地ヲ存ス大村以下一貫直ニ海岸堤ニ接續スル堤防(馬路二間乃)アリ蓋シ本川流域ノ山地ハ岩石ニシテ吸收力少ク且ツ流路短キヲ以テ出水亦自ラ急激一時ニ暴溢シテ各所堤尾ヨリ浸入セル濁水ハ肥料ヲ殘存シテ直ニ退却シ長時間停滯セス被害少クシテ其利ヲ得ル却テ多シ是レ築流堤ノ必要ナル所以又舊來經驗ヲ積ミタル最後ノ上策タリシナラン明治十四五年ノ頃其利害ヲ顧ミス目前ノ小利ニ走テ此習慣ヲ破リ堤防ヲ連續セシメタリ爾來頻年水災多ク破堤ノ害又水開地ニ溢ル、ノ比ニアラス一鴻良田ヲ流シ滔々タル濁海ヲ耕地間ニ現出セシメタルコト數次而シテ其起因タル實ニ此無謀ノ舉ニ在リト謂ハサルヲ得然レトモ其企圖一部ニ止マリテ全川ニ及ホサス兩岸尙舊時ノ觀ヲ失ハサルハ幸ナリト云フ可シ蓋シ本川沿岸ノ地ニシテ水害最モ多キヲ寶飯郡トス同地方ハ概ネ本川流送ノ土砂ヲ以テ形成セラレタル新陸地ナルヲ以テ地盤低ク之ニ反シ對岸八名、渥美兩郡ハ丘陵直ニ河岸ニ接シ或ハ平地ヲ存スルモ區域僅少ナルヲ以テ水量氾濫ノ餘地極メテ少シ加之本川流路ハ短クシテ且ツ勾配急ナルヲ以テ出水亦自ラ急激ニシテ下流河幅狹隘ノ地ニ沮滯シ此流量ヲシテ全然快通セシムル能ハス上流築流堤尾ヨリ一時逆流氾濫シテ各地ニ滯留スト

雖其地狹ク未タ以テ其銳威ヲ減殺シ盡スニ足ラス勢ヒ低地ナル寶飯郡内ノ護岸ヲ破リ堤防ヲ決スルノ多キニ至ルモノトス蓋シ同郡内ニ於ケル水害ニ關シテハ又他ニ其因アル者ノ如シ聞ク處ニ據レハ古來大洪水ニ際シ吉田(今豐)城下ニ架セル大橋及堤防ノ安全ヲ謀リ其猛勢ヲ減殺スルノ策トシテ上流大村地内宇宮井戸ニ一箇所ノ乘越堤ヲ設ケ水量七合ニ及ヘハ同郡ノ平野ニ浸入セシム此方法ノ始メテ行ハレタル其時代詳ナラスト雖今尙乘越堤ハ依然トシテ舊形ヲ存セリ是レ同郡内常ニ水害ノ悲況ヲ呈スル所以ナリト云フ

(三) 豊川河口ノ狹穿

豊川ノ河口ハ渥美灣ノ極東ニ當リ北ハ叢蔭タル一部耕地(加藤)ヲ隔テ、本川ノ右派豊古川ノ河口ナル前芝港ニ連レリ此地冬春ノ季節ニハ西風勁烈ニシテ波浪殊ニ高ク船舶出入ノ困難少カラス故ニ往々前芝港ニ碇泊シテ風波ノ鎮靜ヲ待ツコトアリ水深淺ク土砂滯積シ遠ク海中ニ及ヘリ又左岸渥美郡吉田方、牟呂兩村地先ノ海面ニ當リテ明治二十三年中吉田、新田(今神野新)築立ノ工成リ二十六年ニ至リ吉前新田工事竣ラ告ケ爲ニ河口大ニ狹穿セリ然レトモ平時ハ滿潮ニ在リテハ六尺乃至八尺ノ水深アルヲ以テ大船(積量凡三百五十石内外)自由ニ出入シ干潮時尙小舟ヲ出入シ得ヘシ而シテ本河口ハ上流ニ豊橋町ヲ控ヘ其輸出入本川ニ依ルモノ多キヲ占ムルヲ以テ之ヲ縣下ノ各川ニ比スルニ第一位ニ居リ船舶ノ航行頻繁ナリ

静岡縣

(一) 蒲原運河開鑿工事

從來富士川通船ハ下流岩淵ニ止マリシニ明治七八年ノ頃本縣庵原郡蒲原宿鹽坂長兵衛、佐藤信次郎、平岡晴次、山梨縣東八代郡黒駒村武藤藤太、古屋典義、坂本敬義ノ六名發起者トナリ岩淵南方沿岸ニ新ニ閘門ヲ設ケ水路ヲ鑿チ蒲原宿ニ至ル航路凡壹里ヲ延長シ兩地ノ間陸送ニ代ユルニ水運ヲ以テシ大ニ其便ヲ増セリ後同十九年夏用帆曳舟ヲ試ミタルニ頗ル人力ヲ省キ蒲原ヨリ猷澤ニ至ル溯洄四日ヲ費セシモノ用帆以來一月餘ノ日子ヲ減シ三日若クハ二日半ニシテ達スルヲ得タリト云フ

(二) 富士川改修工事及其ノ效果

富士川改修工事ハ明治十七年二月十九日ヲ以テ下流左岸富士郡田子ノ浦村五貫島(河口)地先ニ於テ護岸水制ノ二工事ヲ施設セルヲ本川起工ノ第一著手トス此レヨリ庵原郡富士川、内房兩村富士郡岩松村ニ及ホセリ工事ノ種類ハ内房村ニ施行セシ石縦堤及締切ノ石堰堤又ハ危岩破碎ヲ除クノ外ハ總テ護岸及水制ナリ三十二年一月全ク功ヲ竣ル今其竣功九箇所中效益顯著ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 内房村改修工事(十九年七月竣功)ハ同村地先一小嶼アリテ河流ヲ二分ス一ヲ釜ヶ淵ト云ヒ長二百三十六間餘一ヲ後川ト呼ヒ長二百六十八間小嶼ノ下ニ至リ相會ス水流殆ント釜ヶ淵ニ吸入セラレ後川水流ハ幅三四間ヨリ十二三間水深僅ニ一寸内外ニ過キス加之岩石處々ニ露出セルカ故ニ舟行常ニ釜ヶ淵ヲ取レ

リ然ルニ釜ヶ淵ハ兩岸絶壁ニシテ水深ク流激ク危岩左右ニ並列シ狹隘且ツ屈曲セルカ爲メ富士全川中最モ至險ノ所ト稱セラレ乗客舟夫共ニ命ヲ殞スル毎歲少カラス古來之ヲ憂トス會マ民間篤志者アリ淺瀬ヲ浚深シ又ハ岩石ヲ斫鑿セシコトアリシモ一部分ニ止マリ又運漕業者ニ於テモ毎歲怠ラス勉メテ其舟路ヲ浚疏シ又ハ障害トナレル岩石ヲ破碎スト雖一降雨出水毎ニ砂石堆積スルニ及ンテ其效ヲ全フスル能ハスシテ終ニ亦姑息ノ業タルヲ免レス然ルニ今回改修工事ヲ施シ低水ヲシテ專ラ後川ニ注カシメ洪水ニ際シ兩者共ニ流通スルノ設計ヲ立テ後川ニ散在スル所ノ危岩ヲ破碎シ釜ヶ淵ノ注口ニ於テ導水堤ヲ造リ流水ヲ後川ニ向ハシメ航路ヲ同川ニ定メタレハ所謂至險ノ所ヲ避クルヲ得タリ實ニ富士川ノ通船此一舉ニ依リ無上ノ慶福ヲ齎ラセリ此川路ニ據リ上下通舟スルモノ明治初年ニ在リテハ一箇年凡壹萬艘ナリシモノ今ヤ倍シテ貳萬艘ニ達セリ是レ上流ニ於ケル魚鹽其他ノ需用増加セシニ因ルト雖抑モ亦航路ノ改良ヨリ得タル結果タルヤ疑ヲ容レサル所ナリ

(二) 岩松村松岡地先改修工事(廿一年十月竣功)ハ同地先引堤タル富士全川改修工事中計畫ナキモノナリシモ東海道筋鐵道架橋位置ナルヲ以テ鐵道局ト聯帶施行スルコト、ナリシニ二十年八月十五日日本川筋東岸人民凡三百餘突然工場ニ來襲方ニ暴舉ノ勢ヲ呈セシニ依リ最寄警察署ニ急報シ郡長及警官等出張シ人民ニ向ヒテ原因ヲ尋問セシニ該村ハ富士川流域中最モ水防ノ要所ニシテ從來堤防ヲ破壞サレ水害ヲ蒙リシ村落數十ヲ算スルニ及ヒシカ明治三年宇龜出ニ堤防ヲ修築セシ以來屢出水ニ遭遇スト雖毫モ破壞セ

ラレス水ノ下人民ノカ爲ニ堵ニ安ンセリ然ルニ今回鐵道工事ノ爲メ該堤防ヲ除去セラル、ニ於テハ復タ前年ノ如ク水害ヲ被ルコト必然ナルニヨリ堤防ヲ其儘保存セラレンコトヲ歎願スト云フニ在リ乃チ工場主任ヲシテ改修工事設計トノ利害得失ヲ説明セシメ人民ノ疑念氷解ニ努メシモ人民見聞スル所日尙淺ク舊慣ニ拘泥シテ更ニ其效アルヲ見ス故ニ郡長及警官ハ人民總代七八名ヲ殘シ他ハ解散ヲ命シ後懇篤ニ改修工事ノ種類目的等ヲ諭告シ漸ク兇氛ヲ鎮靜シタリ果セル哉其後二十二年九月十一日近來稀ナル洪水ニ毫モ其損害ヲ見ス加之同村地先ニ設置セル水量水標水位ト七十町上流ナル羽鮒村水量水標水位トヲ比較スルニ改修前十八年七月一日ノ洪水ハ羽鮒村水量水標最高水位三十三尺五寸松岡同上十七尺五寸即チ其差十六尺ナリシニ改修後ノ前記九月十一日ノ洪水ニハ羽鮒村水量水標最高水位三十五尺五寸ニシテ松岡同上十四尺ナリ即チ其差二十一尺五寸前後相比シテ五尺五寸ノ差ヲ生セリ是レ全ク字龜出シノ堤防ヲ破壊引堤セルカ爲メ流心直下シテ下流兩岸衝突ノ憂ヲ免カレ且洪水位ノ低下ヲ來セシナリ然レハ今日ニ至リテハ水ノ下人民前日暴舉ノ杞憂ニ過キサリシコトヲ悟リ改修工事ノ安全強固ナルニ信賴セリ

(三) 庵原郡富士川村岩淵及中ノ郷富士郡田子ノ浦村五貫島各村地先ニ施行セシ改修工事ハ竣功後一小部分ノ損害アリシト雖何レモ僅少ニシテ其度毎ニ修繕ヲ加ヘ當今ニ於テハ施設ノ水制間ニ砂礫日ヲ追テ堆積シ雜草繁茂シテ大ニ堤防ヲ強固ナラシメタリ

(三) 治河協力社ノ事

遠江國ハ明治維新ニ至リ靜岡藩ノ所轄トナリ天龍川治水費ノ如キハ幕府施行ノ支辨方法ヲ因襲シ尋テ四年ヲ以テ濱松縣ノ所管ニ屬シ當時施ス所ノモノハ固ヨリ梓蛇籠菱牛等ノ類ヲ修繕シテ一時ヲ瀾縫スルニ止マリ暴風雨アルニ當リテハ沿岸村民懼々然トシテ寢食ヲ安ンセス五年濱松縣ノ調査ニ據レハ文久二年ヨリ明治四年ニ至ル十箇年間堤防費拾四萬九千餘圓ナリシト云フ此ノ如ク工事ハ總テ唯舊慣ニ拘泥シ深ク水理ヲ究メス往々流身ノ變動ヲ生シ加之從來ノ堤防薄弱ニシテ其危險言フ可カラス本川沿岸長上郡(今濱)ノ人金原明善ナリ者アリ祖先以來深ク之ヲ憂ヒ勵精盡瘁具サニ辛苦ヲ嘗ム明治八年官ニ請ヒ治河協力社ヲ創立シ有志ヲ募リ專ラ堤塘ノ築營防禦ノ事ニ從ヒ傍ラ天龍全川工事請負ノ業務ヲ執レリ明善元年大洪水ノ後治水事業荒廢ノ餘ヲ承ケ些々タル資金ノ奈何トモ爲シ難キヲ慨嘆シ十一年三月ニ至リ其家財金六萬有餘圓ヲ獻シ之ヲ治水費ニ充テントコトヲ官ニ請フ官其篤志ヲ嘉シ同年六月ニ至リ十箇年ヲ限り年々貳萬參千圓ノ補助ヲ與フルコトヲ以テス十四年一般治水ノ補助金ヲ廢止スルノ事アルニ際會ス官乃チ更ニ一時五萬圓ヲ下付シ元資ト合シテ修繕費ト爲サシム其後資金ノ増殖ニ隨ヒ大ニ施工ヲ爲サムトス適マ富士大井ノ兩川政府直轄改修ノ議アリ素協力社ノ事タルヤ二侯以南凡六里餘ノ修築ヲ爲スノ目的ニ出テタルモノニシテ天龍全川ノ改修ニ及ホシ難キ所アルニヨリ官ノ詮議ヲ經テ十七年九月ニ至リ天龍川亦直轄河川ニ編入セララル爲メニ協力社ヲ解クコト、ナレリ今同社ノ施設セ

シ事業ヲ舉クレハ隨時ノ堤防修築ノ外蓋シ左ノ如キモノアリ

(一) 險岩ノ破砕 今天龍川航路ノ險ヲ叙センニ抑モ上流長野縣伊那地方ノ如キ四面山嶽ニ圍繞セラレタル地方ニ在リテハ此天與ノ水路ヲ利用シテ東海道鐵道ト聯絡交通ヲ盛ニシテ利便ヲ得ルハ民生一日モ缺クヘカラサル所ナリト雖時又(長野縣下伊那郡龍丘村大字)以南遠江國東西雲名ニ至ル二十有餘里ハ峽間斷崖峭壁ニシテ峽勢蜿蜒轉窮リテ又通ス加フルニ危石暗礁突出起没シ流力激猛古來ヨリ破船ノ厄少カラス舟夫ノ頗ル困苦ヲ窮ムル所ナリト是ヲ以テ明治四年ノ頃ヨリ通船問屋相謀リテ最モ難所トセル部分ヲ掘割リ或ハ岩石破砕ヲ企圖セシモ竟ニ能ク其目的ヲ達スルヲ得ス十五年申治河協力社ニ於テ數箇所ノ險岩危礁ヲ破砕シ始メテ稍航路ノ安全ヲ獲ルニ至レリ

(二) 篙眼ノ穿鑿 前記險岩ノ破砕ト共ニ隨處ニ篙眼ヲ穿チシニ大ニ舟夫ノ苦難ヲ減スルニ至レリト云フ蓋シ篙眼トハ崖壁ニ穿テル小孔ノ稱ニシテ本川航路ハ凡ソ船ノ上下スル柁或ハ篙ヲ用フ危難ノ場所ニハ必ス篙ヲ用ヒ各篙眼ヲ撞キ左右之ヲ避ク一篙若シ誤レハ船忽チ破砕ス年長熟達ノ舟夫左右篙ヲ舞ハス甚タ輕妙篙細クシテ經寸石ヲ撞キ以テ屈ス弓ノ如クニシテ折レテ以テ克ク危機ヲ一髮ノ間ニ免レシムルモノナリ

(四) 天龍川改修工事

明治十七年政府本川ヲ直轄河川ニ編入シ十八年鹿島以下改修ヲ施スコトニ決シ(工費豫算金五拾貳萬五千九百九拾七圓餘)二十

七年ニ竣功セシカ後又追加工事ノ必要ヲ感シ三十年ニ起工シテ(工費豫算金拾八萬七千五百五拾五圓)三十二年度ニ竣功セリ今施設工事ノ重ナルモノヲ舉クレハ改修以前ニ在リテハ河幅甚タ廣濶ニシテ洪水毎ニ上流沿岸諸山ノ土砂崩壞スルモノ此ニ沈滯シ終ニ河中ニ數多ノ寄洲ヲ生シ之ヲ環ル所ノ分派ニ堤防ヲ設置ス其構造不完全ニシテ洪水ニ際シ崩缺シテ耕地ニ氾濫スルコト屢ナリ即チ明治十八年ノ洪水ノ如キ野部地先ニ於テ舊堤ヲ破壞シ合代島、一貫地、三ツ字、下神増、松ノ木島等ニ氾濫シ曠漠タル荒廢地ヲ生シタルモ同年十一月野部村地先沿岸岩角ヨリ改修新堤築造ニ著手シ延ヒテ一貫地ニ至リ此間締切工事及床固工ヲ施行シ松ノ木島ニ於テ引堤シ河幅ヲ擴メ此ニ至リテ築堤ヲ止ム施行幾ント十星霜ヲ閱シ二十七年四月テ以テ竣功セリ爾來洪水アルニ當リ多少ノ毀傷ヲ免レサリシモ概ネ成績好ク出水毎ニ堤脚ニ土砂ヲ堆積シ雜草繁茂シテ益堅牢ヲ加フ野部ヨリ松ノ木島ニ至ル築堤護岸此延長約二里ニ及ヘリ又左右兩岸引堤シテ河幅ヲ擴メ或ハ舊堤ニ嵩置シ又ハ新ニ護岸築堤ヲ施スノ類少カラス右岸一色ヨリ中之町ヲ經テ國吉ニ達スル凡千間ニシテ殊ニ中之町地先ハ流心激突ノ衝ニ當リ本川中水害防禦ニ最モ困難ヲ極ムル處トス故ニ番外水制ヲ増設シ或ハ頭部ヲ斜設シ大ニ注意ヲ加ヘタルモ二十二年九月六十年來未曾有ノ洪水ニ遭遇シ新堤破壞ノ不幸ヲ見ルニ至レリ乃チ復舊工事ノ舉アリテ更ニ沈床ヲ堅固ニシ制水ヲ増施シ或ハ頭部ヲ強固ニシ且ツ制水ノ如キハ特別ノモノヲ築設セシカ其後數々洪水ノ暴漲ニ際會セシモ幸ニ毀傷ノ厄ヲ免レ氾濫毎ニ土砂堤脚ニ堆積シ雜草繁茂シテ益堅牢ノ度ヲ増セリ左岸森本ヨリ分流セル

東川ハ本川流身タリシニ上流森本ニ施セル改修工事ノ爲メ水行豫期ノ如ク中川へ移リ東川ハ埋却シテ流水ナク平時ハ徒涉シテ對岸ニ往復スルヲ得ルニ至リ半場地先ハ明治二十五年以來流身西移シ豫期ノ如ク中川ニ至ラスシテ西川益洗流掘深シテ將ニ本流タラントスル勢アルヲ以テ之ヲ防カンカ爲メ二十年半場、鶴見間ニ西川締切床固工ヲ新設セリ此延長三百間餘下流掛塚輪中東大塚ニテ劍先(俗間將基 頭ト云フ)堤防護岸ヲ築造シ夫ヨリ掛塚ニ達ス延長一千二百六間餘又劍先堤外ニ現存スル東大塚西堀ノ土地ハ購入シテ之ヲ流水ノ剝離蠶食シテ掠奪スルニ任カセ將來流身タラシムルヲ期ス向掛塚輪中對岸河輪村ノ間ノ河中ニ在ル十郎島モ水蝕水運兩作用ノ力ヲ藉リテ又流身タラシメントス而シテ未タ其目的ヲ果ス能ハス該島殘留ノ下部ハ却テ土砂ヲ堆積スルノ状態ヲ呈シ益河底隆起河口壅塞ノ傾向ヲ來シ從テ洪水ノ疏通ヲ妨ケ河輪村長十郎新田新堤以下ノ堤防十分ナラス爲ニ洪水ニ際シテハ危險ヲ免ル、能ハス一朝破堤スルコトアラン乎其水害ヲ被ル大ナルヘシ又航路ニ就キテハ二十三年十二月內務省直轄ヲ以テ工ヲ起コシ上流長野縣下伊那郡龍丘村ヨリ本縣磐田郡二俣町ノ間ニ於テ九十五箇所ノ危岩ヲ破除シ又鹿島以下亂流ノ狀ヲ整正セルヲ以テ河身一定シテ復船ノ沮礙セラル、コトナシ故ニ通船停止ノ期節ナク唯出水六尺以上ノ時ニ至リテハ覆沒ノ憂アルヲ以テ通船ヲ止ムト雖後ノ如キハ却テ此時ヲ便トシ流下スルモノ多シ

(五) 天龍川水防組合ノ事

往昔ヨリ天龍川ノ大患タルニ洪水氾濫ノ害ニ在リトス然レハ天保年間ヨリ水防團體ヲ組織シテ協心戮力以テ緩急事ニ應シ慘狀ヲ免レントス爾來幾多ノ變遷ヲ經タリト雖水防ノ趣旨ハ終始一貫更ルコトナク以テ今日ノ東西兩岸水防組合ノ組織ヲ見ル即チ其大要左ノ如シ

(一) 東縁堤塘保護組合 組合内沿岸各大字毎ニ非常水防係一名ヲ置キ之ニ屬セシムルニ一名ノ水防世話係ヲ以テシ非常水防係ノ通知ニヨリ人夫招集ノ事ニ當ラシム而シテ之ヲ綜フルニ三名ノ堤防保護員一名ノ會計係ヲ以テシ名譽職トシ指揮ヲ組合村長ニ承ケシメ部長之ヲ管理ス其ノ職務タルヤ平時ニ於テハ丈夫築竝ニ持溜石常備諸色ノ蓄積等ヲ爲シ而シテ河水暴漲ニ際シテハ出テ、水防ノ事ヲ指揮ス水防ノ方法ハ常備諸色小屋ヲ七箇所ニ置キ水防用ノ器具及諸色ヲ準備ス水防人夫ノ割合ハ組合戸數一戸一人トシ招集アル毎ニ其擔當丁場ニ出役セシム

(二) 西縁水防組合 關係町村ヲ分テ三區トシ各區ニ水防委員一名非常水防委員二名ヲ置キ之ニ屬セシムルニ每町村一名ノ補佐水防委員ヲ以テシ一朝事有ルニ當リテハ町村内ヨリ人夫ヲ率キテ現場ニ出役シ彼此應援スル所アラシム而シテ之ヲ綜フルニ一組合一名ノ水防委員長ヲ以テシ名譽職トシ指揮ヲ管理部長ニ受ケシム其職務タルヤ平時ハ堤防ヲ巡視シ或ハ持溜石常備諸色ニ關スル事若クハ特別ノ自普請ノ事ヲ司ル而シテ非常ノ時ニ際シテハ各受持ノ丁場ニ出張シ防禦人夫ヲ鼓舞シテ水防ニ從事ス人夫招集ノ方法ハ水防人夫ハ地元町村ヨリ漸次離隔町村ニ及ホシ各町村ニ於テ招集シタル人夫ヲ更ニ受持

丁場ヲ定メ分配防禦セムルヲ例トス然レトモ急劇ノ場合ニ在リテハ人夫ニ不足ヲ生スルトキハ被害地及隣町村ノ如キハ固ヨリ以テ此方法ニ準據スヘキニアラス而シテ招集人夫ノ割合ハ前年十二月現在ノ戸數調ニヨリ一戸一人ノ割ヲ以テ適宜招集スルモノトス

(三)各水防組合ニハ其共有財産アリ是レ天龍川ノ舟筏ニ課スル賦金ノ幾部分及橋錢等ヲ分配スルモノニシテ今日ニ於テハ東西共貳萬餘圓ノ額ニ上リ或ハ以テ丈夫築ノ用ニ充テ或ハ以テ急破水防ノ費ヲ辨シ元金ハ基本財産ト爲シ之カ蓄積ノ法ヲ設ケ年々増殖ヲ務ムルモノ、如シ

(六) 社山疏水事業ノ蹉跌

社山(今磐田郡廣瀬村大字)疏水事業ノ起因ヲ尋ヌルニ天保ノ頃舊幕府普請役犬塚祐一郎ナル者社山ニ隧道ヲ穿チ天龍川ノ水ヲ引入レ元山名郡ノ大部分及元豊田、周智、城東三郡内ノ一部分ニ亘レル一宿七十餘村ノ耕地ニ灌溉セハ大ニ益スル所アラント頗ル之ヲ憇憇セリ地方有志ノ士又其説ヲ信用シ屢力ヲ成立ニ盡セシモ關係町村間ノ議諸ハ明治維新ニ及ヒシカ九年ヨリ十二年ノ頃足立孫六、淺羽要衛、寺田彦太郎等率先シテ此事業ヲ成就セシメント東奔西走之ヲ唱道セシモ時運未タ到ラスシテ空シク歲月ヲ經過セリ

抑モ社山疏水ノ注口ハ天龍川ノ東岸元豊田郡上野部村(今磐田郡野部村)字神田ニ起リ其位置タル河水衝突ノ岩石ニ第一ノ隧道ヲ掘鑿シ之ニ石閘ヲ設ケ以下堤防ヲ築キ水路ヲ疏通シ同郡上神増村(今磐田郡廣瀬村)ニ至リ既

設ノ寺谷用水ニ分派シ幹線ナル水路ハ直ニ廣瀬村社山ニ第二ノ隧道ヲ掘鑿シ山田村(今磐田郡三川村)地内ニ達ス此隧道延長七百二十三間三尺敷地村ヨリ南流シ山田村ニ至レル敷地川ニ合流南下シ川會村地内ニ於テ二分シ一ハ新設スル水路ニ引入レ一ハ敷地川トナリタル儘見取村(同)外敷村ヲ經過スルコト殆ント二里ニシテ三ヶ野村(今磐田郡田原村)地内ニ於テ新設スル水路ニ引入レ其他ハ地勢ノ高低ニ隨ヒ各所ニ支線水路ヲ新設シ前記一宿七十餘村ノ耕地四萬餘町歩ニ灌溉セシメントスル設計ナリ明治十六年六月右町村ノ人民總代起工方ヲ管轄應ニ出願セシニ縣令大迫貞清之ヲ内務省ニ具申セシカハ内務大書記官奈良原繁少書記官南一郎平等ノ實地ヲ検査スルアリ翌十七年二月管轄應ノ許可ヲ得テ工費金四萬五千圓ヲ特ニ貸與セラル該工事ハ同年四月内務省土木局疏水課ノ監督ニ屬シ天龍川引入口字神田隧道ヨリ社山隧道ニ至ル大工事ハ總テ同省派出官ノ設計スル所トナリ民議隊ヲ容ル、コトヲ得ス十月社山疏水組合水利士功會區域ヲ指定セラル然ルニ工費ノ負擔ヲ恐レ容易ニ議員ノ選舉ヲ爲サス頗ル紛議ヲ重ネシカ縣官及關係郡長ノ盡力ニ依リ漸ク議員ノ選舉ヲ爲シ翌十八年十一月二十八日ヲ以テ該組合水利士功會ノ第一回ヲ開キ工費豫算金拾壹萬八千貳百七拾七圓餘ヲ議決セリ爾來著々其歩ヲ進メ社山隧道ヲ始トシ水路ノ經過スル敷地川太田川小藪川原野谷川等ノ窪地打揚工事其他各要所ノ石閘工事ニ著手セシカ至難ノ功役ナルヲ以テ當初ノ豫算ニ著シキ超過ヲ來セシカハ再ヒ管轄應ニ請願シ更ニ參萬圓ヲ貸與セラ

タルモ到底一時民力ノ能ク堪フル所ニアラサルカ故ニ管轄廳ニ再願シ十九年四月八日金五千圓ヲ貸與セラレ漸クニシテ既設工事ノ一段落ヲ告ケタリ其恩貸金ヲ合算スレハ八萬圓ノ巨額ニ達セリ

二十年六月ヲ以テ河川窪地ノ打揚又ハ伏越其他各要所ノ石閘等工略ホ成リ幹支線水路ノ設計ヲ爲スニ方リ石閘等ノ工法其當ヲ失セリトノ流言行ハレ甲乙兩村ノ間種々ノ苦情起リ工事ノ歩ヲ進ムル能ハサルノミナラス或村落ハ組合ノ脱退ヲ唱ヘ一方ニハ費用ノ負擔ヲ免レンコトヲ圖ルモノアリ是ニ於テ知事關口隆吉ハ工事ノ前途ヲ憂ヒ縣技師ニ命シ再調査ニ著手セシメタルニ其結果天龍川河身改修工事ノ影響ト前設計中ニ不十分ノ點アルコトヲ發見セシカハ二十二年八月ニ至リ本工事ヲ中止セリ但シ追テ時機ヲ得レハ工事ヲ再興スヘキ條件ヲ水利土功會ノ議ニ付シ之ヲ可決シ是迄ノ貸與金ハ一切之ヲ棄損セラレ併セテ其營造物ヲ社山疏水組合ニ下付セラレンコトヲ管轄廳ニ請願セシニ知事特別ノ盡力ニ依リ之ヲ許可セラレタルハ二十二年十一月一日ナリキ工事中止ノ際ニ於ケル工費決算額ハ總計九萬參千七拾四圓餘ニシテ政府貸付金以外ノ壹萬參千七拾四圓餘ハ民費ノ支辨ニ係レリ其後二十六年稀ナル早魃ノ災ニ罹リ耕地龜裂シテ作毛皆無ノ箇所少カラス是ニ於テカ本水利組合ノ民心頓ニ工事再興ノ必要ヲ感シ管轄廳ニ請ヒ之カ測量ニ著手シ翌二十七年漸ク成ル乃チ其設計ニ據レハ工費總額參拾壹萬貳千四百四拾壹圓餘トス(此測量費貳千有餘圓ハ民費支辨セルモノトス)而シテ爾來漸ク物價ノ騰貴ニ依リ愈工事ニ著手セントセハ尙少クモ凡五拾萬圓ノ巨額ヲ支出スルニ非サレハ其工事ヲ全フスルコトヲ得ス此ノ巨大ナル費額ヲ組

合ニ賦課徵收セン乎到底今日民力ノ能ク堪ユル所ニアラサルヘシ畢竟此工事ハ始メ民議ニ起ルト雖抑モ亦官特別保護ノ厚キニ依リテ成立セシモノナレハ今後ノ事業再興ニ就キテハ人民ニ非常ノ奮發ヲ要スルハ勿論ナリト雖若シ之ニ一任シテ保護ノ途ヲ講セスンハ此ノ公利公益ナル事業ノ完成ヲ見ル蓋シ難事ナリト信ス

(七) 大井川改修工事

大井川ハ駿遠二國ノ界ヲ爲シ水害ノ頻繁劇甚ナルニ因リ政府夙ニ本川改修ニ着眼セシカ明治十八年二月初メテ右岸五和村牛尾、島ノ工ヲ起ス當時未タ完全ナル計畫立タサリシモ其ノ施工區域内ニ屬スルト計畫調査中ニ當リ水害ヲ被リ破堤シタルトニヨリ起工ノ期ヲ早カラシメタリ十九年三月取調ヲ了シ榛原郡五和村横岡以下凡六里間ヲ施工區域ト定メ總工費豫算金四拾萬壹千七百參拾四圓餘内國庫費貳拾壹萬五千五百八拾圓餘地方費拾八萬六千五百五拾參圓餘トシ水害防禦ヲ主トシ傍ヲ航路ノ改良ヲ目的トセリ十八年度ヨリ翌十九年度ニ亘リ竣功シタルモノ金谷河原、中河、島地先ニ於テ水制總テ八箇所ニシテ工費壹萬參千九百拾四圓餘ヲ要セリ工程漸次進捗セントスルニ際シ國庫經濟ノ都合ニ依リ本邦十四川中最モ要急難擱ノモノノミヲ選抜シ他ハ姑ク之ヲ猶豫或ハ中止スルノ方針ト爲リ本川改修工事モ一時中止セシカ更ニ二十七年ヨリ起工スルコト、ナリタルニ方ニ八年ヲ經過シ既成工事ノ成績ニ依リ舊計畫ヲ踏襲スルノ不利益ナルヲ發見シ更ニ改訂ヲ加ヘ榛原郡五和村牛尾及ヒ其對岸ヨリ河口ニ至

ル四里二十餘町間ヲ施工區域ト定メ總工費五拾五萬八千參百參拾貳圓餘內國庫費參拾貳萬五千七拾八圓餘地方費貳拾參萬參千貳百五拾四圓餘ニシテ同年度ヨリ三十一年度ニ至ル五箇年繼續事業ヲ以テ施工ノ計畫ナリシニ帝國議會ノ協賛ヲ求ムル等ノ爲メ其年度漸々遷延シ二十九年度ヨリ三十三年度ニ至ル五箇年繼續事業トシテ施工セルモノナリ抑モ本川ハ平時水量少ク廣漠タル河積ヲ形成シ之ヲ徒涉スルコトヲ得ルト雖一朝洪水至ルトキハ濁流漲リ滿川森々トシテ異常ノ水勢ニ變シ以テ堤防ニ衝突ス今水ノ順逆ニ依リ水力集注ノ衝ニ當ル所ヲ舉クレハ島田、金谷ノ間ヲ奔逸流下スル水勢ハ榛原郡初倉村坂本ノ小字谷口ノ辨天山ト稱スル河中ニ突出スル大巖石ニ突激シ其反動轉シテ志太郡六合村細島ノ堤防ニ打撃ヲ加ヘ更ニ細島ヨリ轉シテ對岸初倉村坂本ノ小字中川ヲ衝キ其反衝復タ東岸ニ來リテ吉永村飯淵ノ堤防ニ衝突シ終ニ海中ニ入ル是ヲ以テ此水勢ノ衝突スル地ハ其堤防特ニ堅牢ヲ盡クシ大橋梓大聖牛蛇籠等ヲ以テ堤脚及堤腹ヲ掩護セリ前ニ記スルカ如ク十七年以來ノ改修工事ニ右岸牛尾(五和村)金谷河原(金谷村)中河(初倉村)等ヲ第一ニ著手シタルモ一時中止シ更ニ二十九年ヨリ牛尾及左岸島田町以南六合村道悅島、細島等逐次護岸沈床工事ヲ營ミ改修施工ノ目的ニ副ヘリ

(八) 木屋川航路ノ事

木屋川(大井川左派)航路ト稱スルハ志太郡六合村細島ニ樋門ヲ設ケ大井川ノ水ヲ引入レ之ヲ芝地水門(起業水門ノ下)ノ流路ニ注キ大洲村忠兵衛新田ニ至リ一旦柄山川ニ入り其下流同村地内ニ於テ分岐スル木屋川

ニ據リテ小川村石津和田港ニ至ル間ヲ云フ即チ芝地用水路ト大井川トノ間僅ニ一條ノ水道ヲ連絡スルモノニシテ原川某起業ノ事業ノ第一著手トレテ明治十五年鑿開セルモノナリ故ニ其水門ヲ起業水門ト稱ス然レトモ本事業タルヤ東海道鐵道敷設以前ノ計畫ニシテ大井川上流生産物ハ本水路ニ由リ和田港ニ送致シ之ヨリ海運ノ便ニ據ラシメントノ企圖ニ出タルモノナリシニ失敗ニ次クニ失敗ヲ以テ尋テ鐵道ノ敷設成リ貨物ハ一ニ之ニ託送スルニ至リ遂ニ廢滅シテ僅ニ樋門ヲ存スルノミナリシカ近年大倉組ニ於テ之ヲ利用シ忠兵衛新田地内ニ製板所ヲ設ケ上流井川村ヨリ伐出ス木材ヲ茲ニ引入レ水力ニ依リテ製板器械ヲ運轉セシムルノ計畫ヲ立テタルモ未タ其ノ實現ヲ見ス船舶ノ航通稀ナリ蓋シ大井川河口壅塞土砂隆嵩通船ノ便ナキヲ以テ此ノ木屋運河ノ鑿開ヲ企ツルニ至リシナリ

(九) 大井川水防組合ノ事

往古ノ事漠トシテ稽ヘ難シト雖享保年間官大井全川ヘ金參千兩ヲ貸與シ内貳千兩ヲ河東壹千圓ヲ河西ノ備金トシ年利壹割五分ノ貸付ヲ爲シ其利金ヲ以テ水防費ニ充テシム明和年間ニ於テハ尙水防ニ關シ村組合ヲ設ケ人夫ハ組合村内ヨリ出役シ諸色代金ハ官給セラル、ノ制度ナリシカ安永五年ヨリ利金壹割トナリシヲ以テ水防高役金舊高百石ニ付壹兩宛ノ上納金ト該利金トヲ合セテ水防費ヲ支辨シ其殘餘ハ之ヲ定式普請ノ費用ニ充テ尙不足ヲ生スレハ特別官給ヲ以テ補足セラル而シテ使役人夫ハ舊高百石ニ付五十人ノ村持ニシテ其餘ノ人足ハ一人ニ付扶持米七合五勺宛ヲ給シ又諸色ハ一切官ヨリ下附シ以

テ水防ニ從事シ來レリ其後此法廢セラレタレトモ水防高役金及流域高役人足ハ維新前ニ至ル迄仍ホ行ハレタリ明治ノ初年水防諸色代ハ官給ニシテ人足ハ悉ク流域沿村ノ負擔スル所ト爲ル是レ明和年間ト其撥害アルヲ以テ一ニスルモノ、如シ又被害ノ多少ニ據リ直接關係アル村落ニ於テ專ラ水防ニ從事シ他ノ村落ヨリ見舞ト稱シ人足ヲ差遣セシコトアリト雖自ラ直接關係村落ノ負擔トナリタルカ如シ二十年流域町村ヲ以テ水防負擔區域ト定メ連合地村會ヲ開キ郡長ヲシテ管理施行セシメ凡テ水防ニ屬スル費用ハ町村ノ負擔トシ以テ水防委員ヲ置キ之ニ從事セシム今本川兩岸ニ就テ之ヲ概言スレハ其西岸ニ在リテハ五和村、金谷町ヲ甲部水利土功會ト稱シ初倉村、吉田村ヲ乙部水利土功會ト稱シ水防費ハ水利土功會ノ決議ニ據リ町村各大字ノ負擔額ヲ定メ其之ヲ賦課スルヤ舊慣ニ基キ水害ノ多少ニ因リ歩合ヲ附シ地價割地租割又ハ戸別割トシ或ハ夫役ヲ戸別ニ課スルコトアリ其東岸ニ在リテハ志太郡大長村以南ニ於テ島田町外十二箇村内水利土功會ヲ組織シ毎年五百圓餘ノ通常經費ヲ決議シ若シ不足ヲ生スルトキハ更ニ臨時會ヲ開キ其費用ヲ決議シ以テ支出セリ大長村以北ニ至リテハ河岸概テ斷崖絶壁堤防ノ築設アルモノ甚タ僅少ニシテ其破壞等亦至リテ稀ナリ偶マ之レアルモ村民能ク防禦スルヲ以テ特ニ水防費ヲ賦課セサル慣例ナリ

(二) 狩野川航路ノ事

狩野川航路ハ田方郡田中村大仁ニ起リ河口(沼津町ヲ過キ駿河灣ニ注ク)ニ至ル四里二十八町間ニシテ後路ハ明治二十

五年上狩野村湯ヶ島市山ヨリ之ヲ開キ二十六年ニハ更ニ進ンテ同村新宿以下ニ通シ板及木材ヲ後トシテ流下ス大仁以下凡一里間ハ河幅廣ク流心不定ニシテ岩石河中ニ横ハリ或ハ急端トナリ或ハ深淵トナリ舟楫尤モ危險ニシテ河間村石堰塚亦航路ノ妨害タリ明治十二年以前ハ濶路此堰舟ヲ限トシ下流ノミ航行セシカ同年上流ニ航路ヲ開カンカ爲メ石堰塚ノ上端幅二間ヲ啓キ漸ク航通スルヲ得タリト雖其航行最モ不便ニシテ通船ハ上下共ニ貨物ヲ減セサルヘカラス是ヨリ下流ハ流心一定シ水量多ク又障害ヲ見ス沼津町ヨリ河口ニ至ル二十餘町ハ潮汐ノ感動アリテ貨物ノ出入殊ニ頻繁ニシテ舟楫ノ往來織ルカ如ク河原町河岸場ハ常ニ小蒸汽船ノ碇泊スル所ニシテ下田清水兩港トノ交通ヲ爲シ又帆船ハ木材ヲ搭載シテ横濱、神戸等ニ航行セリ河口ハ水深ク干潮面尙水深十尺ヲ保ツト雖海口ニ淺瀬ヲ生シ水心時ニ東西ニ變スル等ノ事アリ爲メニ潮流ヲ待タサレハ汽船帆船ハ出入自在ナラス汽船ノ最大ナルモノハ其噸數三十噸餘帆船ハ五百石積ニシテ其船脚五尺前後ナリトス

山 梨 縣

(一) 戸、小柳、鹽三川改修工事

戸川ハ中巨摩郡平林村ノ山中ヨリ發シ其流急激ニシテ土砂ヲ押出シ南巨摩郡鵜澤村地先ニ於テ横ニ富士川ヲ衝キテ潮洄セシメ以テ笛吹川ニ波及シ上流各村水災ヲ蒙ル少カラス會々明治二年大ニ治水ノ功ヲ興シ國庫ヨリ金若干ヲ其地方應ニ委託サル乃チ縣官及ヒ管内富豪人民ヨリ其分ニ應シ義捐セシメタ

ル金若干トヲ併セ治河金ト號シ河身ノ改修及ヒ浚渫ノ費用ニ充ツ是ニ於テ該川會合ノ處ヨリ數百間ノ上流ニ於テ河身ヲ矯正シ更ニ兩岸延長五百間ノ堤防ヲ築造セリ小柳川亦瀨澤村字蹴裂ニ於テ富士川ヲ横衝シテ上流ノ沿村湛水ノ害アルヲ戶川改修ト同時ニ河身矯正工事ヲ起シ堤防長二百間ヲ築ケリ又北巨摩郡更科村岩下地先鹽川ノ游沙ヲ浚渫シ現ニ其砂石積ンテ一丘ヲ作セリ

(二) 富士川改修工事

富士川ノ一支笛吹川ノ流末ハ釜無川ノ激流ニ遮斷セラレテ溯洄シ爲メニ中巨摩郡ノ東南部各村ヲ浸シ殆ント頻年ノ水害ヲ受ケシカ其後漸次堤防ノ改築アリ水防亦宜シキヲ得テ河流洶暴ヲ恣ニセス降テ明治十五年ヨリ改修工事ヲ施行シ幾分水害ノ慘狀ヲ減スルニ至レリ又釜無川沿岸同郡龍王村以下ハ所謂甲府ノ平原ニシテ縣下隨一ノ生産地ト稱ス而カモ其地勢ハ内方ニ向テ傾斜スルヲ以テ一朝破堤ニ際スレハ濁流村落ニ氾濫シ遠ク本郡ノ東端ニ波及シ荒川ノ爲ニ漸ク沮止セラレテ笛吹川ニ竄入スルカ如キ古來水害最モ多ク住民其居ヲ移ス再三ニ及ヘリ故ヲ以テ堤防ノ防備甚タ曷メ信玄堤ヲ始トシ近時増築改修シタル龍王一番堤ノ如キ最モ堅牢ヲ極ム龍王村堤防及同郡玉幡、小井川、花輪、忍、田之岡、今諏訪、鏡中條、藤田、南湖、西八代郡市川大門諸村ノ堤防延長一萬二千五百三十六間餘ヲ縣費ヲ以テ二十年度ヨリ起工シ二十六年度ニ至リ竣功セリ此工費總額拾九萬九千參百四圓餘而シテ富士本川ハ所謂禹ノ瀨ヲ過クルモ尙溪間ニ在リテ河幅廣カラス迂餘曲折南流ス水流ハ漸次急激トナリ岩ヲ衝キ石ニ

激シ滔々トシテ奔駛シ南巨摩郡五開村箱原ニ大柳川ヲ入レ直流天神岩ヲ衝キ此ニ方向ヲ轉シ急端トナリ南下ス此處古來富士通船危險ノ箇所ニシテ舟楫難ノ稱アリシモ明治十五六年ノ交改修工ヲ施シ其患ヲ除去セリ又左支鶴飼川流域中其ノ水害ヲ受クル最モ多キハ東八代郡英村ニシテ石和町、富士見村等之ニ次ク依テ此等町村地先ニ於テ改修工事ヲ施シ護岸沈床其他ノ築設ヲ見ル即チ二十七年ニ於テ石和町右岸堤防二百七十八間餘左岸同百五十二間餘工費五千貳百九拾九圓餘三十年度ニ於テ同町堤防四百十五間工費參千百六拾圓餘ヲ竣功セリ又瀧澤川流域中巨摩郡南湖村東緣堤防五百三十八間同五明村西緣堤防五百四十三間ヲ三十年度ニ於テ竣功セリ工費五千五拾七圓餘又市ノ瀨川流域中同郡落合村東緣堤防三百三十九間五明村西緣堤防二百十三間ヲ同年度ニ於テ竣功セリ工費五千四百四拾參圓餘ナリ孰レモ縣費ヲ以テ支辨セリ

(三) 直轄工事トシテノ富士川改修

明治十七年度ヨリ組織的ニ施行セシ内務省直轄工事ハ十七年二月十九日下流靜岡縣富士郡田子浦村五貫島地先ニ於テ護岸水制ヲ施設セルヲ初メトシ漸次上流ニ及ホセルカ其ノ本縣内沿川施工ノ箇所ハ即チ西八代郡榮村内船、羽鹿島、市川大門、(岸左)中巨摩郡忍、南湖、鏡中條、今諏訪、田之岡、御影、(岸右)今福新田、花輪、小井川、玉幡、龍王_{岸左}ノ諸村ニシテ二十年四月田之岡ヲ第一着トシ三十年十月玉幡ヲ最後ニ總テ竣功セリ

滋賀縣

(一) 瀬田川浚深工事

瀬田川浚深ハ舊幕府時代ヨリ屢々施行セラレタルモノ、如ク文政七年高島郡深溝村太郎兵衛淺井郡津里村清兵衛ノ兩人湖邊諸村總代ト爲リ自普請ヲ出願セシニ許可セラレ其工事ハ勘定方池永鏡之助普請役樽原百之助渡邊鏡次郎大木三七郎等ニ依リ施行セラル即チ同年六月以後ノ事ナリ維新後ニハ明治二年大津縣ニ於テ湖邊諸村高百石ニ付出役三人ヲ課シ同川浚深工事ヲ行ヘリ

(二) 深澤疏水工事及小南築堤工事

野洲郡篠原村大字高木及小南ニ跨カル通稱深澤ノ地ハ排水ノ便無ク古來沼澤ノ狀ヲ成シ一朝霖潦ニ際セハ濁水氾濫田圃道路ヲ浸害スルコト甚シキヲ憂ヘ明治十五年同所橋本五郎兵衛、橋本淺次郎、中村七五郎、加々爪竹治郎、岡野彌平等排水ノ方ヲ企テ同十六年二月縣廳ニ對シ疏水起工及經費補助ヲ請願シテ許可ヲ得十七年八月起工シ同年十二月竣功ヲ告ク水路延長一里九町四十五間工費四千五百拾壹圓餘内八百貳拾七圓餘ハ縣費補助ニ係ル竣功ノ結果良田ニ變シタル反別六十四町三反餘ナリ又同村字小南ハ日野川ノ南ニ在リ其東桐原村字古川ノ地ハ低下ニシテ秋潦到ル毎ニ漲溢小南ノ田ニ入リ渺漫湖ノ如シ依テ堤ヲ設ケ之ヲ防カント計畫セシモ隣村トノ議諸ハス數十年ヲ經テ明治年間ニ至リ小南ノ人岡野彌平築堤ヲ首唱シ縣廳ニ出願セシニ堤ヲ古川ニ築クモ下流狹隘保ツ可カラストシ一長堤ヲ築キ直ニ

柳原ニ達スルノ設計ニ依リ二十五年十二月起工翌年三月成ル堤長八百二十五間所費地方稅支辨ノ外村民金若干圓ヲ寄附シ之ニ充ツ是ニ於テ卑濕ノ地變シテ膏腴ノ田ト爲レリト云フ

岐阜縣

(一) 油島新田地先喰違洗堰水量ニ關シ輪中間ノ爭議

明治七年四月伊勢國桑名郡油島新田地先喰違洗堰水量ニ關シ輪中間ニ爭議ヲ惹起セシカハ岐阜縣令ハ三重縣令ト連署シテ内務省ニ其ノ裁斷ヲ乞ヘリ蓋シ愛知縣管下尾張國立田輪中諸村ヨリ洗堰ノ置石ハ規定外ナリトテ高須輪中等ニ對シ抗議セルヲ以テ三縣關係吏員一同實地立會解決ヲ試ミシモ双方ノ意見一致セス抑モ右置石ハ慶應年間普請總代姦曲ノ所爲アリ物情鎮靜ノ爲メ設ケタルモノニシテ當時立田輪中ハ何等故障ヲ申立サリキ水量ハ寶曆洗堰築造ノ際定水三合目ヲ標準ト爲セルヲ以テ三重岐阜兩縣ニ於テハ木曾川緣現今平水面ヨリ起算シ置石ヲ合セ在形ノ儘數箇所高低平均見合堤腹ニ定抗ヲ設ケ他年木曾川河床ノ隆高ヲ慮リ定尺ハ木曾川其時々ノ三合目ヲ標準ト爲サントノ意見ヲ開陳シ愛知縣ニ於テハ置石高低組替見計ラヒ體面ヲ整ヘシムルヲ要スト主張シ相互妥貼セサルモノナリ六月十二日土木寮出張員實地數箇所ヲ調査シ猶双方輪中總代等ノ設ケタル目標高低ヲ測量シ彼此併セテ平均堰高ヲ定メ定標ヲ建設シ木曾川水路改修迄ハ之ニ準據スルコトニ三縣輪中一同承服シ解決ヲ告ケタリ

(二) 板屋川堤防修繕ニ關スル紛議

明治四年四月元笠松縣元名古屋藩元加納藩管下諸村ニ關係ヲ有スル板屋川(方縣郡)防堤修繕ニ付多年紛紜ノ論議ヲ醸シ今ニ解決セサルヲ以テ元笠松縣ヨリ二藩ニ協議シ平水面ト堤面上トノ高低ヲ測定シ一々標準ヲ建テ而シテ厚ク村民ヲ諭シ諍訟遂ニ止ミタリ

(三) 明治維新後堤防ノ築設

縣下三大川ノ洪水荐ニ至リ被害激甚民庶堪ニ安ンセス蓋シ洪水ノ氾濫ハ堤防ノ脆弱ニ因ルヲ以テ之カ堅牢ヲ規畫スル土地ノ有志者鮮カラス就中稻葉郡ノ人山田省三郎ハ憂慮措ク能ハス蹶起改築ヲ首唱シ明治十四年加納輪中水利土功會開設以來堤防委員トナリテ拮据經營終ニ今日觀ルカ如キ強大ナル堤防ヲ築成スルニ至レリ又十五年同輪中ヲ勸誘シ金壹千圓ノ補助ヲ出サシメ木曾川ノ要衝ニ築堤工事ヲ施シ爾來大ニ土功ヲ興シ該堤防ヲシテ強且大ナラシメタリ又安八郡名森村懸廻シ堤防ハ文久三年十月同郡ノ人脇坂文助ノ出願ニ係リ十二月工ヲ起シ明治初年ニ至リテ成ル延長實ニ二千九百四十四間ナリ費ス所金壹萬餘圓片野萬右衛門ハ天保年間里正ニ擧ケラレ數村ヲ兼攝ス明治中興ノ後福東林中ノ堤防ヲ修メテ功アリ費ス所僅ニ萬金本集郡本田村ノ人里正關谷貫三後縣會議員ト爲リ堤塘ノ改善ニ努力ス山縣郡保戸島村ノ人岡田只治亦同村大字戸田ニ於ケル將棋形石堤及控堤防ノ築造ヲ完成セリ即チ長良川本支流ノ分岐點ニ築造セルモノニシテ其ノ堅固ナルコト縣下屈指ノ堤防ナリトス又岡田式正流護岸裝置ノ如キ實效ヲ擧ケ好評ヲ博セリ

(四) 鶉外六箇村惡水排除工事

稻葉郡鶉外六箇村惡水路ノ改良ハ同郡ノ人山田省三郎ノ企畫ニ因リ明治十九年境川筋ニ強大ナル伏越樋管ヲ設ケシカ二十四年ノ震災ニ埋没セシカハ更ニ該川ノ改修ニ力ヲ盡シ惡水排除ノ效ヲ奏セリ

(五) 足近輪中石造閘門工事

羽栗郡西小熊、東小熊、阪井、直道、北宿、市場、南宿、小荒井、南之川、島、川森ノ十一村ハ足近輪中ト總稱ス北ニ境川アリ西ニ長良川アリ東南ニ逆川アリ故ニ堤防ヲ四方ニ築キ以テ水害ニ備フ然ルニ瀦水ノ排除通船ノ便利未タ曾テ良法アラス人咸之ヲ憂フ明治二十一年長良川筋西小熊村金手ノ木造三樋管朽敗シ方ニ修造ノ期ニ迫ル此時ニ及ヒテ舊郡長鈴木某輪中ノ有志者ト協謀シ一大石閘門ニ改造セント欲シ小崎縣知事ノ許ヲ得タリ新郡長下山某地方稅補助ヲ請求シ二十三年一月ヲ以テ工ヲ起シ同年六月功ヲ竣ル閘門長三十三尺高十三尺幅十八尺皆石ヲ以テ之ヲ築ク工費及堤防改築費ヲ合シ金七千三百五拾圓餘是レ縣下石造閘門ノ嚆矢ニシテ村民永世ノ福利ナリ

(六) 官費補助伏替ヲ爲セシ逆水留門樋工事三件

本集郡牛牧村地内字水門ノ逆水留門樋(長六間半内法高 橫壹丈五尺宛)ハ五六川通(木曾川 小支)舟楫ノ便ヲ計リ寶曆六年幕府代官川崎平右衛門始メテ民費ヲ以テ祖父江村地内へ伏込其後寛政元年牛牧地内へ移シ文化十三年ニ至リ初メテ官費ヲ以テ伏替アリ天保十四年金千兩ヲ官費トシ其餘ハ民費ニテ伏替セリ文久元年官費ヲ以テ

伏替明治十一年本縣ニ於テ官費ヲ以テ修繕ヲ加フ此工費額貳千參百二十九圓餘内千六百二十圓餘ハ官費七百八圓餘ハ民費ナリ組合村數九反別千町步餘三十九年ニ至リ水利組合ヲ設ケ牛牧閘門普通水利組合ト稱シ同年ヨリ翌四十年三月ニ亘リ工費壹萬七千餘圓ヲ以テ石造ニ改築セリ

厚見郡下奈良村地内字向前ノ逆水留門樋(長三間内法高一丈五尺横一丈八尺)ハ百曲川通(木曾川小支)舟楫ノ便ヲ計リ元祿四年領主松平丹羽守藩費ヲ以テ創設セシ所ニシテ寶永七年洪水ノ爲メ流失享保十七年領主安藤對馬守總郡割ト唱ヘ領内一般高百石ニ付銀二十六文宛ヲ課シ元形ノ如ク再造シ寶曆四年領主永井肥前守人足貨永百四拾貳貫文餘ヲ總郡割ニ課シ其餘ハ藩費ヲ以テ伏替セリ明和三年人夫ヲ總郡割ニ課シ其餘ハ藩費ヲ以テ修繕ヲ加ヘ安永四年ハ先例ニ據ラス掛リ高ノ内二步ハ組合員負擔八步ハ總郡割ト爲シ伏替セリ爾來民費歩合ハ之ヲ格例トス寛政元年人足ヲ先格例ニ依リ賦課シ其他ヲ藩費ト爲シ石材ヲ以テ模様換ヲ爲シ伏込タルモ翌二年石門破壊セシカハ元形ノ如ク木材ヲ以テ更ニ伏込タリ此工費區分ハ前例ノ如シ其後同十一年幕府ヨリ皆官費ヲ以テ伏替アリ辨金割賦ハ前例ニ依ル其後文化二年ニ修繕同十二年ニ伏替アリ皆前例ノ如シ文政九年領主永井肥前守修繕ヲ加ヘ天保七年幕府官費ヲ以テ伏替セリ民費賦課先格ノ如シ文久二年領主永井肥前守藩費ヲ以テ修繕ヲ加フ民費先格ノ如シ明治十二年本縣ニ於テ官費ヲ以テ伏替セリ此工費八千五百九拾貳圓餘内七千七百二十圓餘ハ官費八百七拾貳圓餘ハ民費ナリ組合村數七反別八百四十七町步餘

安八郡今福村地内字江西ノ逆水留門樋(長貳間内法高一丈八尺四寸横二丈一尺四寸)水門川通(木曾川小支)大垣輪中村々ヨリ伊勢國桑名港ヘ舟楫ノ便ヲ計リ承應元年領主戸田采女正藩費創設工費區分ハ諸色諸職工賃ハ一切藩費トシ伏込土方一色ハ民費トス其後十年乃至十五年毎ニ修繕ヲ加ヘ二十年乃至三十年毎ニ伏替セリ明治八年ニ至リ本縣ニ於テ官費ヲ以テ伏替セリ此工費九千七百七圓餘内七千七百拾四圓餘ハ官費千參百九拾貳圓餘ハ民費ナリ其他千本築ト唱ヘ輪中各町村ヨリ日々百人乃至二百人身ヲ以テ役ヲ助ク此日數五旬餘トス而シテ組合町村數八十一反別三千六百二十二町步餘

(七) 水防規定ノ事

本縣ハ明治十一年三月水防規則及水防組編制例則ヲ定メシカ之ニ準據シ現在セル組合ナシ而シテ水利土功會ヲ猶存續セル組合ニ於テハ概ネ水防規則ヲ設ケ水防ニ關スル事件ハ所轄警察署ノ監督ヲ受ケ水防役員ヲ置キ受持區ヲ分チ量水標ヲ立テ一朝出水ニ及フトキハ一番手二番手三番手ト水位ニ從ヒ漸次繰出シ危險ノ箇所アルトキハ堤防附近諸色小屋ニ貯藏セル杭木繩空俵掛矢蝟槌鐵鎌ノ類ヲ用ヒ防禦ニ從事セシム蓋シ本縣ハ有名ナル水害地方ナルヲ以テ藩政ノ頃ヨリ水害防禦ニハ秩然タル慣行アリ今猶之ヲ踏襲セルモノ、如シ嘉永三年八月楫斐川出水當時水防ノ狀況ヲ傳フルヲ以テ之ヲ記センニ大垣藩ニ於テハ周圍十里ノ堤防ヲ數個ニ區分シテ其保護ヲ重臣ニ分擔セシム然ルニ當日鈴木奎允丁場ノ古宮村地内字杉ノ堤防長五十間許平越シテ堤内外ノ腹部崩落シ馬踏寸斷ニ壞裂シテ堤上ノ樹木ハ根ト共ニ

輪中内ニ押シ流サレ堤ヲ突破シテ輪中内ノ田圃ニ落下スル河水ハ瀑布ノ如ク今ヤ大事ニ及ハントスル一刹那其處ニ驅着タルハ二番手ノ藩士ナリ彼等ハ斯クト見ルヤ水中ニ跳入り水防夫ヲ督勵シテ水ヲ堰止メント死力ヲ盡セシモ人數少ク奈何トモ爲ス能ハス乃チ村々ヨリ十五歳以上ノ男子ヲ悉ク繰出セリ諸色ヲ運フ者杭ヲ打込ム者土豚ヲ造ル者之ヲ沈下スル者又糧ヲ炊ク者アリ作業ヲ分擔シテ相往來スル恰モ鼎沸ニ異ナラス藩士ハ其流箭ノ如キ水中ニ立チテ唇焦舌燥命ヲ下シ怠ル者ハ鞭撻シ遁ル者ハ刀ヲ拔テ威赫シ水防夫モ身命ヲ擲チテ從事セシカハ遂ニ全ク破堤ヲ防クコトヲ得タリ退水後農民等ハ許サレテ我家ニ歸レハ何事ソ一棟ノ茅舎ハ松明ノ料ニ徵セラレ微塵ニ毀タレ各戸ノ敷物ハ悉ク徵發セラレテ一物ヲ留メス農民等ハ茫然自失セリ而シテ其徵發物ノ價額ハ後日藩ヨリ之ヲ償ヘリト云フ要スルニ輪中堤ハ農民ノ生命財産ヲ保護スル唯一ノ城砦ナレハ有事ノ日ニ方リ非常手段ヲ取リテ其ノ保護ト警戒トニ盡セシナリ

長野縣

(一) 千曲川堀割工事

上水内郡長沼村ノ人成田兵左衛門會テ里正タリ水内高井兩郡千曲川沿岸二十九箇村ノ爲ニ高丘村丸山要左衛門ト共ニ上今井村ヲ説キ明治二年官ニ稟申シ許可ヲ得テ本川ノ曲流部分堀割ノ大業ヲ起シ其功ヲ奏スルニ至ルヤ沿河ノ各村ヲシテ累年ノ水害ヲ免レシム是ヨリ先キ慶應元年本川大洪水アリ北國往

還鼠驛ノ邊道路河川ニ變シ交通全ク杜絶スルニ至リタレハ兵左衛門自ラ二百金ヲ投シテ松材二千百四十四本ヲ松代、上田ノ兩藩ヨリ請受ケ沿道各村ヨリ三千七百七十四人ノ役夫ヲ集メ大ニ土功ヲ起シ速ニ竣成セシメ兩藩主ヨリ褒賞ヲ賜ヒシコトアリ

(二) 千曲川屈曲部改修工事

下高井郡高丘村安源寺ノ人丸山要左衛門七箇村組合取締役兼年寄勤務中千曲川開鑿工事アリ此川ハ古來屈曲甚シク洪水止ム時無キヲ以テ之ヲ救済スルニハ下水内郡上今井村南端ノ屈曲部ヲ改修セハ其慘害ヲ減スヘシト爲シ明治元年大洪水ノ際代官松本松庵ニ意見ヲ述ヘ其說ヲ容ラレタルニ端緒ヲ得遂ニ六十八箇村同盟シテ請願書ヲ民部省ニ提出セシニ三年願意ヲ聽許サレ飯山藩ニ命シテ開鑿ニ着手セシムルコト、ナリ五年四月竣功ス開鑿河身延長十二町四十九間幅員二十五間役夫二十三萬五千八百十六人工費四萬九千七百拾壹圓餘水害ヲ免レタル町村三十餘戸數千田畑五百餘町歩ナリ

(三) 天龍川築堤工事

舊幕政ノ頃ハ水害防禦工事ニハ土堤アリ石堤アリ砂礫堤アリ聖牛椋籠積等アリシカ明治維新後ハ工法稍一定シ二十四年頃ヨリ本縣ニ於テ銳意治水ニ力ヲ用ユルニ至リ本支俱ニ其堤防ハ面目ヲ改ム則チ從來ハ斷續順序ナク唯一時ノ急ニ迫マラレテ起工スルノ状態ナリシヲ二十六年土工條規ヲ改正シ二十九年縣會ノ議決ヲ經テ繼續費トシテ上流ヨリ下流ニ至ル劃一ノ方針ヲ以テ堤防ヲ築設スルコト、ナリタ

レハ今日ニ於テハ舊堤ハ概ネ改築サレ新堤ハ其構造ヲ強固ニシ幕政時代ノ遺物多カラス但シ諏訪郡ヨ
リ下伊那郡ノ間ニハ舊來ノ土砂堤石堤等錯雜シ兩岸延長十一里餘ニ及フ上伊那郡片桐村前澤ノ百間堤
防及下伊那郡市田村大川除等ハ舊築造物中最モ堅牢ト稱セラレ俱ニ有名ニシテ依然トシテ原形ヲ變セ
ス新堤ノ間ニ介在セリ下伊那郡下川路村ハ彼ノ著名ナル天龍峽ノ窄口ナルヲ以テ洪水ノ疏通流下十分
ナラス爲メニ一時大水ヲ停滯シ耕土宅地ヲ浸蝕シテ其害ヲ被ラシム乃チ特ニ堤防ノ設備ヲ要スル箇所
ナリトシ本縣夙ニ築堤護岸ヲ施工セリ

宮城縣

(一) 貞山運河ノ事

從來御船曳堀ト稱シ慶長年間仙臺藩祖伊達政宗ノ企畫ニ係リ後二三世ヲ經テ功完ク成レル水路アリ即
チ宮城郡大代(今多賀城村大字)地内鹽釜灣口ヨリ蒲生(高砂村大字)ヲ經テ若竹(原町大字)藩倉ニ至ルモノ是ナリ(或ハ云フ
蒲生ニ至ル間ヲ大代堀ト唱ヘ御船曳堀トハ單ニ蒲生ヨリ若竹ニ至ル間ノ稱呼ナリ)又別ニ亘理郡荒濱ヨリ名取郡蒲崎マテ木引堀ト唱フル水路アリ相傳
フ往昔青葉城ヲ營ムニ方リ其用材ヲ運輸スルニ阿武隈川ヨリ閉上濱ニ回送シ名取川ヲ湖航セシコトア
リ木引堀ノ稱蓋シ之ニ基クカ天保九年八月藩士島貫兵記ナルモノ木引堀ト船曳堀トノ間井土濱古湊押
堀ノ處ヨリ國分荒濱通宮城郡新濱南マテ(新濱北通ヨリハ權太川ト唱フル惡水堀アリ蒲生
川ニ至ルマテ河址アル箇所ナレハ掘鑿容易ナリ)一帯河址ナキ處ヲ新ニ
掘鑿シ(蒲生ヨリ若竹マテ)荒濱ト鹽釜トノ間ニ航路ヲ開キ海上ノ危險ヲ避ケ漕運ノ便ヲ計ラント書ヲ其筋ニ

提出セシモ行ハル、ニ至ラス其後文久年間再ヒ其開鑿ヲ企テタル者アリタレトモ果サス明治三年六月
本縣士族秋保某南蒲生ヨリ名取郡井土ケ濱(六郷村大字)宇天王堀ニ至ルマテ新ニ運河ヲ開鑿シ五駄積ノ小舟
ヲ以テ貨物ノ運送ヲ始メタレトモ業盛大ニ至ラス加之河底漸次埋没シテ殆ント廢滅ニ歸セリ十六年本
縣ニ於テ政府ニ具申シ翌年二月ヲ以テ一大繼續工事ヲ起シ舊名木引堀ヲ改メテ貞山堀ト稱ス蓋シ往時
仙臺藩祖ノ計畫ニ係ル鴻業ヲ人民ニ銘セシメント欲スルモノニシテ貞山運河トハ近時ノ稱呼ナリ即チ
大代ニ起リ蒲生ニ至リ七北田川ヲ横斷シ新濱、荒濱、井土、藤塚ヲ横キリ閉上ニ於テ名取川ト交叉シ
小塚原ヲ經下増田ヲ過キ蒲崎ニ於テ阿武隈河口ニ達ス是レ略ホ島貫兵記ノ選定シタル水路ニ據レルモ
ノナリ十九年運河ノ改修略ホ成ルヲ以テ假ニ通船ヲ許ス二十二年十一月ニ至リ完ク功ヲ竣ル抑モ本工
事ノ目的タル阿武隈川ノ航路ヲ松島灣ニ連絡シ更ニ東名、北上ノ兩運河ヲ經北上川ニ達セシメントス
ルモノニシテ即チ南福島縣ヨリ北岩手縣ニ至ル八十餘里ノ間海波ノ險ヲ踏マス陸路ノ迂遠ヲ避ケ便利
ニシテ且ツ安全ナル航路ヲ開キ以テ運輸殖産上ニ裨益ヲ與ヘ加之間接ニ惡水ヲ疏通シテ千餘町歩ノ水
田ヲ改良セント欲スルニ在リト云フ其出來形ノ大要ハ舊線路全長拾壹里餘ノ迂曲ヲ改修シテ八里二十
一町餘ト爲シ幅ヲ十七間乃至八間トス其他淺濶三箇所此延長一萬八千五百八十九間五分船渠一箇所此
延長四十八間二分閘門二箇所(七北田川南北ニ設置シ室內長廿間幅五間深千
潮而五尺目下南岸閘門破壞セシヲ以テ鎖サス)築堤六箇所此延長三萬二千四百二間
沈床三十五箇所此延長五千四百八十一間單床十七箇所此延長二千二百三十五間二分護岸五十三箇所此

延長一萬千三百八間九分ニシテ工費總額貳拾九萬四千七百九拾參圓餘內國庫金拾萬五千九百二十八圓餘地方稅拾參萬貳百五拾四圓餘町村費五萬八千六百拾壹圓餘ナリ(上記ノ外寄附金貳千五百卅壹圓餘アリシト云フ)

(二) 名取川及廣瀨川粗朶工事

名取川ノ堤防ハ名取郡高館村以下ノ平坦部ニ左右兩岸ヲ通シテ連設五里餘ニ及フト雖出水毎ニ沿岸ヲ崩壞蠶食スルコト夥キヲ以テ本縣ニ於テハ明治十六年以降各要所ニ粗朶工ヲ施シ年ヲ逐フテ其完成ヲ期セントス是ヨリ先キ同十三年初メテ廣瀨川筋仙臺市瑞鳳山下字鹿落坂ニ粗朶工ヲ施セシニ頗ル好結果ヲ得タリ畢竟局部所要ノ改修ニ外ナラスト雖沿岸ノ崩壞ヲ少カラシメ隨テ地價ノ騰貴ヲ來セシカ如キ其功沒スヘカラス

(三) 鳴瀨川流域粗朶工事附多田川改修工事

鳴瀨川幹流ノ治水ハ從來並机ト唱ヘ細キ圓木ヲ河岸ノ水際ニ駢列シ以テ水勢ヲ防禦スルニ止マリ敢テ嶄新ノ施設ナカリシカ明治十三年ニ至リ初メテ遠田郡南郷村二郷字勝田西ニ於テ柴工ヲ以テ護岸及水剗ヲ實施シ頗ル好結果ヲ得タリシカハ沿河ノ村邑到處之ヲ望ムニ至リ舊式ノ工法ヲ廢シ漸次本工ノ採用ヲ見ル其後加美郡中新田町大橋ヨリ下流野蒜海口ニ至ル約十四里ノ間水勢急激ニシテ危險ヲ極ムルノ箇所等ハ概ネ本工ヲ施セリト雖所謂局部ノ治療ニ過キササルヲ以テ沿岸ヲ鞏固ニシテ水路ヲ浚疏シ流身ヲ一定スルカ如キニ至ラス而カモ出水ニ際シ沿岸ノ崩壞ヲ防キ以テ耕地ノ價值ヲ高メタルノ事實ヲ

看過スヘカラス今其工費額ヲ舉クレハ明治十五年以降同二十五年ニ至ルマテ總計參萬六千八百四拾貳圓ニシテ外ニ人夫二千六百五十四人四分ヲ要セリ施工ノ箇所總テ二百二十一ナリ

左支多田川ハ平時淺流ニシテ徒涉敢テ脚半ヲ沒セスト雖降雨僅ニ半日乃至一日ニ彌レハ水量俄ニ増加シ且幹川鳴瀨ノ逆流ニ因リ氾濫橫溢兩岸十餘村ノ民家ハ忽チ湖中ニ點在スルノ觀ヲ呈シ三年ニ一回秋收ヲ得ルヲ幸ト爲スト云フ而シテ天保六年ノ大水以來被害年ヲ累ネ村民ノ慘狀其極ニ達ス明治十八年ニ至リ細密ノ調査ヲ經テ改修ノ計畫ヲ爲ス即チ加美郡廣原村下多田川地内羽後街道中新田路線ヨリ志田郡敷玉村師山鳴瀨川合流口ニ至ル延長凡ソ八千四百十間餘ノ間水量ニ應シ幅員ヲ廣メ河底ヲ浚深シ水門ヲ設ケテ逆流ヲ防遏スル等ニシテ築堤工事ハ多田川筋南北兩岸延長一萬四千間餘鳴瀨川筋延長七百八十間餘ニ達ス二十年五月工ヲ起シ翌二十一年十二月功ヲ竣ル工費參萬七千四百貳拾參圓餘内地方稅補助壹萬四千圓關係村費貳萬參千四百貳拾參圓餘ニシテ功成ルノ後洪水氾濫ノ害ヲ避ケ沿岸崩壞ノ患ヲ減スル等其效益蓋シ少小ナラス

(四) 北上、東名兩運河工事附野蒜築港

北上、東名兩運河ハ鳴瀨河口ヲ東西橫斷シ岩手、宮城、福島三縣ノ水運ヲ連絡スルニハ最モ緊要ナル航路ノ一部ニシテ北上川ヨリ北上運河ヲ經テ鳴瀨川ニ出テ東名運河ニ入り更ニ松島灣貞山運河ヲ過キリ阿武隈川ニ達スルヲ得ヘシ北上運河ハ牡鹿郡蛇田村字高屋敷北上川右岸ニ起リ石卷町ヲ經テ桃生郡

鷹來村界ニ定川ヲ横斷シ海岸ニ沿フテ小野村大字濱市ニ至リ新鳴瀬川ニ入ル其延長三里五町東名運河ハ桃生郡野蒜村大字野蒜字下沼鳴瀬川右岸ニ起リ同村大字大塚字東名ニ至リ松島灣ニ入ル延長二十九町四十間トス抑モ此兩運河ハ野蒜築港ノ副産物ニシテ主タル築港ハ豫期ノ目的ヲ達スル能ハサリシト雖惠澤ヲ運河ニ遺シテ永ク漕運ノ利ヲ享ケシム今築港ノ梗概ヲ叙シ運河起工ノ經緯ヲ知ルノ便ニ供ス野蒜築港事業ハ明治九年 聖駕北巡ノ時故大久保内務卿石卷港ニ來リテ其海口ノ險惡ナルヲ視ルニ起リ同年九月和蘭國長工師フアンドールンヲ派遣シ港口改良ノ策ヲ建テシム是ニ於テフアンドールンハ地形ヲ測リ水勢ヲ檢シ以テ港ヲ野蒜海ニ開クノ策ヲ按シ其計畫一篇ヲ獻ス十一年一月經費ヲ概算シ總額貳拾五萬五千五百有餘圓ノ目論見ヲ以テ著手ノ裁可ヲ得同年四月土木局ヨリ掛官ヲ派遣ス又宮城岩手兩縣ヨリモ掛員ヲ派遣シ築港ノ庶務ヲ補佐セシム蓋シ當時野蒜ハ海岸ノ一僻村ニシテ郵便電信ノ設ナク官衙ヲ置クニ便ナラサルノミナラス築港須要ノ木石等鳴瀬川沿岸ニ於テ產出スル寡キヲ以テ之ヲ北上川筋ニ求メ野蒜ニ輸送セサルヲ得ス是レ土木出張所ヲ前記蛇田村字高屋敷即チ北上川右岸ノ地ニ創設シ主トシテ閘門ノ築造運河ノ掘鑿ニ著手セシ所以ナリ七八月ノ頃ニ至リテハ各府縣ヨリ屯集スル工夫二千餘人ノ多キニ上リ工事モ稍其緒ニ就キ漸次進捗ノ折柄九月北上川未曾有ノ洪水ニテ蛇田村ノ耕地閘門築造場等一圓逆水暴漲數日間工役ニ從事スルヲ得ス是レ工事ノ大不幸ヲ來セルノ初ナリ是ニ於テ工師ドールン運河掘鑿設計改正ノ事ヲ建議ス即チ運河竣成セハ忽チニシテ舟船幅濶スルノ勢アル

ヲ察シ護岸ノ工缺クヘカラサルヲ以テ(最初ノ設計ハ)更ニ敷幅ヲ四十二尺(最初冊尺)トシテ兩岸ヲ二割(最初冊八分)ノ勾配ニ定メ零以下ハ粗朶ヲ以テ岸ヲ固メ零以上ハ野芝ヲ以テ覆包スルノ策ニシテ其零以下ノ粗朶工ヲ施ス爲メ水替シテ掘鑿スル零以下二尺ニ止メ餘ハ浚泥器ヲ以テ水中掘ノ事ニ改正セリ十月八日石井土木局長來場閘門築造所ニ於テ起工式ヲ執行ス此時松平宮城縣令閘門ヲ名ケテ石井閘門ト云フ十二年五月第五工管所ヲ野蒜ニ設置シ七月突堤築造ニ著手シ十月運河掘鑿ヲ了セルヲ以テ通船ヲ開ク十一月新鳴瀬川ノ掘鑿ニ著手ス當初工師ドールンノ計畫ニハ突堤ヲ沖ノ明神岩ニ築キ出シ新鳴瀬川吐口ヲ其西方ニ設クルノ豫定ナリシニ突堤著手前其位置ヲ檢索セシニ岩礁潛伏シテ海口ト爲ス能ハサルヲ以テ更ニ突堤ヲ其西方一町即チ新鳴瀬川吐口豫定ノ處ニ築クヘク變更セリ又鳴瀬川ハ其上流八町ノ處ヲ堰留メ市街ノ中央ニ注テ運河ト十字形ヲ爲シ沖ノ明神岩ノ東五町ニ吐口ヲ開キ而シテ堰下ヲ以テ船溜ト爲スヘク亦計畫ヲ更改セリ十三年一月一日出張所ヲ野蒜ニ移ス十一年創業ノ際ハ米一石參圓七八拾錢ナリシニ十三年ニ至リ九圓ヨリ拾圓ノ間ヲ往來シ人夫賃ハ一人ニ付拾六錢ナリシモノ是時ニ方リテハ參拾五六錢ヨリ四拾錢ノ多キニ上リ最初ノ目論見ニ對スレハ殆ント一倍餘ノ工費ヲ要シ且突堤及船溜ノ模様替並ニ新鳴瀬川及運河擴鑿堤防張芝等ノ増工事アリシヲ以テ同二月政府ニ請ヒテ金拾四萬千五百八拾圓餘ノ工費増額ヲ得タリ之ヲ最前目論見額ト合スレハ金四拾九萬千貳拾五圓餘トナレリ七月一日出張所ヲ野蒜ヨリ新市街地ニ移セリ閘門築造完ク成ル十一月鳴瀬川堰堤築設ニ著手ス此長百間幅

十間高零以上一尺三寸同月船溜ノ掘鑿ニ著手十四年一月運河ノ通船式ヲ執行ス二月市街埋立ハ元來豫算外ノ事業ナレハ右土地賣却代金ヲ以テ埋立費ニ充テントトテ政府ニ稟請シ八月ニ至リ賣却代金ヲ拾參萬圓ト見増リ(地稅四十餘萬坪)市街ノ費用ニ充ツヘキ旨許可セラレタリ又外ニ係官俸給及旅費トシテ四萬六千五百五拾圓ノ増額ヲ請求シ合計豫算金六拾七萬八千九拾四圓餘トナレリ是ヨリ先キ四月突堤ノ東部十中九分功ヲ竣リ將ニ完成ニ垂ントセシニ同月十八日一朝怒濤ノ爲メ三十餘間ヲ破壊セラル是歲ハ續テ高浪ノ日多ク隨テ施工スレハ隨テ破壊シ成功ノ期ナカラントス故ニ最初十才前後ノ石材ヲ使用セシモ漸々増大シテ此時ニ至リ百才以上ノ沈石ヲ用ヒテ當冬ヲ期シ成功スヘク決心ノ臍ヲ固メ更ニ西部ノ突堤ニ著手セリ八月又大怒濤ヲ被リ突堤ノ破壊ノミナラス新鳴瀨川吐口ヲ閉塞セリ長工師ドールンハ昨年任期滿了シテ既ニ歸國セシヲ以テ十二月新工師ムルトルヲ派遣セラレ是迄ノ仕様ヲ改正セリ即チ突堤ノ沈床ハ零以下七尺ニ止メ堤ノ中部ヨリ大抗ヲ三列ニ打チ並ヘ頭部ニ至リ四列ヨリ五列ト爲シ中部ハ杭ヨリ頭部ノ杭迄總テ梁桁ヲ零以上四尺ノ處ニ掛ケ之ニ割屑石ヲ詰メ堤ノ左右百才以上堤ノ前端百五十才以上ノ大石ニテ包圍シ表面ハ二三十才ノ平石ニテ張り合セ堤ヲシテ總テ一固形物タラシメ又新鳴瀨川吐口ハ海面零以下五尺ノ處迄左右ノ兩岸ヨリ突堤ヲ出シ海岸ノ土砂沈没ヲ防禦セシメ且ツ水力ヲ以テ吐口内ノ土砂ヲ流出セシメンカ爲鳴瀨川ノ堰堤ヲ零上四尺ノ高サニ改築スル事はナリ此ノ改正計畫ニ據リ十五年一月突堤其他ニ著手セリ爾來多少ノ損害アリシト雖同年九月ニ至リ突堤並ニ新

鳴瀨川吐口竣成十月山田内務卿臨場ノ際突堤落成式ヲ執行セリ十一月石井閘門ヨリ野蒜ニ達スル運河掘鑿モ完ク成ル十六年三月突堤築造亦完ク竣功シ同月東名運河ノ開鑿ニ著手ス四月内務省地理局員ヲ派遣シ新市街地競賣ニ著手セントス尋テ石井土木局長櫻井地理局長來場ス是時ニ方リ世上一般ニ不景氣ニシテ金融梗塞ノ爲メ市街地買受人ノ寡少ナルヘキヲ察シ更ニ十箇年ノ契約ニテ貸附ノ事ニ伺定タリ十一年創業以來十六年四月十五日迄經費仕拂額合計六拾四萬參千四百參拾五圓ニシテ豫算殘額參萬四千七百五拾八圓餘ナリ而シテ築港ノ殘工事ハ船溜浚渫並市街埋立及新鳴瀨川ト船溜トノ間ニ木製閘門ノ築造等はナリ殘工事竣功ノ月日及終ニ築港ノ不結果ニ了リシ最後ノ狀況等ニ記錄ヲ闕クヲ以テ此ニ之ヲ擱筆シ東名運河ノ事ヲ記セントス

明治十六年三月十日東名突堤築造ニ著手シ十四日運河掘鑿ニ從事ス四月一日會々農商務卿及土木局長ノ臨場アリテ起工式ヲ市街地ニ行フ爾來百工漸ク緒ニ就キ役夫日々來集ス運河線路中ニ出現セル暗礁ハ第一工場五百八十一坪餘ニシテ五月十七日鑿切ニ著手八月二十九日之ヲ畢リ第二工場二百十七坪餘ニシテ九月十日著手十月二十六日之ヲ畢ル而シテ突堤ノ築造ハ六月二十六日既ニ成ヲ告ケ十一月二十六日運河ノ浚渫ヲ開始ス斯クテ工事漸ク進捗シ十七年二月九日完ク功ヲ竣ル工費總額參萬七千七百八拾貳圓餘ニシテ豫算額五萬七千八百四拾五圓餘ニ對シ貳萬六拾貳圓餘ノ殘餘ヲ生セリ

兩運河航路ノ概況ハ俱ニ日本形船百五十石積船脚三尺五寸汽船三十噸吃水三尺五寸ヲ限リ航行自由ニ

シテ四時停止スルコトナシ而シテ水路中荷揚場ノ設ナク唯石巻、野蒜、鹽釜三港ノ間ヲ往來シテ載貨ノ出入ヲ爲スノミ

(五) 鳴瀬川河狀變遷ノ事

鳴瀬川往古ノ河狀ハ舊記ノ存スルモノナク只古老ノ談ニ據レハ今ヲ距ル八十年前ニ在リテハ河中洲嶼ノ横ルナク水深クシテ百五六十石積舟船ノ來往自由ナリシト雖洪水毎ニ埋填ヲ加ヘ今ヤ堤内ノ耕地面ト平水面ト殆ント相等シキ箇所アルヲ見ル然レハ明治二十二、三兩年ノ出水ニ際シ停水排除ノ期ヲ緩フスルコト旬日ニ近カリシト云フ又此ノ兩度ノ出水ニ國道線志田郡三本木町宇三本木橋上流ニ於テハ河狀ノ蜿蜒全ク向背ヲ異ニセシ所多ク行人滄桑ノ感アリ今尙出水毎ニ影響ヲ受ケ多少ノ變轉アルヲ免レヌ又野蒜海口ハ突堤築設以前ニ在リテハ常ニ東漸ノ傾向アリシカ築堤後一定ヲ保ツニ至レリ抑モ明治十三年中同所築港ノ際本川ヲ字原ニ於テ締切リ新川即チ新鳴瀬川ト東名運河トヲ交又セシメ其右岸ニ閘門ヲ設ケ左支北上運河開鑿ノ爲ニ固有ノ海門ヲ失ヒタル定川ヲ合流シ新鳴瀬川ト共ニ新海門ニ注カシメ大ニ河狀ヲ改ム爾來十有餘年ヲ經テ二十五年ニ至リ其閘門ノ木造ニシテ自然ノ朽腐ヲ來タシ殆ント其效用ヲ失フト同時ニ新海門ハ漸次填塞シテ排水其宜シキヲ得サルヲ以テ本縣ニ於テ閘門ヲ改築企テタリト雖巨額ノ工費ヲ要シ地方經濟ノ堪ユル能ハサルハ勿論他ニ水利上試ミントセシ所アリシヲ以テ其筋ニ稟議ヲ經テ閘門ト締切ヲ撤去シ定川ヲモ併セテ鳴瀬川ニ合注セシムルニ至レリト云フ

小川(支右)ハ元ト品川沼ト鳴瀬川トヲ連絡セル一水路ニシテ固有ノ水源ナキヲ以テ沼、川各水位ノ如何ニ因リテ水或ハ沼ニ入り或ハ川ニ赴キ一定ノ流向アルナシ然レトモ鐵道布設以來ハ鳴瀬川ノ水晶井沼ニ入ルコトヲ得スシテ重ニ本水路ニ由リ出入スルヲ以テ昔日ニ比シテ水量幾倍ヲ加フルノ外河狀ニ變遷アルヲ見ス

(六) 田貝堤防修築工事

田貝堤防水害豫防組合ハ志田郡敷玉村及遠田郡南柳村外一町三村ヲ組合區域トシ堤防ノ守持ヲ目的トス抑モ本堤防ハ耕土宅地六千餘町歩ノ水害ヲ豫防センカ爲仙臺藩政ノ頃築造セシモノニシテ敷玉村石森、下中目、楡木ニ亘リ其延長實ニ千三百七十餘間トス明治三年急破ノ際ハ材料費及人夫賃共ニ一切登米縣ヨリ下付シ八年ニハ本縣其ノ工費ヲ給シ夫役ヲ被害各村ニ課シ十二年ニハ材料費及人夫現品ノ金額ヲ通算シ七分ヲ地方稅三分ヲ組合町村ノ負擔トシ其都度修築ヲ加ヘタリ十七年度ニ至リ羽後街道ヲ開鑿スルニ方リ本堤防ハ縣道ヲ兼ヌルヲ以テ移轉ノ箇所ハ本縣之カ修築ヲ爲セリ二十二年九月ノ洪水ニ破壞八箇所ニ及ヒ此復築工費七百五拾圓餘ヲ要セリ即チ地方稅ヨリ百五拾圓ヲ補助シ遠田郡關係諸村ヨリ若干ノ人夫並ニ現品金員ヲ寄附セシメ他ハ悉ク組合町村之ヲ負擔シ復舊ノ工ヲ完ウス蓋シ既往ノ修築實費ハ五箇年間平均千四百圓ナリト云フ

(七) 阿武隈川水制工事

阿武隈川改修工事ハ本縣伊具郡丸森村ヨリ亘理郡荒濱海口迄延長十里十九町餘ノ航路ヲ完全ナラシムル目的ヲ以テ内務省ニ於テ明治十七年八月伊具郡東根村大字鳩原地先へ水制工ヲ施シタルヲ嚆矢トス爾來河身錯亂要急ノ場所ヲ選擇シテ著々施行シ十九年度迄ニ竣功セシ水制工ハ其數六十一箇所ニ及ヒシカ同年度限り中止セラレタリ又本縣ニ於テモ十七年以降本省ノ改修規線ニ依據シ地方稅ヲ以テ伊具郡館矢間村小齋村其他數箇所ニ水制工及護岸工ヲ施行シ二十一年度ニ於テハ本省ト連帶シ亘理郡逢隈村大字中泉地先へ水制一ヶ所ヲ施工セリ

(八) 阿武隈川河口改修工事

享保年間亘理郡荒濱村阿武隈川河口埋塞シ船舶ノ出入ヲ沮止セシヲ以テ之ヲ鑿シ之ヲ浚ス明治二十年同處流心右方ナル鳥海入江ニ注クニ及ヒ河口漸ク淺ク航路絶エントシ本川水位高ク貞山運河ニ溯洄スルヲ以テ翌二十一年長凡二百八十間幅三間ノ沈床工ヲ施行シ之ヲ締切リ且ツ水路ヲ疏鑿セリ

(九) 北上川低水工事ノ概況(岩手縣併叙)

北上川低水工事ハ盛岡市ヨリ下流石卷町ニ至ル水路五十里十三町間ノ流心ヲ定メ最低水位平均深二尺四寸乃至三尺ヲ保チ船舶ヲシテ澁滯ナカラシムルノ目的ヲ以テ明治十六年六月宮城縣下牡鹿蛇田村地内ニ護岸工ヲ起セシヲ始トシ著々其歩ヲ進メ三十五年度ヲ以テ完ク竣功セリ今其ノ成績著シキモノヲ舉クレハ左ノ如シ

抑モ本川航路ノ狀況ハ岩手縣ニ在リテハ水流概ネ急ニシテ且ツ膽澤郡相去村及水澤町大字常磐江刺郡黒石村東磐井郡長島村大字小島等ノ地先ハ河幅廣クシテ濫流數派ニ分レ各所ニ淺瀬アリテ夏冬ノ際少シク渴水スルトキハ舟筏共ニ澁滯シ又相去村地内字黒瀬ト唱フル處ハ流身屈曲急灘ニシテ暗礁處々ニ起伏セルヲ以テ船舶ノ誤テ覆没スルモノ年々一二艘ニ止ラスト云フ又宮城縣下ニ在リテハ登米郡登米町本吉郡柳津村桃生郡中津山村等ノ地先ニ淺瀬アリテ亦洶水ノ際ハ船舶ノ上下共ニ困難ナリ其他一般ニ河幅ヲ廣メ河底漸次隆起スルノ趨勢ナリシカ低水工事施行ニ方リ濫流ノ個所ハ堰堤工及水制工ヲ施行シ水行ヲ規線内ニ誘導シ或ハ淺瀬ヲ掘鑿シ或ハ毀岸ノ憂アル個所ニハ護岸工及水制工ヲ施行シ彼ノ黒瀬ノ如キハ其急曲ヲ避ケンカ爲メ頭部長千二百二十三間餘ノ水制ヲ彎曲ニ施行シ以テ水流ヲ緩ナラシメ其他屈曲ノ個所ハ更ニ新川ヲ鑿シ以テ當初計畫ノ規定ニ遵據セシニ未タ悉ク其功ヲ觀ルニ至ラスシテ二十二、三兩年ノ出水アリ之カ爲メ施設工事ハ多少損害ヲ被リタレトモ此洪水ニ因リ却テ規線間ノ土砂大ニ排除サレ各水制間ハ漸次土砂或ハ塵芥等ノ堆積セントスルノ好結果ヲ顯ハセリ即チ從來澁流ト稱セシ個所ハ整然一水路ノ觀ヲ呈シ其他淺瀬ノ個所ト雖中津山地先ヲ除クノ外ハ渴水猶舟行ノ澁滯ヲ見ス又黒瀬ノ難所ハ從來數艘ノ船舶下流ニ艤泊シ互救ノ法ニ依リテ舟ヲ曳キ登スヲ例トセシカ近時全ク此例ヲ廢シ一艘ノ船員ノミニテ容易ニ上航スルヲ得ルニ至レリ其他年々兩岸崩壞ノ危ヲ減少セル其利益亦鮮少ナラス之ヲ要スルニ航路最モ困難ナリシ黒澤、狐禪寺間ノ如キハ工事施行前ニ比スレハ

全ク其形狀ヲ一變シ水行殆ント計畫ノ規定ニ向ハントス
 又岩手縣下紫波郡赤石村字法領東和賀郡二子村字尻引ノ二箇所ハ岩石往々處々ニ起伏シ且ソ急流ナル
 ヲ以テ古來船舶ノ誤テ覆没スルモノ年々一二艘ヲ下ラサリシカ故ニ明治十六年同縣ニ於テ尻引ノ難所
 ヲ削開セシト雖十分ナル結果ヲ得サリシヲ以テ二十五年ニ至リ内務省第二區土木監督署ニ於テ更ニ尻
 引、法領ノ岩石ヲ破碎セシ以來始メテ航通ノ安全ヲ得タルノミナラス此等ノ難所アルカ爲メ從來盛岡
 ヲリ百石積ノ船ニ米八十石ヲ積載シ黒澤尻ニ至リ始メテ二十石ヲ増載スルノ習慣ナリシカ今ヤ盛岡ヨ
 リ直ニ百石ヲ積載シテ下航スルモ更ニ危險ノ患ナキニ至レリ

(一〇) 北上川流域漕運會社設立ノ事(岩手縣併叙)

舊藩時代ニ於テハ仙臺、盛岡兩藩トモ船舶ハ藩廳ノ管理ニ屬セシヲ以テ漕運ヲ阻害シ各河岸ノ繁盛ヲ
 來スヘキ機會ヲ得サリシカ維新後ニ至リ始メテ此ノ拘束ヲ脱シ總テ自由ヲ得ルニ隨ヒ商業漸ク發達シ
 各河岸場ニ運送取扱所ヲ設ケ貨物ノ輸出入日ニ増加シ大ニ業務進展ノ氣運ニ向ヘリ明治十三年廣通社
 ト稱スル川汽船會社興リ本社ヲ迫川筋佐沼町ニ置キ支社ヲ石卷町ニ設ケ汽船廣通丸ヲ以テ佐沼、石卷
 間ヲ往復シ以テ迫川筋ノ航行ヲ止メ石卷ヨリ岩手縣下西磐井郡中里村大字柵ノ瀨河岸マテ航路ヲ開キ
 十五年ニ至リ更ニ狐禪寺河岸ニ延長ス同年下總國新橋某及岩手組ナル者汽船ヲ以テ運輸ノ業ヲ始メ大
 ニ競争シテ互ニ損益アリ十六年岩手縣ニ於テハ河川運送取締規則ヲ頒布シ十七年更ニ之ヲ改正シテ

益々運輸業ノ擴張ヲ圖レリ同年北上回漕會社ナル者興リ本社ヲ盛岡ニ置キ支社ヲ一ノ關、石卷等ニ設
 ケ狐禪寺河岸ヨリ石卷間ニ於テ汽船數艘ヲ備ヘ定期航行ヲ始メ大ニ斯業ノ擴張ヲ計畫セシニ因リ廣通
 社等ハ之ニ對抗スル能ハス十九年ニ至リ遂ニ廢業スルニ及ヒ汽船ノ權獨リ北上回漕會社ノ手ニ歸シ爾
 來年ヲ追テ盛況ヲ呈セリ一ノ關ハ岩手縣下ニ於ケル著名ノ一市街ニシテ狐禪寺河岸ヲ距ル西壹里餘國
 道筋ニ在リ狐禪寺ハ即チ一ノ關河岸場ナルヲ以テ貨物ノ輸出入等ハ必ス一ノ關ヲ經由セサルヘカラス
 先是道路ノ改築行ハレ縱橫四通シ平坦砥ノ如ク交通ノ便亦昔日ノ比ニアラス於是旅客蓬窓ニ眠ラス貨
 物ハ大半車馬ニ藉ルニ至レリ是レ水運業ノ一頓挫ナリトス二十一年東北鐵道ノ仙臺及鹽釜間ニ開設セ
 ラルルヤ一關以北ヨリ仙臺或ハ關東ニ赴ク貨物旅客ハ重ニ陸路ニ由ラスシテ狐禪寺ヨリ汽船ノ便ヲ採
 リ石卷及松島灣ヲ經テ鹽釜ニ直航シ汽車仙臺ニ到ルノ便アルヲ以テ狐禪寺石卷間ノ各河岸場モ隨テ繁
 盛ヲ極メ仙臺一ノ關間ノ陸運ハ大ニ衰退セリ之レニ反シテ一ノ關以北ハ殆ント陸運ノ一途ニ歸シ荷馬
 車ノ使用絡繹相接シ終ニ狐禪寺上流ノ河岸場ハ漸々衰頽ニ赴ケリ尋テ二十三年東北鐵道ノ奥州原野ヲ
 一貫スルヤ樞要ノ地ニ停車場ノ設アリテ貨物ノ出入亦舟楫ノ迂遲ヲ守ル者ナク茲ニ再ヒ頓挫ヲ來シ一
 蹶遂ニ振フ能ハサルニ至レリ彼ノ汽船ノ如キハ從來毎日上下二回ノ往復ニシテ尙貨物ノ多キヲ告ケ往
 復回數ノ不足ヲ感スル有様ナリシカ鐵道開通以來上下隔日一回トナリ狐禪寺以南汽船ニ搭載スルモノ
 ハ僅ニ沿岸地方ノ雜貨ニ過キス今ヤ唯僅ニ木材石材薪炭米穀ノ幾分ヲ輸出スルト鐵材及食鹽石油等ヲ

輸入スルトハ尙水運ニ藉ルト雖多クハ品量重大ナルモノ若クハ僻遠ノ地ニシテ却テ舟送ノ便ナルニ如カサルモノアルニ因ルノミ

(二) 北上川水防ノ事

本縣下ニ於テハ常ニ水害ヲ患フルコト大ナルヲ以テ北上川本支川共概ネ堤防ノ設ケアラサルハナシ隨テ決水防禦ノ方法モ自ラ一定セルモノアリ即チ出水ノ虞アルトキハ町村役場吏員區長等ハ關係ノ堤防ヲ巡視シ出水堤防五分以上ニ達シタルトキハ地元役場ニ於テ其町村内及水下諸町村ニ警報ヲ發シ七分以上ニ達スレハ部内人民ハ勿論水下ノ町村役場ニ急報ス地元人民此急報ニ接シタルトキハ各自水防具ヲ携帶シ馳集リ又水下町村ニ於テモ役場吏員及區長等人夫ヲ招集シ俱ニ現場ニ赴キ各其受持區域ヲ定メテ防禦ニ從事シ減水ニ至ラサレハ引揚ケサルヲ例トス而シテ洪水堤防八九分ノ高キニ達シ愈々危急ノ場合ニハ警鐘ヲ亂打シ地元町村及水下町村ニ限ラス毎戸ヨリ丁年以上ノ者ヲ招集シ防禦ニ從事セシム若シ堤防越水スルニ至レハ土俵ヲ堤上ニ積ミ之ニ杭木ヲ打込ミ一時防遏ヲ爲シ又漏水ノ箇所ハ古壘或ハ菴等ヲ堤腹ニ張付ケ杭木ヲ打込ミ土俵ヲ積ミテ一時ノ急ニ應スル等其現況ニ依リ種々ノ方法ヲ施ス是等ノ方法其效ヲ奏セス終ニ堤防ヲ缺壞セラル、モ十間以内ノ切所ナレハ杉木或ハ其他ノ長木ヲ渡シ之レニ長杭ヲ打並ヘ土俵ヲ堆積シテ締切ヲ爲スト雖十間以上ノ破壞ニシテ水勢急激ノ際ハ最早防禦ノ手段容易ナラス唯左右ノ缺壞ヲ防禦スルニ止マルナリ關係町村ニハ杭木丸太唐竹空俵繩菴竹簀等ヲ

備置キ急需ニ供シ又破壞ニ至リシ際ハ長木等ノ類ハ渾テ地元町村ニ於テ臨時ニ徵發シテ之ヲ使用ス

福島縣

(一) 猪苗代湖疏水工事

猪苗代湖ハ岩代國安積、耶麻、河沼、北會津四郡ニ亘リ周回十三里十九町餘面積七方里餘湖面ノ海面ヲ拔ク一千六百九十二尺一寸湖面ノ諸原野ヨリ高キコト八百餘尺ニシテ水ヲ決スルノ容易ナルモ陸羽ノ山脈南北ニ連互セルカ爲メニ山東安積、岩瀬諸郡常ニ早損ニ苦ミ水利ノ急ナルニ拘ラス古來捨テ願ル者アルコトナシ明治十一年內務省ニ於テハ原野ヲ墾闢シ華士族ヲシテ其業ニ就カシメ又資金ヲ府縣ニ貸與シ以テ物産ヲ増殖シ修港疏河ノ工ヲ興シテ運輸ノ便ヲ開クノ方針ヲ定メタレハ開墾事業ノ緩急ヲ計リ先ツ地ヲ本縣下對面原ニ相シ猪苗代ノ湖水ヲ疏通シテ灌溉ニ便セントシ御用掛奈良原繁ヲ本縣下ニ派シ授産地及猪苗代疏鑿ニ關スル經營ヲ掌ラシム乃チ疏水ノ計畫ハ湖東山瀉灣ヲ渠口ト爲シ是ヨリ鑿開シテ東流セシメ以テ安積開墾地ノ灌溉ニ供セントスルモノニシテ湖西從來瀦水ノ吐出スル處ヲ戸ノ口ト稱ス是レ古田數千町ニ灌クノ渠口タリ今新ニ湖東ヲ鑿開センニハ先ツ湖西ノ舊堰ヲ改築シ以テ東西ノ水量ヲ等分ナラシメサルヘカラス蘭工師フアン、ドールンノ設計ニ據レハ灌溉面積ヲ二千七百九十七町歩トシ毎町毎秒時尺立方七勺ノ水ヲ要スルコト、シ灌溉ニ充ツヘキ總水量ヲ毎秒時尺立方二百個トス而シテ湖西從來ノ吐口タル日橋川ニ傍ヘル翁澤ニ於テ堰ヲ築キ栓材ヲ以テ水量ヲ調節スルコ

トトセリ蓋シ日橋川ノ流勢最大水量ハ每秒時尺立方二千九百個ヨリ多カラス每秒時尺立方千四百個ヲ普通トス斯クテ翌十二年十月猪苗代湖疏鑿起業ノ式ヲ擧ケ工事ハ湖西戸ノ口ヨリ著手シ次ニ湖東山湯灣渠口及隧道工事ニ及ヒ十四年七月疏水第一著工事成リタルヲ以テ同月三十一日通水式ヲ行フ本工事中困難ナリシハ湖東田子沼水ノ決出ニシテ又隧道中(自一番至七番)ノ難工事ハ沼上嶺ノ隧道ナリキ(長三百廿五間尺五寸勾配一)尋テ第二著工事即チ殘餘ノ隧道(自八番至五番)及ヒ各分水路工事ニ係ルモノニシテ翌十五年八月略竣功セシヲ以テ試通水ヲ施行セシニ土地ノ民湖水ノ滾々トシテ田野ニ疏浸シ灌溉意ノ如クナルヲ實地ニ目撃シ争ヒ請テ水利ヲ通シ歡聲湧タカ如シト云フ十月一日通水式ヲ舉行シ爰ニ始メテ全部ヲ疏通セリ

本工事ハ當初内務省勸農局ノ掌ル所ナリシカ十四年四月農商務省ヲ設ケラル、ニ方リ疏水ノ業務ハ同省書記局ニ屬スルコト、ナリ御用掛奈良原以下舊掛員該省ニ轉任ス後省中特ニ安積疏水掛ヲ設ク十六年二月單ニ疏水掛ト改稱ス是歲疏水工事ノ殘業及分水路ノ工事ヲ竣成シ猶疏水成業後ノ補修工事ヲ施行セリ而シテ疏水總金支出額四拾萬七千百圓餘ニシテ内起業費參拾萬千百拾圓餘別途費拾萬五千九百八拾六圓餘ナリ十七年六月農商務省中疏水掛ヲ廢シ其事務ヲ内務省土木局ニ屬シ同局中疏水課ヲ置カル十九年五月二十八日疏水事業完ク成ルヲ以テ之ヲ本縣ニ屬セシム以上明治十一年三月ヨリ同十九年五月ニ至ル迄ヲ第一期即チ政府直轄時代ナリト云フヲ得ヘシ疏水成業ノ初年即チ十六年ノ灌溉反別ハ

湖東ニ係ルモノハ安積、安達、岩瀬三郡ノ内古田三千九百四十一町步餘此收穫米六萬九千七百五十三石餘ニシテ平年ニ比シ一萬二千四百三十二石餘ノ增收ナリ又新田百五十一町步餘此收穫米千五十七石餘同年ハ用水分配ノ初年ニシテ且ツ非常ノ旱魃ナリシニモ拘ラス斯ノ如キ好結果ヲ得タルハ疏水ノ賜ト云フヘシ又湖西戸ノ口十六橋以下古田灌溉反別ハ二千九百五十一町步餘ニ上レリ(此增收額未詳)

第二期即チ十九年六月ヨリ二十一年三月ニ至ル本縣所屬時代ニ於テハ其尤モ苦心セルハ水路ノ修繕費ニシテ既ニ十七、十八兩年ノ費用各參千餘圓ニシテ年々此ノ如キ負擔ハ容易ナラス且ツ右ハ一時ノ小破損ヲ繕フニ止マリ一朝非常天災ノ場合ハ奈何トモナス能ハス金五萬圓ノ下附ヲ受ケ利殖ノ方法ヲ設ケテ非常大破損ニ備ヘントノ意見安積郡長ヨリ縣令ニ開申サレシカ調査ノ結果水路中自今十ヶ年以内ニ改築ヲ要スヘキ工費七萬圓ニ上ルヲ以テ郡長ハ更ニ右七萬圓ヲ無利子二十箇年据置拜借ノ儀ヲ上申セリ依リテ内務農商務兩省詮議ノ上土木局備金ノ内ヨリ土木費トシテ補助スルコトニ決シ内務技師小柴保人ヲ派シテ實査セシメタルニ疏水路改築修理工費豫算ヲ金六萬四百參拾參圓餘ト計上セリ是レ明治二十年ノ事ナリ六月終ニ疏水路維持ノ爲メ特ニ工費補助トシテ金參萬圓ヲ下附サレ八月更ニ工費貳萬圓ヲ貸與サル是ニ於テ第一著施工ノ分工費合計壹萬參千五百參拾五圓餘ハ工事ヲ總テ縣廳ニ委託シ猶疏水維持ノ爲メ關係人民ニ於テ五箇年間ニ金參萬圓ヲ積立ルコト、シ曩ニ下附及貸與ヲ受ケタル五萬圓ト共ニ縣廳ニ保管ヲ乞フコト、セリ斯クテ二十一年三月三十一日本縣知事ハ疏水事業及其附屬物

等ヲ安積、岩瀬ノ兩郡ニ引渡セリ蓋シ元來關係人民直接ノ事業ニ屬スルモノナレハ之カ管理ニ歸スルハ當然ノ事ナレハナリ

第三期即チ二十一年四月以後ハ民業時代ニシテ第一ニ起レル問題ハ庚垣原御料地引水ノ件ナリ當初同御料地ニ猪苗代湖疏水ヲ引用シ以テ懇田ニ便セントノ希望ニテ各村ノ情況如何ヲ御料局ヨリ本縣ヘ照會アリタレハ縣廳ハ安積郡役所ヲシテ故障ノ有無ヲ取調ヘシメタル末御料地灌溉ハ水量ノ不足ヲ來ス旨ヲ回報セリ然ルニ二十三年八月七日暴雨出水ノ爲メ疏水路破壊シ同月二十二日再ヒ洪水アリ乃チ修築工費貳萬七千五百八圓餘ノ内壹萬六千圓ノ縣費補助ヲ出願セシニ翌二十四年三月聽許セラレタリト雖疏水ノ狀況ハ樂觀ヲ許サス蓋シ疏水ノ目的ハ多年水害ニ苦ム所ノ古田並ニ開發セル新田合計五千餘町歩ノ灌溉ヲ必要トセシニ新田ノ開發豫定ノ七八分ニ達セスシテ其末流ハ漸ク水量ノ不足ヲ訴フ加之二十三年ノ洪水ニテ疏水路ノ破壞ヲ來タシ爾後數萬圓ノ工費ヲ投シ稍原形ニ復スト雖未タ完全ノ域ニ至ラス是ヲ以テ安積郡大槻外三村ニ跨ル御料地ノ如キモ猶年々旱害ヲ免レス因テ水利組合ハ更ニ水路ヲ改修シ水源ヲ新設シ以テ灌溉ヲ洽カラシメントノ趣旨ヲ以テ宮内省ニ疏水路改修工事金五萬參千圓ノ内參萬圓ノ補助ヲ上申セシニ二十八年六月ニ至リ同省ハ條件ヲ附シテ之ヲ聽許セリ是ニ於テ同年十月ヨリ工事ニ著手セシニ三十一年十月ニ至リ竣功セリ即チ新ニ寶ノ草、(工費壹萬四千參百四拾四圓餘)堂尻(工費八千參百拾五圓餘)ノ溜池ヲ鑿チ從來ノ疏水路ヲ改修シ(工費貳萬壹千九百六拾五圓餘)更ニ庚垣原水路ヲ開發セルモノナリ(工費參千五百拾圓餘)次ニ

起レルハ檜原湖開鑿問題及戸ノ口水閘管理移轉問題是ナリ檜原湖ハ猪苗代湖ノ水源ナルニ明治二十三年ノ頃耶麻郡堂島、鹽川兩村有志者ハ同湖ノ開鑿ヲ企テ暫ク中止ノ姿ナリシカ其後再燃セシモ猪苗代湖疏水關係人民ノ反對陳情ニ因リ終ニ挫折セリ又湖西戸ノ口水門ハ湖東ノ山瀉灣水門ト共ニ疏水ノ生命ニシテ現時ト將來トヲ問ハス此權利ハ毫モ動カスヘカラサルモノナリ然ルニ三十一年一月河沼郡北會津郡戸ノ口水堰普通水利組合管理者ヨリ戸ノ口水堰ヘ流下スル水閘ノ管理權ヲ受領センコトヲ安積水利組合ニ照會シ來リタルヲ以テ同組合ハ該要求ニ應ジ難キ旨ヲ決答シタレハ兩郡有志者ハ其運動ヲ中止スルニ至レリ

安積疏水ノ未タ民業トナラサル以前ニ於テハ十六年七月安積郡堀ノ内外三十五箇村連合會ヲ設ケ疏水路保存方法及ヒ配水ニ關スル事項ヲ議セシカ十八年四月ニ至リ水利土功會ヲ設ク二十年一月別ニ疏水路維持總代會ヲ設ク是レ既記積立金及ヒ拜借金等ニ關スル特別ノ事項ニ關スル議決ヲ要スルカ爲ナリ二十一年四月民業ト爲レル後二十四年五月安積郡郡山町外十五箇村岩瀬郡仁井田村猪苗代湖疏水路普通水利組合ヲ設ケ水利土功會ノ事業ヲ引受ケ疏水路維持總代會ヲ解散シテ其事業ハ之ヲ水利組合ニ移セリ灌溉反別ハ十八年水利土功會開設ニ際シ調査セルモノ二千六百三十町步餘二十年總代會ニ於テ豫定セル灌溉反別二千九百五十町步ニシテ漸次増加ノ傾向アリ又疏水事業ノ經濟狀態ハ明治十七年度ヨリ二十三年度ニ至ル水利土功會費中二十三年度ノ收入七千八拾壹圓餘支出七千七拾壹圓餘ヲ最多トシ

二十四年度ヨリ三十一年度ニ至ル普通水利組合費中二十九年度ノ收入四萬壹千四百六十五圓餘支出參萬貳百九拾圓餘ヲ最多トス又疏水路維持上ニ係ル諸費決算ハ二十年一月ヨリ二十三年十二月ニ至ル總仕拂額六千七百六拾八圓餘二十一年度及二十二年度疏水路修繕工費其他仕拂精算額壹萬七千圓餘二十年度乃至二十三年度疏水路維持法收入六萬九千四百七圓餘支出貳萬參千七百六拾八圓餘殘額ノ内四萬參千八百八拾六圓餘ハ公債證書ヲ買入レ壹千七百五拾貳圓餘ハ現金ナリ

(二) 長瀬川河身改修工事

阿賀川上流長瀬川ハ耶麻郡吾妻村字名家ノ東ニ於テ酸川ヲ容レ方向南ニ轉シ河幅廣濶トナリ三派ニ分ル其ノ直行スルモノト迂回スルモノトアレトモ俱ニ同シ方向ニ流レ數町ニシテ復タ相會ス其迂回スルモノハ左岸ニ接シ當初本縣ノ施工セル河道ニシテ流心之ニ傾クトキハ勾配宜シキヲ得ヘシト雖流出ノ土砂堆積シテ之ヲ妨ケ流心却テ右岸ノ一途ニ歸セリ是ニ於テ更ニ中央ニ河道ヲ鑿開シ左右二派ハ粗朶工ヲ以テ締切力メテ河心ヲ之ニ定メシトセンモ河狀變轉止ム時ナク終ニ其功ヲ奏セス目下全川ノ水量概ネ右岸ニ集マリ水勢頗ル急激ニシテ丘陵ノ岸脚ヲ洗フカ故ニ漸次缺崩スルノ虞アリ

(三) 阿賀川航路改修工事

阿賀川ノ漕運ハ初メ元和四年領主蒲生忠郷鹽川(岩代國 耶麻郡)津川(越後國東 蒲原郡)間ニ航路ヲ開通セント欲シ工ヲ起セリト雖素ヨリ山間ノ急流ナレハ舟楫ノ便ヲ得ルコト能ハスシテ止ム後享保年間京都ヨリ岡田道幽ナ

ル者來リ再ヒ工ヲ起シ貨ヲ抛ツコト數萬終ニ功ヲ奏シ始メテ舟船ノ往來ヲ見ル然レトモ工尙十分ナラス加之爾後洪水又ハ地震等ノ變災アリテ河狀漸ク舊ニ復シ辛フシテ通船スルニ至レリ嘉永元年會津藩主保科氏領内ノ藏米ヲ新潟ヲ經テ大阪ヘ回唱シ又北海ノ產物ヲ輸入セント欲シ社倉米五萬俵貯蓄金參萬兩有志寄附金壹萬兩ヲ以テ工費ニ充テ俗ニ瀧ト唱フル九箇所ノ湍床ヲ堀下ス尋テ安政元年瀧川ヨリ黒川筋ヲ浚鑿ス是ニ於テ若松新潟間ノ航路始メテ開通スルヲ得タリ而シテ甲州富士川ニ於ケル操舟熟練ノ者ヲ雇ヒ入レ當時盛ンニ生産物ヲ往復セシメタリシニ安政六年七月二十五日ノ洪水ニテ黒川筋ハ舊狀ニ復シ航路ヲ沮絶スルニ至レリ當時阿賀川筋ニ在テモ非常ノ洪水ニテ曩ニ開鑿セル各所ヲ傷碍シ通航容易ナラスシテ上リ貨物ノ七分ハ陸路ニ據レリト云フ維新後若松縣生產局ニ於テ輸出入ノ不便ヲ感シ明治六年更ニ開鑿ノ工ヲ起シ館ノ原村姥石ヨリ瀧板村字銚子ノ口ニ至ル四里間ニ出沒セル暗礁其他危險ノ箇所ヲ改修シ大ニ漕運ヲ利セリ然レトモ工尙完全ナラサリシヲ以テ歲月ヲ經ルニ從ヒ漸ク舊狀ニ復シ現今運河ノ便アルハ耶麻郡鹽川村ヨリ同郡慶徳村大字山科ニ至ル僅ニ三里ニシテ山科下流ハ水路頗ル屈曲シ且ツ處々ニ暗礁アリテ危險ナレハ通船稀ナリ然ルニ十五年若松ヨリ椽木、米澤、新潟ニ達スル三方道路ノ開鑿アリ續テ十八年新潟、若松間車道全通以來貨物ノ運輸ハ渾テ陸地ニ依リ通船殆ント廢止ノ姿トナレリ

(四) 阿武隈川治水工事

本縣ニ於テハ從來阿武隈川治水ノ方策區々ニシテ所謂舊慣工法ヲ施工セシカ明治十三年ニ至リ蘭法粗
朶工ヲ試ミ沈床扇狀上層單床護岸工等ヲ續行シ以テ河岸ノ崩壞ヲ防キ其ノ浸水區域ノ廣キ伊達郡ニ至
リテハ尙堤防ヲ築設セリ

青森縣

(一) 相坂川護岸工事

明治元年相坂川洪水(月日不詳)上北郡六戸村大字犬落瀬字林ハ字洗平ノ西方ニ在リシニ宅地ヲ崩壞シ民、
居ヲ失ヘルヲ以テ其過半ハ今ノ林ニ移リ他ハ洗平ニ轉セリ依リテ盛岡藩ニ出願シテ長百五十間ノ護岸
工事ヲ施セリト云フ現今ノ川敷ハ即チ其宅地趾ナリ

(二) 岩木川河口改修工事中止ノ件

岩木川ハ十三湖海口ノ閉塞ニ因リ上流ニ浸水シ其害實ニ大ナルヲ以テ之カ救治ノ方策ハ舊弘前藩以來
ノ懸案タリシカ遂ニ明治十三年ニ至リ十三湖及岩木川改修ノ議起ル是ニ於テ本縣ハ內務省雇蘭國工師
ムルドルノ派遣ヲ請ヒ之カ設計ヲ委囑セリ抑モ十三湖ノ海濱ハ延長シテ南北一線ノ方向ニ位シ到處西
風ノ害ヲ免ル、能ハス縣民カ權現崎ノ後方即チ小泊灣ニ向テ湖水ヲ放タシメントノ希望ハ良ニ以ナキ
ニアラヌムルドル亦一時之ニ傾聽セシト雖下ノ如キ理由アルニ因リ終ニ之ニ採用スルニ至ラス(一)十三
湖ヨリ小泊灣ニ至ルノ距離大ニシテ其間山脈ノ現ハル、者アリ隧道ヲ設クルニアラサレハ必ス塌墜ノ

大工事ヲ要シ其費用ニ考慮ヲ加ヘサルヘカラス(二)十三村ノ地先ト小泊灣ハ均シク海面ニ在リテ其海上
固ヨリ高低ノアルヘキニアラサルカ故ニ吐口愈離距スレハ導水溝ノ勾配愈緩漫トナリ從テ流通快利ナ
ラス到底改良ノ目的ヲ達スル能ハストノ事是ナリ蓋シ該吐口ノ位置タルヤ湖ヨリ海ニ達スル最捷ノ直
路ニ據リテ之ヲ定メサル可ラサル者ナルカ故ニ十三村ノ地先ヲ除キ決シテ他ニ其適地ヲ得ヘカラス乃
チ該村ノ地頭ニ沿ヒテ直ニ海ニ注カシムルヲ以テ最モ恰當ナリトス湖水ノ常ニ流通スルヲ確證セント
欲スレハ單ニ水戸口ヲ防水シ凹形ノ屈曲部ヲ防禦スルノミニテハ猶不可ナリ必ス西南ヨリ西北ニ至ル
方位ノ暴風ヲ防遮スルニ足ルヘキ所ノ一大突堤ヲ築設セサルヘカラサルナリトノ意見ナリシモ工費ノ
都合ニ依リ遂ニ中止セサルヘカラサルニ至レリ而シテ此工事設計ニ資センカ爲メ縣ハ本支流ノ各所ニ
量水標ヲ設置シ及ヒ十三湖ノ近傍ヲ測量セリ又內務省第二區土木監督署ニ於テハ明治二十五年ヨリ
河川調査ニ著手シ量水標ヲ五箇所ニ設ケ最高水位水面勾配及流量等ヲ算出セリ

山形縣

(一) 馬見ヶ崎川坊城堤ノ事

馬見ヶ崎川(最上支流須川小支)ハ明治四年ノ出水ニ堤防大ニ破壞セラレ縣令坊城氏奮然力ヲ再造ニ盡シ本堤及控
堤延長凡三千間ヲ築ク沿河ノ民大ニ其堵ニ安セリ人呼ンテ之ヲ坊城堤ト謂フ

(二) 馬見ヶ崎川堤防改築工事

明治二十三年馬見ヶ崎川洪水横流洶漲兩岸ノ決堤續テ三回ニ及ヒ山形市及東村山郡千歳村等ニ氾濫シ其害甚シ就中山形市ノ慘狀言語ニ絶ス依リテ本縣其狀ヲ具シ國庫ヨリ金貳萬貳千圓ノ補助ヲ仰キ地方稅ヨリモ金參萬四千四百圓餘ヲ補助シ市町村費金參萬參千八百貳拾七圓餘ヲ併セ工費總計九萬貳百貳拾八圓餘ヲ以テ山形市千歳村間兩岸石堤(外二割)延長三千九百二十五間ヲ改築セシカハ沿岸ノ民額手相慶セリト云フ蓋シ此築堤ハ土木監督署技師小柴保人ノ設計ニ係ルモノトス

(三) 寒河江川治水工事

寒河江川(最上川左支)ハ明治十二年洪水暴溢シテ西村山郡溝延村字下河原、不動木等ノ堤防大破ス修築ノ工民力ノ堪ユル能ハサル處ナルヲ以テ國庫ヨリ金七千貳百貳拾五圓餘ノ補助ヲ得復築及護岸粗朶工等ヲ施セリ之ヲ本川ニ於ケル粗朶工ノ始トス其後十四年中沿岸大ニ破壞セシヲ以テ同年度ニ於テ地方稅ヨリ其工費ノ二分ノ一即チ金參千四百六拾九圓餘十五年度ニ於テ金貳千五百五拾四圓餘ノ補助ヲ得粗朶工及四ツ梓等ヲ施シタリト雖二十年ノ洪水ニ悉ク之ヲ流失セリ是ヨリ先キ十八年度乃至十九年度ニ於テ地方稅ヨリ金貳千八百八拾五圓餘ノ補助ヲ受ケ宇稻荷原ヨリ泊川ニ至ル間舊堤ニ接續シテ長七百五十間高十尺馬踏二間敷七間半ノ新堤ヲ築キシニ其工法ノ不安全ナリシ爲メ尙水害ヲ免レサルニ因リ更ニ二十三年度ヨリ地方稅ヲ以テ同郡白岩村ヨリ下流二里餘ノ間繼續事業トシテ堤防改築及護岸粗朶工ヲ施行セリ

(四) 赤川修築工事

赤川(最上川左支)ノ上流東田川郡本郷村大字熊出ヨリ西田川郡大寶寺村大字道形ノ間ハ勾配急ニシテ且ツ河幅一定セス加之年々流出スル砂礫河床ニ堆積シテ河心ノ變遷常ナキカ爲メ水害年一年ヨリ甚シ依テ東西田川兩郡ノ民一致協力シ明治十八年度ヨリ同二十二年度ニ至ル繼續事業トシテ大ニ護岸修築ノ工ヲ興セシカハ沿岸始メテ昏墊ノ患ヲ免ル、ニ至レリ工費金七萬八千九百六拾五圓ニシテ地方稅町村費及寄附金ヨリ成ル

(五) 最上川及赤川低水工事ノ成績

最上川航路中水運ノ頻繁ナル北村山郡大石田村ヨリ飽海郡酒田町ニ至ル二十二里二十二町間ヲ河身改修區域トシ明治十八年七月二十二日飽海郡鵜渡川原村字中瀬地先ニ工ヲ起シ著々程ヲ進メ三十六年度ヲ以テ成ルヲ告ク支流赤川ニ於テハ西田川郡大寶寺村大字道形ヨリ下流同郡袖浦村大字坂野邊ニ至ル五里十五町間ヲ改修區域トシ同十八年七月十七日坂野邊ニ工ヲ起シ本川ト同シク三十六年度ヲ以テ竣功セリ今竣成ノ結果效益顯者ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ
幹流最上川ニ於テハ(一)東田川郡狩川村大字狩川字荒鍋ト飽海郡上郷村大字大川渡トノ間ハ本流二派ニ分レ一ハ左岸荒鍋ヲ擊衝シ一ハ右岸大川渡ニ馳突シ其ノ下流ニ至リ相會セリ兩派俱ニ河床ノ勾配急ナルカ爲メ奔流激駛通船ノ不便尠カラサリシカ二十一年度ニ於テ左派(荒鍋地先)ヲ締切リ航路ヲ右派ニ取リ

以テ流心ヲ一線ニ歸セシメタリト雖右派尙勾配急ニシテ且ツ河床ノ凹凸甚ク深クシテ大川渡地先ニ偏倚シ奔湍疊々相激スル處動モスレハ通船顛覆ノ虞アルヲ以テ舟夫最モ警戒ヲ加ヘタリ然ルニ右岸ニ水制工事施行以來湍筋稍定マリ漸次勾配及水深平均シテ今ヤ舟楫ノ危險ヲ免ル、コトヲ得タリ(二)其他北村山郡大石田村大字大石田字下川原同郡龜井田村大字川前最上郡大藏村大字清水町同村大字合海字作卷地先ノ如キモ亦勾配頗ル急ニシテ奔湍濫流數處ニ分カレ或ハ砂礫河床ヲ壅塞シ河身大ニ紊レテ一定ノ航路ナク舟行甚タ困難ナリシト雖工事施行以來其激迅ナル水勢漸次規線ノ中央ヲ流下セシニ因リ砂礫ノ停滯セルモノ自ラ浚下シ年ヲ逐ヒテ低水ノ流心定マリ大ニ通船ノ困難ヲ免ル、コトヲ得タリ(三)又西田川郡袖浦村大字宮野浦地先(赤川合流點)ヨリ流路左右ニ分カレ右スルモノハ飽海郡鶉渡河原村字中瀬ヲ經テ酒田町大字船場町ヲ衝キ左スルモノハ宮野浦ノ地先ヲ盤流シテ船場町ノ下流ニ至リ相會セリ而シテ左派ハ其水深稍平均セリト雖右派ハ大ニ亂レテ舟筏ヲ通スル能ハサルカ故ニ當時舟楫ハ皆左派ヲ通シ其兩派相會スル處ニ至リ更ニ溯リテ迂回セサレハ以テ酒田町ノ河岸場ニ著船スルコトヲ得ス然ルニ十八年度ヨリ二十一年度ニ於テ堰堤ヲ築キテ左派ヲ閉止シ航路ヲ右派ニ採リテヨリ湍筋次第ニ定マリ通舟ハ漸ク迂回ノ不便ヲ免レ輒スク酒田ノ河岸ニ著スルヲ得ルニ至レリ

左支赤川ニ於テハ東田川郡押切村大字押切新田以下上流ヨリ土砂ノ輸送漸ク甚シキカ爲メ流身大ニ亂レ湍筋常ニ定マラス通船ノ困難年一年ヨリ甚シ就中同郡廣野村大字廣野新田西田川郡東鄉村大字成田

新田同郡袖浦村大字黒森地先ノ如キハ航路最モ亂レタルカ爲メ鶴岡、酒田間ヲ往復スル無棚船ハ毎年十月ヨリ翌年六月頃マテ一艘ニ付舟夫三人ヲ要シ米穀五十俵(一俵五斗)ヲ積載シテ下漕スルヲ得ルト雖七月ヨリ九月ノ間ハ舟夫四人乃至五人ノ乗組ヲ以テ漸ク十七八俵ヲ積載スルヲ例トス而シテ該地先ヲ下漕スルニハ必ス先ツ其積荷ヲ小舟ニ分載シ數回之レカ小送ヲ爲シ以テ船脚ヲ減セサレハ通過スルコト能ハス之レヲ瀬越ト云ヘリ如此毎年夏時ニ至リ漕運ノ困難ナル所以ハ灌溉ノ爲メ上流ニ於テ多量ノ水ヲ引キ爲メニ流量ノ減スルニ由ルト雖畢竟泥沙堆積シテ河床ノ亂レタルニ基カسنハアラス然ルニ河身改修施工以來低水ノ流心大ニ定マリ屈曲亦矯正セラレテ湍筋平均セシカ故ニ押切村下流ニ於テハ減水甚シキ時期ニ際會スルモ決シテ舟楫ノ便ヲ缺クコトナク常ニ水運ノ利ヲ得ルニ至レリ是レ一ニ河身改修ノ賜ト謂フヘキナリ

秋田縣

(一) 米代川筋改修工事

米代川ノ流路山本郡ニ入り左岸富根、鶴形右岸種梅、常盤兩村ノ間ニ至ルヤ天保以來屢々河身ノ變遷ヲ經テ流心漸ク富根村大字飛根ニ接近シ出水ニ際シ住民其居ヲ流失セル狀態ナルヲ以テ同郡下岩川村ノ人北林良太深ク之ヲ憂ヒ明治三年工費凡金千兩ヲ投シ御忠進堀換ト稱シ流路ヲ疏鑿スルコト長千間幅六尺深詳ナラス五年又堀換工事ヲ起ス長六百間幅十間ニシテ工費金七百二十九圓ハ縣ヨリ之レヲ支

出ス是歲鶴形村長内喜右衛門ノ首唱ニ依リ同村字萱山地先流路掘換工事ヲ起ス長二百間幅十二間深平均六尺同村儲蓄米凡五百石(見續價額)ヲ以テ之レカ工費ニ充ツト云フ

(二) 米代川筋能代地先流路修築工事

山本郡能代港町地先ノ米代川流路ハ明治二年七月ノ洪水以來河身ノ變遷年一年ヨリ甚シキヲ以テ航路復舊ヲ目的トシ十九年向能代村河岸ニ杭打及梓卸工事ヲ起シ其費用金參千五百圓ヲ投セリト云フ

(三) 子吉川航路改善ノ事

子吉川ハ矢島(由利郡)ヨリ上流舟楫ヲ通スル能ハサリシカ明治二十八年郡費ヲ以テ始メテ重木船ト稱スルモノヲ造リ阿仁川舟夫ヲ備ヒ(阿仁川上流嶺山アリ舟ヲ以テ鐵物ヲ運搬)壯丁ヲ擇ヒテ操楫ノ法ヲ習ハシム船長八間其構造中央細狭ニシテ舳艫共ニ著シク反揚シ務メテ重力ヲ中央ニ集メ急流岩石間ノ通過ニ適セシム且ツ兩舷ハ重木ヲ以テ造ル其搭載量下航ニハ三百貫目上航ニハ其三分ノ一ニ過キス支流芋川筋ハ上川大内村下川大内村間(凡二)支流石澤川筋ハ石澤村下鄉村間(凡四)ニ於テ同シク其操楫法ヲ傳習セシメ大ニ之カ獎勵ヲ爲セリト云フ抑モ此等ノ諸川ニ在リテハ河中岩石多ク且堰堤等ノ設アリ舟楫ノ來往ヲ沮碍スル尋常ニアラス是ヲ以テ郡會ハ二十九年度ニ於テ航路開鑿獎勵費ヲ議決セリ之カ成功ヲ見ルニ至ラハ其便益タル蓋シ鮮カラスト雖川固ト航路ニ適セス縱令多少ノ開鑿費ヲ投スルモ其發達或ハ十分ナラサルヲ恐ル目下ノ狀況ヨリ視レハ猶微々トシテ運輸事業ニ影響アルカ如キモノニアラス

(四) 子吉川筋掘替工事

明治十三年子吉川筋由利郡子吉村宮内ニ於テ掘替工事ヲ施ス長七十間幅二十間工費金千四拾八圓餘内七百八十五圓餘ハ地方稅ノ支辨ニシテ其他ハ同村ノ寄附ニ係ル

(五) 子吉川新河口維持工事

子吉川河口古雪港ハ北方ニ面シ水流沮滯出水毎ニ必ス上流ノ地ヲ浸害スルコト數十町ニ及ルヲ以テ舊本莊藩ノ當時北原金左衛門ナル者命ヲ承ケテ字土場山地先ノ洲嶼ニ松樹ヲ植エ以テ河口ノ北向ヲ防ク廢藩ノ後海岸ノ砂防ヲ怠リ之ニ加フルニ出水毎ニ破潰セラレ明治十二三年ノ頃ニハ遂ニ全嶼ヲ流亡シ河口復北ニ向ヘリ然レトモ二十一年ノ洪水ニ河口ノ砂洲ヲ決シテ西方ニ面スルニ至リ如何ナル増水アルモ氾濫ノ害前年ノ如クナラス其頃同港廻船問屋ノ徒新河口ヲ維持セント欲シ頻リニ亂杭ヲ打立テ防禦ヲ爲シタレトモ流勢却テ舊河口ニ向ヒ依然漸進セルモノ、如シ

福井縣

(一) 三國町九頭龍川派川、締切工事附阪井港ノ修築

九頭龍河口タル三國町ノ水運ヲ便ナラシムル目的ヲ以テ往昔左岸新保村泥原新保浦字鑓頂寺ニ刎梓ヲ築造シ右岸道實島派川ノ水量ヲ増加スルコト、セリ然ルニ竹田川及兵庫川沿村ハ該派川ヨリ九頭龍ノ逆流ヲ受ケ且ツ疏水ヲ沮害セラル、コト甚シキヲ以テ派川締切ヲ藩廳ニ出願シ又九頭龍川左岸ノ部落

ハ刎梓ノ洪水疏通ニ害アルヲ唱ヘ刎梓撤去方ヲ亦藩廳ニ出願セシニ藩議ハ派川締切ニ決シ即チ慶應三年四月工ヲ起シ明治二年ニ至リ功ヲ竣ル工費千貳百兩許ヲ要セリ而シテ其根堅メ打杭ノ費用ハ同町豪商森與五郎之ヲ支出セリト云ヒ又ハ藩費ナリトノ説アリ其他刎梓ニ使用セシ諸石ノ運搬及埋填ノ土功ニハ郷人夫ヲ使役セリトノコトナレトモ確タル證左ナシ廢止ニ歸シタル川敷ハ長二百五十間幅平均七十間ナリ當時同町民ハ之ニ反對シ締切工事ニ異議ヲ申立タルモ採用セラレサリキ然ルニ締切ノ結果水行變遷シ同町沿岸漸次淺瀬トナリ船舶ノ出入大ニ不便ヲ感シ流心ハ左岸新保村ノ方ハ移リタルニ因リ町民ハ一旦締切撤去方ヲ出願セシモ水害部落ノ紛擾ヲ醸スヲ厭ヒ遂ニ之ヲ取下ケ更ニ港灣維持ノ爲メ防波堤ヲ築設スルコト、セリ

前ニ記スルカ如ク三國町ハ派川締切ノ爲沿岸漸次淺瀬トナリテ船舶ノ出入其數ヲ減セシニ依リ回漕業者ハ勿論港内一般人民ハ同町ノ衰微ヲ憂ヒテ之カ復舊工事ヲ歎願スルコト數次ニ及ヒシカハ明治三年足羽縣ニ於テ再ヒ舊位置ヨリ凡三町餘ノ下流ニ水刎梓ヲ設置セシモ其施工宜シキヲ得サリシカハ毫モ其效ヲ見ス是ニ於テ港民ハ釀金ヲ以テ本流路變更修築ノ義ヲ敦賀縣ニ出願セシニ縣ハ之ヲ重大視シ八年十二月内務省土木寮ニ申請シ雇工師エツセルノ派遣設計ニ依リ防波堤工營費ノミニテ概算金九千八百餘圓ノ見込ナリシヲ以テ港民ニ防波堤築設ヲ勸誘セリ其後工師等滞在シテ九年五月ヨリ實地ニ水行風濤ノ狀況等ヲ反覆研究ノ上計畫スル所ニ據レハ堤ノ長ヲ二百五十間トシ棧道、新河沙洲掘鑿、港内

疏導改修等ノ費用ヲ合シ參萬四千六百四拾四圓ニ上リシカハ港民ハ如此巨費ノ負擔ヲ肯セス紛議百出セシモ縣令山田武甫ノ説諭ニ依リ棧道費ヲ除キ貳萬貳千七百七拾四圓ヲ用途ニ費用ハ有志者一時之ヲ繰替ヘ事業竣功ノ後港口輸出入ノ諸物價百分ノ一宛ヲ徵收シ凡九箇年間ニ償却ノ方法ヲ立テ港民森田三郎右衛門外五名ヨリ同年八月縣へ出願セシニ尋テ石川縣ノ所轄ト爲リシカ内務省ニ於テハ本件ハ所謂免許工事ナルヲ以テ之カ手續ヲ經サルヘカラストノコトニテ其往復ニ日子ヲ費シ翌々十一年一月願人ヨリ遵守スヘキ條項ノ受書ヲ差出セリ然ルニ港口ノ形狀變シテ去ル九年九月設計ノ時ト同シカラサルヲ以テ防波堤費ニ五千餘圓ノ増加ヲ見其他ノ費用ヲ合シ參萬參千七百六拾四圓餘ト爲リ最初見込ノ九千八百圓餘トハ非常ノ相違ニシテ發起人ノ困難少カラスト雖明治六年以來投資スル所些細ナラサレハ今ニ至リ之ヲ中止スルニ忍ヒス更ニ費用償却法ヲ改メ輸出入物品價額ニ應シ百分ノ一宛ヲ凡三十三箇年間徵收スルコト、シ其年即チ十一年二月二十五日許可ヲ受ケ五月初メテ工事ニ着手セシニ如何セン北海風浪ノ甚シキ一歲中十分ノ施業ヲ得ルハ僅ニ夏秋ノ二季ニ過キス其間一旦風浪ノ變アレハ其未タ完成セサル工事ヲ一掃シ爲メニ不慮ノ損害ヲ招クコト少カラス是等ノ場合間マ實地ヲ酌量シテ設計ノ一部變更ヲ要シ加之物價騰貴等ノ爲メ豫算額ノ増加ヲ來タシ實ニ拾貳萬六千九拾七圓餘ノ巨資(明治七年)ヨリ十一年工事著手迄ノ支出四千七百廿六圓餘ト共ニ)ヲ以テ漸ク防波堤ノ築造成ルヲ告ケ獨リ上層工ノ幾部分ノミ未タ竣功スルニ至ラサルモ此ノ築造ニ依リ港内全ク開通シ水深從前僅ニ四五尺ナリシモノ十二三尺ヲ得船舶ノ便否往時

ト其觀ヲ異ニスルニ至リ且ツ免許人ニ在リテモ連年工費ノ支出ニ苦ミ轉々漏弊ヲ極ムルノ際實ニ止ミ難キ事情アリテ上層工ノ未タ全ク竣功セサルニモ拘ラス開港ノ式ヲ行フ時ニ明治十三年十二月十四日ナリ工費ハ總豫算額拾貳萬六千九百九拾七圓餘内六萬參千貳百拾九圓餘官費、六萬貳千九百七拾八圓餘民費、七千圓補助費ニシテ精算額拾貳萬四千六百參拾四圓餘内工業費六萬貳千貳百五圓餘雜費六萬貳千四百貳拾九圓餘即チ殘金千五百六拾參圓餘外ニ工業品及器械賣却目途ノモノ五千八百九拾圓アリ合金七千四百五拾參圓餘ノ剩餘ヲ生スヘキナリ

斯ノ如ク工費次第ニ増加シ到底前償却法ニテハ償却ノ見込立タサルヲ以テ出入物價百分ノ一、五ニ當ル港錢(荷物一個五厘 乘客一人壹錢)ヲ翌十四年一月ヨリ向三十九箇年間徵收ノ義許可ヲ受ケ免許人ハ勿論港民モ大ニ其堵ニ安ンシ少ク愁眉ヲ開ケル間モナク同年二月工業時季ニ先チ非常風浪ノ爲メニ上覆ノ石材若干ヲ流亡破壞シ縣官出張ノ上修補ノ設計ヲ立タルニ金壹萬五千八百四拾七圓餘ヲ要シ免許人カ工師ノ意見ヲ信シ此上上層工ニ凡貳千圓ヲ費セハ全部竣功スヘク思惟セルニ反シタレハ此多額ノ工費支出ノ困難ヲ唱ヘ空シク時日ヲ費シ修補ヲ躊躇セシカ縣廳ノ説諭ニ從ヒ奮テ之カ修補ニ着手スルコトニ決セリ然ルニ土木局員及縣官出張シテ更ニ設計セシ所ハ金五萬七千圓ノ多額ニ上リ免許人等ハ驚愕爲ス所ヲ知ラス到底其負擔ニ堪ヘ難キ旨ヲ嘆訴シ曠日彌久ノ情形ナルヲ以テ百方説示ノ末其最モ損害ヲ受ケ易キ頭部ニ就キ專ラ修補ヲ加ヘ其他ハ翌十五年ニ於テ修補スルノ計畫ヲ爲シタル處豈圖ランヤ十一月再

度ノ怒濤ヲ被リ更ニ防波堤中部ニ少カラサル損害ヲ來セリ是ニ於テ乎免許人等ハ元來此工事タル官ノ愆過ニ濫觴シ其經費ノ如キモ數回豫算ヲ誤リ終局スル所ヲ知ラス且ツ今後ノ工費負擔ニ耐ユヘクモアラサレハ該工事免許權ヲ政府ニ返上シ修築ニ支出セシ金額ハ一時ニ官ヨリ下賜セラル、カ又ハ免許權ヲ政府ニ奉還シ而シテ從來支出セシ一切ノ金額ハ本年ヨリ向フ五箇年間元金ニ年壹割ノ利子ヲ加ヘ年下附セラル、カ兩者何レカ一方ノ願意ヲ許容セラレンコトヲ十五年三月十七日本縣ニ陳情ニ及ヒタリ縣ハ其意見ヲ內務省ニ具申セシニ同省ハ御用掛古市公威ヲ出張調査セシメタルニ防波堤ノ頭部即チ昨年上層工ヲ施シタル箇所ニ在リテハ殆ント損害ヲ被ラサル者ノ如ク唯本年施工スヘキ防波堤中部ニ於テ上覆石ヲ散亂シ梁桁ヲ流亡スル等其害少カラス上覆石ノ如キ梁桁ノ如キ皆上層工ヲ俟チテ始メテ能ク其堅牢ヲ保存スヘキ者ナルカ故ニ右層工ノ未タ竣ラサル間ハ是等ノ損害ハ固ヨリ免レ難キモノナリ然レハ本年ハ更ニ防波堤ノ全部ニ着眼シ季節ヲ誤ラス十分ノ上層工ヲ施スハ該港保持上緊要ト認メ其方針ヲ以テ工費豫算ヲ調製セシニ總計九萬五千四百四拾圓餘ヲ要シ内昨年度免許人支出ニ係ル工費殘額及免許人所有ニ屬スル器具代價合計壹萬參千八百九圓餘ヲ該工費ニ充ツルモ尙八萬千參百參拾壹圓ヲ要スルニ依リ一應縣廳ノ手ヲ經テ免許人ニ示シタルニ免許人ニ於テハ此巨額ナル費用ハ假令資財ヲ倒盡スルモ到底支辨ノ見込ナキヲ以テ前陳免許權奉還ヲ出願シテ止マス此ニ費用支出ノ途ヲ失ヒ策ノ施スヘキナク遂ニ十五年四月內務卿ハ起工以來經過ノ顛末ヲ具シ太政大臣ニ上申シ裁決ヲ乞フニ至

レリ其結果同月二十五日金八萬千參百參拾壹圓下渡ノ指令アリ依リテ翌二十六日縣へ該工事ハ内務省直轄修補ヲ爲シ費用ハ免許人ニ於テ支出ニ係ル工費殘金及其所有器具ヲ以テ之ニ充テ其他不足ノ分ハ官費支辨ノ上特別ノ詮議ヲ以テ收入ノ港錢ヨリ償却シ其償却ノ完了スル迄ハ免許人ノ港錢徵收ヲ差止メ縣ヲシテ之ヲ取扱ハシムル旨内務省ヨリ達セラル斯クテ同省ハ古市御用掛ヲ派遣シ專ラ工事ヲ董督シ其年十一月十五日豫定ノ如ク防波堤修補工事完ク功ヲ竣ルニ至レリ而シテ翌十六日ヲ以テ之ヲ本縣へ引渡セリ其修補ニ要シタル金額六萬七千圓ニ達セスシテ豫算ニ對シ凡壹萬四千圓餘ノ減額ヲ見ル之ヲ要スルニ明治初年修築ノ議起リ十一年五月初メテ工ヲ起シ十三年十二月略功ヲ竣リ開港ノ式ヲ舉ケ十五年十一月完ク成ルヲ告ク工費總額拾九萬參千圓餘内官費六萬參千圓餘民費拾參萬圓餘トス當初計畫ノ豫算僅ニ九千八百圓ニ起リ斯ノ如キ巨額ヲ投スルニ至ル實ニ至難ノ工事ト謂フ可キナリ

(二) 九頭龍川堤防増設ノ事

九頭龍川筋右岸吉田郡森田村上野附近ノ堤防ハ流心衝突ノ個所ニシテ往々破壞ノ厄アリ維新前ニ在リテハ天保三年同九年安政元年萬延元年慶應二年ノ水害ハ上野、上森田、下森田、八重卷、天池等ノ諸村ヨリ破堤シ下流同郡河合村阪井郡磯部、春江、大石、兵庫、木部、本庄等ノ諸村ニ氾濫セリ近クハ明治二十八、九兩年ニ於ケル水害亦此地方ヨリ破堤セリ左岸ハ吉田郡東藤島村中ノ郷中藤島村北野上、北野下、新田三個、南河合新保、寺前、舟橋、燈明寺等ノ堤防ハ福井市ニ重大ナル關係ヲ有シ一

朝破壊スルトキハ遠ク全市ヲ浸スニ至ル寛政元年文政十二年天保八年安政四年同元年萬延元年ノ水害ハ此地方ノ破堤ヨリ來レリ兩岸共ニ治水上緊要ノ箇所多々アルヲ以テ舊藩ノ頃大ニ洪水防禦ニ留意シ右岸鳴鹿以下高屋ニ至ル凡四里半左岸松岡以下船橋新ニ至ル凡三里ノ間ハ古來點々堤防ノ設ケアリト雖未タ防備ノ恃ムニ足ラサルヲ以テ藩政ノ末期明治二年ヨリ三年ニ涉リ福井藩ニ於テ堤防ヲ増設セリ現今存スル堤防ノ大半ハ一ニ當時ノ築造ニ係ルモノニシテ就中森田下流ノ兩岸ニ新築シタルモノ尤モ多シト云フ當時事業半ハニシテ廢藩ニ屬シタルヲ以テ右岸高屋以下河合村ノ一部及阪井郡春江村大石村地内ニ於テ一里十七町間堤防ヲ築クニ至ラス爲メニ一朝洪水ニ際セハ忽チ漲溢シ大約三千町歩ノ耕田ニ氾濫スト云フ輓近此地ニ春江新堤ノ築造ヲ見ル

(三) 九頭龍及足羽二川ノ沈床工事

縣ハ明治十二年ヨリ同十六七年ニ涉リ内務省雇エツセル工師ノ設計ニ基キ九頭龍川筋燈明寺及安澤地先又足羽川筋福井市内等ニ護岸及水制トシテ沈床工事ヲ施行シ以テ水勢ノ衝突ヲ避ケ河岸及堤脚ノ缺壞ヲ防ケリ該工事ハ今猶存シ實ニ本川ニ新式工法採用ノ嚆矢ニシテ又本川治水工事上ノ一進歩ナリトス

(四) 春江堤防築造工事

九頭龍川筋吉田郡河合村大字高屋ヨリ阪井郡大石村大字正善ニ至ル沿岸約三千間ハ舊來堤防ノ設備ナ

キヲ以テ此地方各村ノ田圃及家屋ハ每歲出水アル毎ニ災害ヲ被ラサルハナク慶應三年明治十八年同二十九年ノ洪水ノ如キ被害甚大ニシテ農民困難ニ陥レルヲ以テ大石村大牧ノ人坪田仁兵衛同村井向ノ人岡部直景河合村二日市ノ人五十嵐千代三郎三名ハ明治四年以來春江新堤ノ築造ヲ企圖セリ乃チ此堤防ノ築造ハ本川改修工事ト相待テ緊急措テヘカテサル事業タルコトヲ主張シ當局ヲ動カシ終ニ縣費支辨ヲ以テ三十一年三月工ヲ起シ千代三郎分擔ノ分ハ同年九月七日直景分擔ノ分ハ翌三十二年一月十二日孰レモ功ヲ竣ル仁兵衛ハ二十九年七月起工ニ先チ死亡セリ堤防延長實ニ一里八町三十四間ナリ

(五) 眞名川流域堤防工事

眞名川筋(九頭龍川左支)左岸大野郡上庄村五條方ニハ同郡ノ休戚ニ最モ關係ヲ有スル堀兼、大井二用水ノ引入口アリ平時ニ在リテハ大野郷五千八十石ノ田ニ灌クト雖洪水堤ヲ決スル時ハ其被害田圃ハ勿論遠ク大野町ニ波及ス曾テ天明寛政ノ頃浸水ノ慘狀ヲ極メタルコト口碑ニ存セリ是ヲ以テ舊藩當時ヨリ尤モ此地ニ留意シ二重堤防ヲ築キ不慮ニ備ヘタリト云フ有名ナル堀兼堤防是ナリ今尙之ニ二重ノ石堤ヲ増加シ大ニ防備ヲ嚴ニセリ又右岸同村佐開地内支川鬼谷川ノ水源ニ當リ山地ノ崩壞甚シキ箇所アリ本川ヘ土砂岩石ヲ輸送スルコト莫大ナルヲ以テ合流口ヨリ同川ヲ溯ル凡二町ノ處ニ於テ該川ヲ横斷シテ石堰堤築造ノ工ヲ起シ明治二十七年ヨリ二十八年度ニ涉リ一旦竣功セシモ二十八九年兩度ノ出水ニ因リ悉ク崩壞シ更ニ三十年度ニ於テ之カ復舊工事ヲ施セリ工費ハ前後通シテ九千八百圓餘ノ多額ヲ要セリ

(六) 水害豫防組合ノ事

縣下一般河川沿岸ノ地ニ水害豫防組合ノ設ケアリ即チ足羽川洪水ノ節逆流ノ浸入ヲ防禦スル爲メ水門ヲ設置シ永久之ヲ維持スルヲ目的トセル福井市佐佐枝上町水門水害豫防組合アリ宇荒川筋洪水ノ踰越ヲ防禦スル爲メ堤防ヲ修築シ之ヲ維持スルヲ目的トセル同市中島堤防水害豫防組合アリ阪井郡木部村川崎ヨリ三國町沙見ニ至ル九頭龍川沿岸ニシテ新保村地籍ニ屬スル堤防長八十五間ノ修築保存ヲ爲シ以テ組合區域内ノ土地家屋ノ水害ヲ豫防スルヲ目的トセル道實堤防水害豫防組合アリ其他尙多シ

石川縣

(一) 淺野川水害豫防組合ノ事

淺野川ハ關係市町村ノ組織ニ係ル水害豫防組合ニ於テ其ノ治水費ヲ負擔ス但其負擔額ハ地租戸數等ニ據リ一定ノ標準アリ其ノ程度ヲ超ユルトキハ其超過額ハ悉ク地方稅ヲ以テ之ヲ支辨ス蓋シ明治十四年ニ於テ府縣土木費下渡金ヲ廢止セラレシニ依リ十七年度迄ハ各町村ニ於テ負擔ス十八年度ヨリ二十三年度迄ハ水利土功會ノ決議ニ依リ區域内ノ負擔ト爲シ、カ二十四年度以降淺野川水害豫防組合ナル者ヲ設ケ同組合ノ決議ニ依リ支辨スルコト、ナレリ即チ前ニ記スルカ如シ又水防ノ方法ハ該組合ニ於テ臨時人夫ヲ募リ防禦ニ從事ス其水防具ハ粗朶竹空俵莖等ニシテ豫メ之ヲ準備セリ

(二) 犀川水害豫防組合ノ事

犀川ハ關係市町村ノ組織ニ成レル水害豫防組合ニ於テ其ノ治水費ヲ負擔ス而シテ其程度ハ地租額三十分ノ一戸數割一戸ニ付金七錢ト定メ毎年該組合ニ於テ徵收シ不足ノ費額ハ地方稅ノ補助ヲ受ク組合設立マテノ沿革ハ前項淺野川ニ於ケルモノト同シ又水防ニ就キテハ組合役員出張シ關係市町村ヨリ人夫ヲ募リ防禦ニ從事ス而シテ其用具ハ堤防ニ植付タル樹木ヲ之ニ充テ其他竹籠粗朶等ヲ豫メ準備セリ

(三) 手取川水防方法ノ事

手取川ハ全流域面積六十五方里ニ亘リ灌溉反別一萬千九百九十二町歩水害區域二千五百五十五町歩ニシテ利害關係ノ大ナルコト縣下河川ノ第一ニ居ル乃チ之ニ要スル治水費亦多クシテ關係町村ノ負擔ニ耐エサルニ依リ明治十八年以降鶴來(石川郡)以下縣稅一途ノ支辨ニ屬ス而シテ水防ノ方法ハ急防工事ヲ分チテ三類トス即チ洪水氾濫堤塘決潰セントシ危險措ク可ラサル場合ニ方リ葦粗朶石俵又ハ蛇籠等ヲ以テ防禦スルモノ之ヲ第一類トシ漸次増水ニ隨ヒテ堤塘ヲ破リ爲メニ決潰セントスル恐レアリ蛇籠川倉等ヲ以テ防禦スルモノ之ヲ第二類トシ一旦決潰ヲ免レタルモ後害ノ懸念アリ猶豫成リ難ク蛇籠川倉等ヲ以テ防禦スルモノ之ヲ第三類トス

富山縣

(一) 十二町瀉排水工事

氷見郡十二町瀉廻リ介在諸村中十二町、神代、布勢、鶴四村ノ内九部落其田五百九十四町九段餘草高八

千九百六十一石餘ハ從來瀉水澱滯米穀ノ收穫甚タ僅少ナリ又霖雨其他ノ際ハ時々氾濫シテ瀉廻介在中島新及古江新ノ如キハ其被害ノ中樞ニシテ毎年損耗ヲ招キ荐リニ荒蕪地ヲ生シ居民終ニ離散シ一戸ヲモ留メサルニ至レリ十二町村ノ人矢崎嘉十郎大ニ之ヲ憂ヒ除害ノ策ヲ講セシニ十二町瀉末流ハ河幅狹ク且ツ迂回セルカ故ニ流水海ニ注クニ便ナラス之カ排水ハ更ニ吐川ヲ新鑿スルニ如カスト爲シ熱心之カ貫徹ヲ圖リシカハ終ニ大庄屋笠間作五郎ノ援助ニ依リ藩廳ニ請ウテ成功ノ上ハ其費用ノ幾分ヲ下渡サル、コトノ許可ヲ得慶應三年工事ニ著手シ數百ノ人夫ヲ使役シ期月ナラスシテ完成ニ至ラントスルニ當リ一夜大雨ノ爲メ湖水氾濫砂土ヲ流亡シ堤防ヲ崩壞シ九仍ノ功一夜ニシテ水泡ニ歸セシム而カモ嘉十郎敢テ屈セス初志ヲ貫カント欲シ再ヒ着手シタルハ實ニ明治元年八月十八日ナリ是ニ於テ乎前車ノ覆轍ニ鑑ミ一層工事ヲ周密ニシ萬難ヲ排シ同二年八月三日ヲ以テ竣功ヲ告ケタリ即チ吐川(位置ハ窪見町ノ境ニ近キ地ナリ)ハ深サ平均二間掘割長五百四間上幅十二間下敷十間ナリ工費總額七萬四千四百參拾四貫文餘内四萬貳千參百五拾九貫文餘ハ補助額貳萬四千貳拾九貫文餘ハ關係町村割賦額八千四拾五貫文餘ハ嘉十郎ノ寄附額ナリ排水ノ結果ハ五十餘町ノ美田ヲ新墾シ且ツ被害地五百九十餘町ノ收益八千九百六十一石餘ナリシモノ直ニ一萬五千六十五石餘ニ増加シ外ニ最初新開ノ二十餘町ニ於ケル二百四十二石餘ヲ加フレハ實ニ純增收六千三百四十六石餘ナリト云フ

(二) 常願寺川水害豫防組合ノ事

常願寺川ハ洪水毎ニ上新川郡馬瀬口前ヨリ決出セルヲ以テ天正八年領主佐々成政一大石堤ヲ新築シタリシカ其後元祿十四年八月大洪水アリ堤防數十箇所破壊シ殊ニ馬瀬口前ヲ甚シトス依リテ富山藩主ハ川除長サ二百四間ト二百八十間ノモノヲ大石ヲ以テ築造セリ然レトモ本川ハ年々歳々砂石停滯シ河床逐次隆高ニ赴キ前堤防ノ頂邊馬踏ノ如キハ何レノ頃ニカ河底ト爲ルノ狀況ナルカ故ニ藩主ハ屢々新設又ハ修繕工事ヲ行フコトアリシカ廢藩置縣後ハ常時修繕ハ縣支辨トナリ急防ハ水下關係者ニ於テ施行シ後水害豫防組合ヲ設ケ現今其ノ管理ニ屬ス

(三) 當願寺川改修工事

當願寺川ハ明治二十四年前代未聞ノ洪水ニ遭遇シ堤防ヲ破壊シ道路橋梁ヲ毀損シ又良田ヲ荒蕪ニ歸セシメシコト數百町ニ及フ其ノ尤モ著シキモノヲ舉クレハ上新川郡西水橋ノ南方左岸國道ヲ兼用セル堤防ヲ破リ濁流青田ヲ直下シテ海ニ注クノ慘狀ヲ呈セリ故ニ同年度ニ於テ國庫ノ補助金ヲ仰キ上瀧町下流凡五里ノ間ヲ改修セリ

(四) 神通川下流改修工事

神通川ハ近年河床漸次高マリ沿岸ノ地屢々浸水ノ害ヲ受クルニ依リ富山市神通橋附近ヨリ下流河幅擴張ノ工ヲ施シ之カ救治ヲ爲セリ

(五) 庄川改修工事

庄川治水ノ一端トシテ縣ハ小矢部川合流點ヨリ僅ニ上部ナル能町地先ニ先年改修工ヲ施行シ以テ沿岸住民ノ患ヲ除ケリ

鳥取縣

(一) 天神川流域水害豫防組合ノ事

天神川左支小鴨川通東伯郡矢送村大字關金宿ニ於テ同大字ヲ限リ金谷堤防水害豫防組合ヲ設ク天神川右支矢送川通同郡同村同大字ニ於テ同大字ヲ限リ關金堤防水害豫防組合ヲ設ク矢送川左支國府川通同郡社村福光、國分寺、國府ノ三大字ヲ以テ區域トシ北田堤防水害豫防組合ヲ設ク

(二) 日野川航路開鑿不結果ノ事

日野郡根雨村ノ人近藤喜西ナル者明治十六年九月日野川航路ヲ開鑿シ大字根雨宿以東會見郡福市村迄ノ間ニ通船ヲ試ミ尋テ十七年二月更ニ同郡車尾村迄延長セリ水程凡八里餘諸物貨ノ輸送ヲ爲シ、二十年九月洪水ノ爲メ航路ヲ舉ケテ破壊セラレ全ク其形跡ヲ失ヒ船隻及會社ノ建物モ悉ク流亡スルニ至レリ蓋シ航路ノ開鑿修繕其他ノ費用ニ投セル金壹萬五千九百參拾圓餘ノ一空ニ歸セルノミナラス凡ソ三年間ノ經營ニ四萬圓ノ損失ヲ招ケリ先是天保十五年藩費ヲ以テ矢戸、根雨間ニ航路ヲ開キ砂鉄ノ運輸ニ供セシコトアリシモ永續セサリシト云フ其廢絶ノ年次ハ未詳ナレトモ當時航路開鑿ニ要セシ夫役二萬四千五百七十六人費用ハ賃錢其他ヲ合シ銀六拾壹貫九百九匁餘ニ上リ翌十六年功ヲ竣レリ

(三) 日野川流域水害豫防組合ノ事

日野川左支野上川通日野郡旭村大字父原ヲ以テ其區域トシ向田堤防水害豫防組合ヲ設ク同上同村大字古市及父原ヲ以テ其區域トシ前田堤防水害豫防組合ヲ設ク同村大字古市ヲ以テ其區域トシ西河原田堤防水害豫防組合ヲ設ク同村大字古市及中租ヲ以テ其區域トシ岩田堤防水害豫防組合ヲ設ク

(四) 千代川河口改良工事

千代川ノ河口ニ於ケル賀露港ノ地勢ハ東北西ノ三方ヨリ常ニ風波ノ衝突ヲ受ケ港口ニ一大洲嶼ヲ生シ船行不便ナルヲ以テ東西兩邊ヨリ一堤ヲ築キ以テ風浪ヲ遮ラシメ又小泉波止ヲ改築シ本川ノ流速ヲ増加セシメ其力ヲ借リテ港内ノ游砂ヲ吐出セシメンカ爲メ明治二十三年春期港ノ兩岸ヨリ鳥ヶ島ニ向ヒテ長二百三十間ノ堤防(人造石)築造ノ工ヲ起シ翌二十四年秋期ニ至リ成ルヲ告ク工費金參萬七千圓ハ有志者ノ釀出セシ所ナリ又小泉波止ノ改築ハ縣ノ事業トシテ地方稅ヲ以テ施行セリ然ルニ本川ノ水勢微弱ニシテ工事ノ目的ヲ達セス且ツ其後波濤ノ爲メ突堤缺壞シ殆ント其效果ヲ認ムルニ由ナシ但シ出入ニ支障ナキ船舶ハ百二三十石積以下ノモノニ限ル

島根縣

(一) 水防規則ノ事

本縣ニ於テハ明治二十年八月縣令第七十九號ヲ以テ水防規則ヲ發布シ同年九月一日ヨリ之ヲ施行ス同

令ニハ第一種^(地方稅)及第二種^(地方稅補助)ノ河川堤防及同種ノ道路ニ架設シタル橋梁ノ水防ハ其地元及關係

町村ニ於テ組合ヲ設ケ之ヲ負擔スル事斐伊川^(上熊谷)新川神戸川^(馬木)飯梨川^(山佐川落)ノ四川ハ堤防

百間ニ付一定ノ標準ヲ以テ常ニ杭木以下ノ諸品ヲ最寄便宜ノ場所ヘ備置カシムル事等ヲ規定セリ

(二) 神戸川水害豫防組合ノ事

神戸川筋左岸籾川郡朝山村大字馬木ヨリ下流知井宮村大字大島ニ至ル堤防防禦ノ爲メ朝山外六箇村ヲ以テ區域トシ神戸川水害豫防組合ヲ設ク又同川筋右岸同郡鹽冶村大字上鹽冶ヨリ下流園村大字西園ニ至ル堤防防禦ノ爲メ鹽冶外七箇町村ヲ以テ區域トシ同一名稱ノ水害豫防組合ヲ設ク

(三) 斐伊川流域水防組合ノ事

籾川郡大津村外八箇町村聯合水防組合同郡齋巢村外二箇町村聯合水防組合ハ孰レモ斐伊川堤防水防ニ關スル事項ヲ處辨スルカ爲メ設ケラレタルモノニシテ其費用ハ各町村ニ差等ヲ設ケ地價及戶別ニ依リ賦課徵收ス又同郡出西村外五箇村聯合水防組合ハ斐伊川新川二十間川北二十五間川南二十五間川堤防水防ニ關スル事項ヲ處辨スルカ爲メ設ケラレタルモノニシテ其費用ハ三步ヲ戶別ニ七步ヲ地價ニ賦課徵收ス又松江市末次及中原ニ跨ル水門並同市新材木水門水害豫防組合ハ同市及八東郡法吉村ヲ區域トシ前記水門ニ關シ設ケラレタルモノニシテ水害豫防ノ事ヲ掌レリ其費用ハ地價ニ六步戶數ニ四步ノ割ヲ以テ郡市ノ負擔ヲ定ム

岡山縣

一四〇

(一) 吉井川制水及復築工事

吉井川下流左岸備前國邑久郡行幸村大字長船以下右岸同國磐梨郡瀧瀬村大字大内以下處々制水工ヲ施セリ即チ左岸十三箇所延長二百三十九間四尺右岸八箇所延長九十三間其ノ規模極メテ小ニシテ改修ノ名ヲ附スルニ足ラス去ル明治二十五、六兩年ノ洪水ニ當リ上流津山附近ニ於テハ被害激甚ナリシト雖下流ニ至リテハ輕微ナリキ蓋シ津山附近ハ當時河狀不規則ニシテ且ツ出水急激ナリシニ因ル後三十年ノ頃復築工事ヲ經營スルニ方リ同所ニ對シテハ可成河狀ヲ矯正シ必要ノ河幅ヲ與フルコトヲ務メ堤防ノ如キモ大ニ堅牢ノ度ヲ増セシヲ以テ當分改修ヲ加フルノ必要ナカルヘシ

(二) 旭川低水工事

旭川ハ岡山舊城趾ヲ繞ルノ間河幅極メテ狹隘ニシテ洪水ニ際シ其全量ヲ快疏スルコト能ハサルヲ以テ上流ニ於ケル水位ノ昂騰著シク舊藩治ノ頃ヨリ破堤ノ厄ヲ被ル蓋シ少カラス竟ニ貞享年中百間川ヲ鑿チ排疏ノ便ニ供スルニ至レリ爾來年ヲ經ルコト既ニ久シク殊ニ廢藩置縣ニ際シ山林取締ノ制亂レ濫伐ノ統果山腹ノ崩壞甚シク土砂ハ次第ニ下流ニ沈澱シ加フルニ河政ノ大ニ弛ミシヨリ附洲ハ漸ク開墾セラレ地租改正ノ際是等ハ皆民有地ニ編入セシカハ百間川及ヒ二ノ洗手三ノ洗手等ノ放水量ハ尙不十分

ナルヲ免レス現ニ去ル明治二十五、六兩年ノ如キ非常洪水ノ被害ヲ誘致セリ殊ニ岡山市以下流末ニ至ル間ハ游砂ノ停滯年々其度ヲ高メ既往三十年前ニ比シ河底ノ埋堆約十尺ニ達セリト云フ蓋シ其當時ニ在リテハ海口ヨリ同市京橋下迄五六百石積ノ船舶自由ニ入り來リシモ今ハ四五十石積ノモノスラ航通自由ナルヲ得ス去ル二十年ノ頃同市近傍ニ低水工事ヲ施行セリト雖其工未タ十分ナラサルヲ覺フ即チ右岸御野郡御野村大字御野、北方、南方岡山市小畑町御野郡古鹿田村大字二日市福濱村大字福島ニ亘リ制水九箇所延長百八十七間左岸上道郡古都村大字宿高嶋村大字祇園岡山市右京町上道郡三幡村大字江並ニ亘リ制水六箇所延長百六間ヲ施設セルモノナリ

(三) 砂川水防組合ノ事

砂川水防ニ關シ上道郡浮田村三大字平島村四大字ヲ以テ區域トシ聯合會ヲ設ケ高水防禦ノ事ヲ處辨シ來リシカ町村制施行ノ際明治二十二年法律第十一號ニ依リ其會ヲ存續シ上道郡浮田村平島村聯合會ト改稱セリ又字山裏水門ニ關シ聯合會ノ設ケアリシカ亦其會ヲ存續スルコト、ナリ二十五年ニ至リ町村ノ規定ニ依リ組合會トシ上道郡御休村外五箇村組合會ト稱セリ

(四) 足守川堤防組合ノ事

足守川水利上ニ關シ從來町村聯合會ノ設ケアリシカ明治二十二年法律第十一號ニ依リ存續セルモノ、内都字賀陽二郡八箇村二十三大字ヲ包括セル都字郡元惣瓜村外一郡二十二箇村聯合會ハ用惡水路及道

一四一

路ノ外堤防ニ關スル事ヲ處辨シ常ニ水害ノ防備ヲ怠ラス以テ沿岸村里ノ安寧ヲ圖ル

(五) 高粱川改修工事

明治二十年中本縣ニ於テ高粱川左岸井尻野(備中國賀陽郡 淺井村大字)柿ノ木(同國窪屋郡 清音村大字)間ニ延長二千二百餘間ノ新堤ヲ築造シ右派西高粱川分流口及右支小田川ノ本川ニ合スル處ノ上下即チ舊四箇村地先ニ於テ東西兩高粱川分流ノ水路ヲ改修スル爲メ制水及浚深兩工事ヲ施工シ後少シク補足スル所アリタリ抑モ井尻野・柿ノ木間ハ本川ノ幅員甚タ廣濶ニ過キ常ニ一定ノ濬筋ヲ保ツ能ハサルノミナラス眞壁(窪屋郡常盤村大字)ヨリ中原(同村大字)ノ東方ヲ繞レル一派ノ流路アリテ洪水ニ際シ流水半ハ此ノ派川ヲ通スルノ結果沿岸ヲ浸シ耕地數十町歩ノ收穫ヲ水泡ニ歸セシメ且ツ本川ノ航路漸次亂流ノ狀ヲ呈スルニ至レルヲ以テ此ノ築堤工事ニ依リ一ハ派川ノ流路ヲ絶チ水害ヲ防キ一ハ本川ノ幅員ヲ狹メ亂流ヲ救ヒ且ツ一定ノ濬筋ヲ得シメントス而シテ施工ノ後其ノ期セシ所ニ違ハス流路漸次ニ一定シ前記大字中原地内ニ於ケル水腐ヲ免レ耕耘ノ利澤ヲ享クルノ好成绩ヲ見ル又舊四箇村地先ニ於ケル分水工事ハ十九年九月二十五日本川非常ノ洪水アリ爾後東西(本流東高粱川 右派西高粱川)分流ノ水量及航路ニ一大變動ヲ來タセリ即チ西高粱川流入口ハ概ネ土砂ノ填ムル所ト爲リ水路半ハ閉塞シ平水ノ時ニ於テシラ尙ホ航路ヲ斷チ東流即チ東高粱川ハ之カ爲メ殆ント流水ノ全量ヲ通スルニ至レリ依リテ之ヲ救治スルノ目的ヲ以テ施行セルモノニシテ乃チ從來ノ分水濬筋ヲ締切更ニ其上流ニ於テ沉床ヲ施シ左岸即チ古池堤防縁ノ寄洲ヲ掘鑿シ之ヲ以テ東流

ノ水路ト爲シ且ツ東西兩川ニ各二箇所ノ沉床床固工ヲ施設シ河底ノ變動ヲ防キ又右岸下道郡川邊村地先ニ於テ數本ノ横制水ヲ築造シ以テ法線ヲ規定シ且ツ流水ノ衝突ヲ防カントス而シテ施工ノ效空シカラス大ニ改良ノ狀アリシニ翌二十一年夏秋兩季ノ洪水ニ因リ東流即チ東高粱川流入口ニ於テ土砂堆積シ水路ヲ塞キ忽チ低水量ヲ減シ之ニ反シテ西流即チ西高粱川ノ流量以前ニ倍徒シ爲メニ東西兩川ノ水量ニ不均ヲ來タシ遂ニ該改修工ノ效果ヲ烏有ニ歸セシメタリ依リテ爾後數回之カ恢復ヲ企テ浚深ヲ試ミシト雖洪水ニ際スル毎ニ水路忽チ填塞シ浚深ノ畫餅ニ屬スルノミナレハ三十年ノ頃分流口ヲ延長シ左岸ニ横制水ヲ増設スル等多少ノ補足工事ヲ施工セシモ尙好結果ヲ得ルニ至ラス蓋シ分水施工ニ費ス所二十年以來貳萬千七百九拾九圓餘ニ上レリ而シテ其功程ハ沈床六千四百五十四坪(縱制水延長九百八拾七間八步)單床二百四十八坪一合上覆單床五千七百八十四坪上覆石工四千三百五十四坪浚深二萬九千九百八十二坪七合トス抑モ此分流口タル沿岸古池(窪屋郡清音村大字)酒津(同郡中州村大字)柳井原(淺口郡船橋村大字)ノ三方何レモ山アリテ洪水之ニ衝突シ流勢彼此ニ屈曲シ且ツ右ニ右支小田川ノ殆ント直角狀ヲ以テ本川ニ合流スルアリ地形上極メテ至難ノ場所ナルノミナラス運輸及灌溉ニモ東西兩流各相當ノ水量ヲ要ス即チ東流ニ在リテハ耕地灌溉ノ爲メ西流ニ比シ凡三倍ノ水量ヲ要スヘク而シテ西流ニ在リテモ其下流ニ玉島港アリ物貨ノ出入極メテ多ク運輸ノ利便東流ニ優ルコト數倍ナリ故ニ全體ヲ達觀スレハ東西兩流略同一ノ水量ヲ要シ相互ニ甲乙ヲ附スル能ハス是ヲ以テ用水ノ期節ニ際スレハ分水ニ關シ兩流沿岸人民ノ爭論

常ニ絶ユルコトナシ依リテ分水工事ニシテ施設若シ一步ヲ誤ラハ忽チ紛争ヲ招クヘク眞ニ改修工施行困難ノ場所ナリトス然レハ本縣ニ於テハ其ノ最善ヲ盡サント猶改良ノ設計調査中ニ屬スト云フ

(六) 高梁川流域航路改良工事

高梁川上流阿賀郡新見村ヨリ上房郡高梁町ニ至ル九里餘間ハ急流激湍ニシテ屈曲甚ク之ニ加フルニ瀬ノ最モ危険ナルモノハアリ舟行極メテ困難ナリ乃チ沈床沈杵等ノ工ヲ施セシト雖改良ノ效ヲ奏セス唯甲戸瀬ノミ航路ヲ開鑿セシヲ以テ舟行稍危険ヲ免レタリ而カモ急流激湍ナルヲ以テ出水毎ニ巨石漸次ニ流下シ淺瀬ニ停滯シテ航路ヲ填塞スルカ故ニ浚深概ネ慮歲ナク或ハ地方費ヲ以テシ或ハ回漕業者ノ釐金ヲ以テスト雖工費額ニ掣肘セラレ完全ノ浚深ヲ遂ケ得サルモノ、如シ高梁町ヨリ賀陽郡淺尾村大字井尻野字湛井ニ至ル六里餘間ハ高梁町以上ニ比シ水勢緩ク通船ノ危険稍少キモ尙航路中瀬ノ危険ナルモノ六アリ湛井以下兩岸山遠ク一望平地ヲ觀ルヲ得ヘク隨テ河狀一變シ岩石ノ河底ニ突出スルモノナク會マ四箇ノ瀬アリテ多少通船ノ障礙ト爲レルモ明治二十二年中航路ヲ變更セシヲ以テ今ハ危険ノ患ナシ湛井ヨリ海口ニ至ル五里餘間ハ湛井以上ニ比シ流勢大ニ緩ク隨ツテ亂流ノ箇所ナク航路概ネ安全ナリト雖東西兩川分流點以下ニ在リテハ河床至ツテ淺ク殊ニ東高梁川最モ甚シク濁水ノ爲メ通船ノ便ヲ絶ツコト少シトセス蓋シ土砂ノ埋堆年一年ヨリ多ク文化文政ノ頃ニ比シ河床十尺乃至十五尺ノ隆高ヲ見ルト云フ其近因タル上流ニ於テ近時銅鐵採掘ノ事業盛ニ行ハル、ト山林濫伐ノ弊未タ止マサ

ルカ爲メノミ

又右支成羽川ハ上流廣島縣神石郡小野村字落合ヨリ本川合流ニ至ル迄山間ニ屬シ水勢至ツテ勁ク概ネ激湍ナラサルハナシ是ヲ以テ川上郡湯野村大字東湯野字田原以上凡五里間ハ僅ニ筏ノミヲ通シ平水以上ニ非レハ舟行ノ便ヲ得ス蓋シ慶應三年ヨリ明治十六年ニ至ル十七年間ニ浚深費五千七百餘圓ヲ投シ此田原以上備後國境即チ前記小野村界迄二里弱ノ間ニ舟路ヲ開通セシト雖十九年ノ洪水ニ巨石河底ニ沈滯シ遂ニ填塞スルニ至レリト云フ

(七) 高梁川本流及派川西高梁川水防組合ノ事

窪屋外二郡舊四十六箇村聯合村會ハ從來高梁川幹流窪屋郡中洲村大字酒津ヨリ同郡大市村大字福井間ノ東側堤防洪水防禦ノ爲メ設ケタルモノニシテ之カ防禦工事ト之ニ關スル總テノ費用ヲ負擔ス又舊六ヶ村(水江外五村)聯合組合ハ從來右派西高梁川右岸淺口郡船穗村及玉島村大字上成地内ニ於ケル堤防ニ對シ洪水防禦ノ爲メ設ケタルモノニシテ之カ防禦工事ト之ニ關スル總テノ費用ヲ負擔ス以上孰レモ明治二十二年法律第十一號ニ依リ舊聯合村會ヲ存續セルモノトス

廣 島 縣

(一) 蘆田川末流淤塞ノ狀況

蘆田川ハ品治郡新市村神谷川合流以下河狀一變勾配俄ニ緩ニシテ細砂ノ沈澱次第ニ多ク海口ニ至リテハ河底ノ淤塞其極ニ達セルノ感アリ殊ニ明治十七年及二十六年ノ洪水ニ當リ土砂ノ流出最モ甚シク其後十四年ヲ經タル三十一年ニハ河口隆起ノ度約四尺ニ上リ府中市ニ至ル航路ヲ絶テルノミナラス品治郡坊寺村以下沿岸耕田水腐ノ患ヲ増進セシコト實ニ著シキモノアリ蓋シ河口洲嶼ノ新田ト爲レルモノ沿限郡簗島字三角新開ノ如キ深津郡川口村字新涯ノ如キ何レモ慶應年間ノ開墾ニ係リ其面積千町歩以上ニ達セリ本川淤塞ノ由來久シト謂フヘシ抑モ本川全流域ヨリ輸送スル土砂ハ其量實ニ莫大ニシテ其全量ハ前記新市村以下ニ沈澱スル狀況ナルヲ以テ先ツ砂防法ニ依リテ土砂扞止ヲ勵行シ尙河川法ニ依リテ府中市以下海口ニ至ルノ間河敷ヲ確定スルト同時ニ河幅ヲ一定センカ爲メ局部ノ改修ヲ施シ海口ニ於テハ流末工事即チ導水堤ヲ設ケテ河口附近ニ於ケル細砂ノ沈澱ヲ防遏シ且ツ潮汐ノ干満ヲ利用シテ流末ノ浚疏ヲ計ラハ河底低窪ノ爲沿岸耕田水腐ノ厄ヲ除去シ洪水被害ノ度ヲ輕減シ得ルノ利益アルノミナラス目下斷絶セル航路ノ便ヲ復舊スルコトヲ得ン乃チ本縣ニ於テハ二十三年ニ至リ石黒、長崎兩内務技師ノ實地踏査ヲ經テ其計畫ニ基キ改修ヲ施サントセシカ其後二十六年秋季ノ洪水ニ當リテ河床ノ變動頓ル甚シキモノアリ從ツテ尙再調査ヲ要スルモノ多キヲ以テ未タ改修ノ時期ニ達セスト雖今日ノ狀況ニ據レハ東手輕々看過スヘキニアラス特ニ調査ヲ急キ將ニ來ラントスル大災害ニ對抗スルノ計畫ヲ立ツルヲ以テ最モ緊要ノ事ト爲スモノナリ

(二) 天井川筋水防組合ノ事

沼田川流域内ニ於テハ右支天井川流末豊田郡田野浦村字若代ヨリ字和田沖ニ至ル水害豫防ノ爲メ同郡沼田東、沼田西二箇村ヲ以テ區域トシテ組合ヲ設置セルノ外水防組合ナルモノナシ

(三) 太田川流末淤塞ノ狀況

太田川ハ安藝郡牛田村字日通寺ニ至リ流勢俄ニ緩ト爲リ細砂ノ沈澱スルコト多ク從ツテ復タ砂利ヲ見ス其流末ニ至リテハ土砂ノ淤塞頗ル甚シク年々砂洲ノ次第ニ伸長スルニ委ス藝藩通誌ニ據レハ安藝郡西南古昔ハ稗海ナリシカ漸次ニ干潟ノ地ヲ開墾シテ耕田ト爲シタルモノニシテ今ノ仁保島、比治山等ハ元ト皆島嶼ナリシモ今ハ陸田相續キ大ニ古昔海灣ノ狀ヲ失ヒタリトアリ又學已集ニ就キ廣島近傍所新開創設ノ年限ヲ調査セシニ比治山、仁保嶋、矢賀間ノ新開ハ元和元年ニ開墾セラレタリト云フ其最新ナル江波新開ハ延寶七年ニ圓恭寺新開、大黒新開、東新開ハ天和元年ニ開墾セラレタリト云フ其最新ナル者ハ即チ字品新開ニシテ實ニ明治十五年字品築港ト共ニ開墾セラレタリ又該築港計畫以來本縣ニ於テ調査セル結果ニ據レハ太田川ノ派流元安川及京橋川ノ河口ニ於テ年々砂洲ノ海中ニ向ヒ進行シツ、アルヲ認ム即チ十四年築港計畫ノ當時ヨリ二十七年二月ニ至ル十三箇年餘ノ間ニ於テ砂洲ノ進行約百間ニシテ尙前後兩年ノ深淺測量圖ヲ點々相對照スルニ二十七年二月ノ測量ニ係ル干潮面水際線ハ十四年ノ頃ニハ略ホ干潮面以下二尺ノ水深ヲ有シ從ツテ十四年ノ干潮面水際線ハ二十七年二月ノ現況ニ於テ

干潮面以上二尺ヲ有スル高洲ト變セルヲ否ム能ハス是ヲ以テ推考スルニ太田川本流其他派川ノ流末ノ如キモ亦略ホ同一ノ程度ニ於テ砂洲ノ進行セルモノアルヘク益々河口不良ノ狀況ヲ呈スルカ如シ

山口縣

(一) 錦川航路開鑿工事

錦川筋玖珂郡廣瀬村大字廣瀬字倉谷以下舟筏ヲ通スルヲ得ヘシト雖同所ヨリ桑根村大字南桑ニ至ル約四里間ハ河中ノ岩石多クハ突起シ若シ一回楫ヲ誤ラハ忽チ舟筏ノ破壊ヲ免レサルヘシ就中最モ危險ナル箇所三アリテ殊ニ危險ナルヲ廣瀬字堀射トス往昔ハ通船スル能ハサリシヲ明治七八年ノ頃其障礙トナルヘキ岩石ヲ除却シ辛フシテ航路ヲ開キシモ約五町間ハ頗ル急流ニシテ且流身屈曲セルノミナラス巨岩突起シ毎年數隻ノ舟筏破碎ノ厄ニ遭フ

(二) 樅野川改修工事

樅野川ハ源ヲ長門國阿武郡ニ發シ吉敷郡仁保、一坂、間田諸流ヲ收メ南注嘉川ニ至リ海ニ入ル防中ノ巨澗タリ霖潦毎ニ氾濫四溢歲トシテ患ヲ被ラサルハナシ天保十一年堤防ヲ決スル七所黒川、朝田諸村水中ニ在ルコト三日嘉永三年明治七年ノ水患ノ如キ田園廬舍蕩シテ汚土ト爲ル天保ノ慘ニ比スレハ更ニ甚シトス林勇藏世々邑正タリ父祖ノ時ヨリ屢修築ヲ請フ果サス關口隆吉縣事ヲ知ルニ及ヒ郡邑ノ疾

苦ヲ問フ郡人首トシテ樅野川ヲ治ムルヲ以テ請フコトヲ爲ス勇藏曰ク此レ一日モ之ヲ忽ニスヘカフスト内務省ニ狀陳ス同省乃チ蘭國工師ムルヲシテ來リ檢セシム蓋シ其ノ設計スル所工費五拾五萬圓ノ巨額ニ上レリ尋テ原保太郎知縣ノ任ヲ襲フ十六年中他ノ要務ヲ帶ヒテ縣下ニ出張セル農商務省御用掛南一郎平ノ検査ヲ乞ヘリ十七年ニ至リ改修費金拾萬圓ノ内貳萬圓ヲ地方稅ヨリ參萬參千圓ヲ國庫ヨリ補助シ而シテ残り四萬七千圓ヲ關係十箇村(平井村外九村)ニ賦課スルコト、シ二十年一月二十八日改修起工式ヲ小郡東津ニ舉行セリ是ヨリ先キ十七年度ヲ以テ工師ノ計畫ニ從ヒ砂防工事ニ著手セシカ二十九年六月ヲ以テ俱ニ竣功セリ本川改修ノ功程ハ河底ノ砂石ヲ浚ヒ道路ヲ修メ堤防兼用沿流一帶屹トシテ堤防ヲ爲ス砂防工事四箇所築堤工事二十一箇所河流ヲ矯メ河幅ヲ擴ムル處十五箇所一ニ堅牢ヲ主トシ速成ヲ貪ラス十二年ヲ經テ成ルヲ告ク是ニ於テ曩ニ漂没ニ罹リシ諸村一變シテ沃土ト爲リ農民耕種各其業ニ安ンセリ

(三) 樅野川改修組合ノ事

本縣ニ於ケル水利上ノ組合ハ樅野川筋平井村以下ヲ改修スルノ目的ヲ以テ明治十四年矢原村外九箇村ヨリ成レル聯合村會ヲ設置セシカ二十二年法律第十一號ニ依リ尙聯合村會ヲ存續シ之ヲ七箇村(町村ノ分合ニヨリ)ノ組合トシ郡長ヲ其ノ管理者トス

和歌山縣

一五〇

(一) 西牟婁郡水害復舊工事

明治二十二年八月十九日暴風雨西牟婁郡富田川其他諸川出水被害劇甚人畜ノ死傷少カラス田宅ノ流夫頗ル多シ道路杜絶ス事朝廷ニ聞シ内帑ヨリ救恤ノ下賜金アリ又有司ハ罹災民ノ爲メニ奔走シ焦眉ノ急ヲ救フ翌年一月大ニ土功ヲ興シ之ヲ修ス知事事淹久セハ再ヒ災害ニ罹ランコトヲ慮リ屬僚ヲシテ其役ヲ督セシム爲メニ其年十月ニ至リ成ルヲ告ク傭工凡九千六百六十五人役民凡百十八萬一千七百十三人材料費凡七萬四千七百拾壹圓其他費ス所凡貳千八百七拾圓此レ皆國庫ヨリ出ルモノナリ若シ夫レ細流狹路ニ至リテハ大半縣費ヲ以テ支辨セリ即チ七萬四千八百貳圓トス而シテ富田川ノ如キハ長堤巨防全ク成ルト云フ

(二) 彦、五郎堤改築工事

彦、五郎堤ハ承應年間ノ築設ニ係リ富田川筋西牟婁郡生馬、岩内兩村ニ跨ル本縣最大ノ堤防ナリ堤ハ當時身ヲ人柱ニ供セシ役夫二人ノ名ニ因ミテ稱呼ス蓋シ河幅上流結川村ニ於テ甚タ狹隘ニシテ市ノ瀨、岩田兩村ニ至リ頓ニ廣濶ト爲リ河狀頗ル不整ニシテ堤防亦極メテ脆弱ナリシヲ以テ一朝出水ニ逢フホキハ忽チ漲溢破潰田廬ノ漂没ヲ免レヌ農民之ニ苦ムコト年久シ適マ承應二年八月ノ大洪水ニ堤防全

壞ス是ニ於テ地方ノ民大ニ協力シ河身ヲ改修シ大堤ヲ築キタル即チ是ナリ而シテ現今存在スル堤防ハ明治二十二年水害後ノ改築ニ屬シ構造極メテ堅牢ナリ之ヲ彦、五郎堤ニ比スレハ尙一層優レリト云フ

(三) 日置、富田、會津三川改修工事

明治二十六年八月西牟婁郡日置、富田、會津三川洪水暴ニ至リ慘狀ヲ極ム二十二年此地巨害ヲ被リ瘡痍未タ癒ニス而シテ今復タ此ノ如シ民生ヲ聊ンモス縣知事沖守固防砂導河ノ策ヲ定メ縣會ノ可決ヲ經テ改修費ノ補給ヲ其筋ニ上申セシモ例外ニ屬スルヲ以テ輒チ允サレズ知事固ク請フテ止マス廟議論シテ費用ヲ節セシム知事前豫算ヲ改メ再ヒ上京前請ヲ申ス始メテ允サル是時ニ當リ治水費ヲ請フモノ七縣而シテ本縣特ニ此ノ改修補助ヲ得ル蓋シ異例ナリ是ニ於テ二十七年三月工ヲ起ス日置川ハ兩山ニ介シ川流逼隘因リテ隄畔ノ田ヲ毀チ之ヲ河身ニ充ツ富田川亦此ニ類ス其ノ上流ハ概ネ舊隄ヲ廢シ復タ用ヒス岩田ヨリ西海ニ至ルマテハ河身ヲ擴メ約百二十間ト爲シ其ノ堤防ヲ修メ曲折ヲ理シ高低ヲ整フ約一萬二千二百七十間日置川ハ安居ヨリ西約二千八百九十間ヲ整理ス但其下流隄頭ヲ低クスルハ漲水ヲシテ隄ヲ踰エ逆流自カラ奔逸ヲ殺カシメンカ爲メナリ會津川ハ支流アリ南ヨリスルヲ三栖ト曰ヒ北ヨリスルヲ秋津ト曰フ其會同ノ處川窄ク岸壁ルヲ以テ開鑿疏導更ニ之ヲ擴メ約七十間ト爲ス本支堤防ヲ修ムル約八千七百八十間之ヲ要スルニ河身ヲシテ各其ノ積潦ヲ容ル、ニ足リ而シテ灌溉漕運ノ便ヲ減セサラシメンカ爲メナリ是ヲ三川工事計畫ノ大要ト爲ス其ノ砂防工ニ至リテハ巨石大木横ニ堰ヲ築キ

碩礎地ニ入り堅壘溪ヲ斷チ或ハ石甃ヲ敷キ或ハ護岸ヲ設ク地ノ硬軟ニ隨ヒ各其工ヲ異ニス要ハ牢固以テ激流ノ衝擊ニ敵スルニ在リ故ニ磐石重サ四五千貫ノモノヲ用ユルニ至ル其流域會津川ニ屬スルモノ五富田川ニ屬スルモノ八日置川ニ屬スルモノ一石堰及附屬築造約五百六十間山腹崖背土層露出スルモノハ遍ク草樹ヲ植エ其ノ缺壞ヲ防ク約八萬九千七百坪二十九年三月二役全ク竣ル財ヲ用ル修河參拾壹萬四千九百餘圓防砂貳萬六百餘圓トス共ニ地方費ニ屬シ而シテ大率官ノ補給スル所タリ功已ニ竣リ其秋洪水復タ至リ所在橫流而シテ三川ノ地賴ニ墊溺ヲ免レ父老知事ノ功德ヲ稱シテ止マス蓋シ此役土木監督署長沖野忠雄同署技師原田貞介特ニ計畫ヲ定メ董督嚴勵日比書記官一切ノ工務ヲ提舉シテ區處遺ストコロナカリシト云フ

(四) 瀬田川治水工事

明治二十二年初秋縣下大洪水諸川氾濫瀬田川亦非常ノ出水ニテ上流山岳ノ崩潰堤防ノ決壞其被害最モ甚シク沿岸ノ耕地悉ク土砂ノ埋没スル所ト爲リ其慘狀實ニ言フヘカラサル者アリ二十九年八月西牟婁郡北富田村長野田民治率先シテ善後ノ策ヲ講シ河底ニ堆積セル土砂ヲ除キ以テ堤防ヲ修築擴大シ且上流ニ砂防工ヲ施設シ親ラ之ヲ指揮監督シ三十年五月ニ至リ工事皆全ク竣リ沿岸ノ耕地亦舊ニ復スルコトヲ得タリ

(五) 日高川堤防引設ノ事

日高川ハ流域概ネ山地ナルヲ以テ一朝大雨ニ際スレハ洪水滔々トシテ至ルト雖兩岸多クハ山脚ニ位シ下流平野ノ地モ古來大洪水ヲ被リシコトナカリシカ明治二十二年未曾有ノ出水ニ遭遇シ堤防缺潰田園流亡等ノ慘狀ヲ呈セシカハ流末御坊村(日高郡)ニ於テノ河幅ノ狹隘ヲ感シ遂ニ堤防長二百間ヲ引設スルニ至レリ

(六) 日高川航路改良工事

日高川ハ上流日高郡龍神村大字龍神以下中山路村大字柳瀬迄ハ急流ナレトモ河中岩石少ク柳瀬以下船著村大字船津迄ハ岩石處々ニ起伏蟠屈シ激湍白沫ヲ飛ハセリ船津以下ハ河床岩石ナク流勢亦稍緩ニシテ始メテ舟楫ノ便アリ流末御坊村間薪炭及雜貨ノ運輸ヲ爲セリ此他沿川處々貨物積卸場アリ中流岩石突起ノ箇所ハ元ト航路甚タ險惡ニシテ上流ヨリ木材ヲ筏下スルモノ其難ニ困ミ每歲溺沒者三四名ニ下ラサリシカ和歌山藩少參事瀨見善水ノ議ニ據リ明治二年十二月工ヲ起シ各所ノ岩石ヲ破碎シ六年一月ヲ以テ功ヲ竣レリ爾後水勢ノ猛激ヲ殺キ稍快通ノ便ヲ得タルヲ以テ常ニ筏ノ流下スルモノ多シ

(七) 紀ノ川河口天然ノ浚渫

紀ノ川河口ハ西ニ面シ數多ノ島嶼横ハリ崖涯水深キニアラサレトモ諸船ノ碇泊稍ヤ多キニ居リ小汽船亦能ク津ニ入ル而カモ時ニ風浪ノ障礙ヲ受ケ土砂ノ輸送水濱ヲ填メ未タ以テ良港ト稱スヘカラス殊ニ明治二十八年ノ大洪水ニ當リ土砂ノ埋塞甚シク其害頗ル巨ニシテ浚渫工費貳參萬圓ヲ要スルノ憂アリ

シニ越テ二十九年ノ洪水ニ因リ却テ其埋塞ヲ洗滌シテ前形ニ復シ殆ント浚深ノ工ヲ施セシカ如ク僥倖
實ニ天祐ニ出タルノ感アリ蓋シ洪水ノ來ルニ當リ風威流ニ逆ヒテ雨ヲ吹ケハ暴漲ノ虞大ナルハ諸川ノ
皆ナ常習トスル所ナルニ獨リ本川ニ在リテハ之ニ反シ流レニ順ヒ雨ヲ追フノ東風到ルトキハ一朝ノ降
雨モ濁流滾々トシテ漲リ僅ニ一時間ニシテ水位四五尺ヲ示スニ至レリ是レ本川ノ一奇觀ナリトス

(八) 紀ノ川水害豫防組合ノ事

紀ノ川ニ於ケル那賀郡小倉村大字上三毛ヨリ下流水害豫防組合ハ其費用ヲ組合區域内ノ地租ト家屋建
坪トニ割付シ市村ノ分擔額ヲ算出ス市ニ屬スルモノハ地租及ヒ家屋建坪ニ折半賦課シ村ニ屬スルモノ
ハ地租ノミニ割當ルノ慣例ナリ又水防ノ組織ニ就キテハ前記大字上三毛以下和歌山市ニ至ル間ヲ四方
面ニ分チ方面毎ニ若干ノ水防委員ヲ設ケ每方面ニ五十人以上百人以下ノ水防夫ヲ置キ別チテ第一第二
トス水防夫ハ水防委員ノ意見ニ從ヒ水防上諸般ノ事ヲ行フ水防夫招集ノ順序ハ第一及第二警報ハ飛檄
ヲ以テシ第三乃至第五警報ハ撞鐘ヲ以テス而シテ第一警報ヲ要スルトキハ水防夫取締ヲ第二警報ヲ要
スルトキハ常備第一水防夫ヲ第三警報ヲ要スルトキハ常備第二水防夫ヲ第四警報ヲ要スルトキハ臨時
募集水防夫ヲ招集スルモノトス但シ第一警報ノ場合ハ第一方面ニ於テ水位八尺ニ第二方面ニ於テ水位
五尺五寸ニ第三第四方面ニ於テ水位七尺ニ至リシ時ニシテ第二警報ノ場合ハ各方面ニ於テ一尺ヲ増騰
セシ時ナリ第三警報ノ場合ハ各方面ニ於テ前水位ヨリ二尺ヲ増騰シ第四警報ノ場合ハ各方面ニ於テ第

三警報ノ水位ヨリ更ニ二尺ヲ増騰セシ時第五警報ノ場合ハ堤防破壊ノ虞アル時若クハ破壊セシ時ナリ
又一面ニ於ケル附屬用具ハ川籬杭木空俵古疊繩明松其他十四品ヲ算セリ

德島縣

(一) 第十堰増築工事

名西郡北部ヲ貫流セル吉野川ニ於ケル治水工事ノ著大ナルモノヲ藍畑村大字第十ノ石堰壊トス今ノ別
宮川ハ寛文十三年藩ノ設計ニ據リ第十村ト名東郡姥ヶ島村トノ界ニ幅六間ノ水路ヲ鑿開セシニ始マリ
爾來年ヲ遂フテ水蝕ノ爲メ耕地ヲ削耗シ幅員擴大セルニ從ヒ幹流吉野川ノ水ハ却テ減少セリ寛延三年
沿岸ノ諸村第十村ニ於ケル堰止工事ヲ計畫シ藩廳ニ訴願セシカハ藩其請ヲ容レテ工事ヲ起セリ堰壊幅
七間ヨリ十二間ニ至リ長二百二十間姥ヶ島ニハ長百八十七間ノ舟路ヲ浚深シ又堰ノ上流神宮入江吐出
ノ上ニ幅十間長百六十間ノ排水堤ヲ設ケ專ラ別宮川傾流ノ堰止メニ充テタリ此豫算銀五拾九貫匁ナリ
シモ其實費不詳寛政以後大破損ノ際修繕ヲ加ヘ明治十一年改修ヲ施セシモ尙幹流ノ砂礫埋堆ヲ免レス
十三年水利土功會ノ創立ヲ見十五年ニ至リ長三百九十間十六年長五十間十七年百間ヲ延長増築シ尙其
他ノ修築工事ヲモ施セリ

(二) 吉野川改修工事

明治十七年度ヨリ國庫費ヲ以テ吉野川改修工事ヲ施行セシカ二十二年度ニ於テ故アリ廢止セラル改修區域ハ左岸(一)阿波郡八幡村大字栗島、柿島村大字柿原ヨリ名西郡高志村大字瀬部ニ至ル間(二)板野郡一條村大字西條ヨリ名西村高志村大字瀬部ニ至ル間(三)阿波郡八幡村大字栗島ヨリ名西郡高志村大字高瀬ニ至ル間右岸(一)麻植郡桑川村大字川島ヨリ名西郡藍畑村大字第十ニ至ル間ニシテ制水沈床護岸工等ヲ施行セルモノナリ設計豫算額拾壹萬七百壹圓餘ニ對シ決算額七萬五千九百參拾貳圓餘ト爲レリ

(三) 別宮川堤防工事ヲ目的トセル水利組合ノ事

明治二十四年縣制實施ニ際シ河川ノ事業區分ヲ爲シ改メテ吉野川別宮川等ノ大川脈ハ悉ク縣ノ負擔ニ屬シ町村ノ負擔ニ屬スルモノハ概ネ山間ノ溪流若クハ利害ノ關係一町村以內ニ止マル所ノ小支脈川ニ過キササルヲ以テ新ニ水利組合ヲ設クルノ必要ナキノミナラス舊來ノ組合モ大抵之ヲ解散シ僅ニ存續セルモノハ別宮川筋ニ於ケル名東郡北井上、新居、南井上、國府ノ四箇村十九大字ヨリ成レル一組合アリ是レ前記北井上村大字佐野塚ヨリ大字東黒田、西黒田、北新居ヲ經テ大字高崎ニ至ル迄延長二千六百十二間ノ新堤ヲ川ノ右岸ニ築キテ其水害ヲ防遏スルノ目的ヲ以テ組織セシモノナリ其他板野郡ニ三四ノ存續會アリ

高知縣

(一) 仁淀川下流水害豫防工事不成立

高岡郡高岡村等ニ於テハ仁淀川筋上流川内村界ヨリ下流新居村渡船場(海口ヨリ凡一里上方)ニ至ル延長三千九百七十間ノ水害豫防工事ヲ必要トシ縣ニ請願セシニ其ノ容ル、所ト爲リ縣ハ明治二十四年中技手竹村五郎ヲシテ實測セシメタルニ工費豫算七萬圓以上ノ巨額ニ及ヒ其支出困難ナルト對岸諸村ノ苦情トニ因リ其計畫ヲ中止スルノ止ムナキニ至レリ

(二) 渡川航路浚渫料徵收ノ事

本川中航路ヲ妨クル箇所ハ幡多郡大川筋村大字惡瀬々字惡瀬トス此瀬ハ最モ危險ニシテ舟船ヲ毀傷スルコト多キヲ以テ通船一艘ニ付(上下トモ)金拾錢宛ヲ徵收シ絶エス浚渫ヲ施スト雖動モスレハ害ヲ被ルコトアリト云フ其他江川崎村大字下山字川崎(伊豫川合流ノ下)及津大村大字中半等處々ニ小瀬アレトモ其ノ障礙惡瀬ノ如ク甚シカラス

福岡縣

(一) 矢部川改修工事

本川ノ洪水タル一朝強雨ニ會スレハ忽チ暴漲ス而カモ下流數派ニ分レテ疏導宜キニ適スルノミナラス勾配急ニシテ澎々日ヲ彌ルコト稀ナリ明治十八年ノ如キ空前絶後ノ洪水ニ於ケル亦然リ然ルニ本川水

害ノ多キハ其原因二三ニシテ足ラスト雖其主因タル蓋シ封建割據ノ當時人爲ヲ以テ水勢ヲ矯激シタル結果ニ外ナラス抑モ本川ハ御境川ノ稱今尙存スル如ク往時久留米、柳川二藩ノ境界ニシテ各自其ノ封疆ノ利ヲ圖ルニ止マラス害ヲ他方ニ與フルノ目的ヲ以テ俗ニ喧嘩ト稱スル長大ノ水刃ヲ突出スルモノ其數六十七個或ハ堤外地ニ樹林ヲ栽培シテ水制ニ供ス彼ノ左岸一帶ノ鬱蒼タル樟林ノ如キ即チ是ナリ或ハ河敷ヲ蠶食シ堤防ヲ斗出シ或ハ沈枿ヲ流心ニ没スル等天然ノ水利ヲ沮礙シ彼此災害ヲ促スノ箇所枚擧ニ遑アラス是レ封建時代ノ通弊ニシテ敢テ怪ムニ足ラサルモ本川ノ如キハ稀ナリト謂フヘシ廢藩後一縣ノ治下ニ屬スルモ尙舊慣ヲ襲ヒ修補セリ然ルニ十八年ノ慘狀ハ改修ノ好機ヲ與ヘ實測ヲ了シ障礙物ヲ撤出シ或ハ河幅ヲ開鑿スル等ノ工事ヲ施セルヲ以テ爾來數回ノ洪水アリト雖著シキ被害ナキニ至レリト云フ蓋シ本川ノ水勢タル急湍激流ニシテ治水至難ナルカ上ニ前ニ記スル如ク往時米柳兩藩ノ人爲以テ天然ノ水流ヲ沮害セル遺物アリ是ニ於テ河身改修ノ目的ヲ以テ聯合町村會ノ決議ニ依リ明治十八年度ヨリ平面高低測量ニ着手シ二十二年度ニ至リ完了ス改修ノ法線上流ハ内務技師石黒五十二下流ハ本縣技師工藤謙ノ計畫ニ係リ漸次修繕費ヲ以テ改修ヲ加ヘツ、アリ測量區域ハ本川花宗以下至海口一萬二千五百八十七間左支飯江川八千二百四十間右派沖端川六千九百十六間ナリ

(二) 礦業組合及鑛業組合ノ遠賀川流域浚深ノ事

遠賀川ノ漕運ニ於ケル效用頗ル多ク流路一里ニ對シ航路二十九町ノ長キニ當リ各支派川ノ如キモ稍大

ニシテ平野ノ間ニ在ルモノ殆ント舟楫ノ便有ラサルナシ而シテ其重要ナル貨物ハ石炭ニシテ從來專ラ本川ヲ利用セシカ明治二十四年以來筑豊興業九州及豐州等ノ各鐵道布設成ルヤ水陸共ニ全力ヲ擧ケテ若松、門司及芦屋港へ運送セリ蓋シ陸運ノ便ヲ以テ採掘ノ進歩ヲ促シタルト共ニ水運亦愈増加シ其運輸ノ割合十ト七ニシテ猶水運ノ多キヲ示ス然レトモ山林荒廢ノ結果平水甚タ缺乏シ加フルニ水源地質ノ粗鬆ナル土砂常ニ埋塞シ通船ノ沮礙到處之レ有ラサルハナシ是ヲ以テ礦業組合及鑛業組合ニ於テハ本支川ヲ數區ニ分チ常備夫三四名宛ヲ配置シ四時浚深ヲ事トシ其費ス所年ニ五千圓ヲ下ラスト云フ

(三) 遠賀川河口突堤工事

本川河口ハ小丘東西ヨリ之ヲ扼シ兩岸芦屋、山鹿ノ市街相迫リテ幅員甚タ狹シ而シテ上流ヨリ輸送シ來レル細砂潮勢ト衝突シ河口ニ埋堆シ山鹿村字西ヶ浦ニ於テハ四時砂洲ヲ成セリ故ニ水淺ク最深僅ニ十二尺外海ニ出テ漸ク深シ芦屋町字濱崎ニ於テ六十間餘ノ突堤アリ河口ノ埋塞ヲ防クカ爲メニ築設セルモノナリ

(四) 築上郡ニ於ケル河川改修ト記念造林

築上郡ノ地勢南ハ英彦山ニ連リ北ハ周防洋ニ面シ平坦僅ニ二里餘城井、佐井等ノ諸川其ノ間ヲ貫流シ水勢又急ニシテ一朝降雨臻ルヤ忽焉トシテ漲溢シ田園ヲ浸シ人畜ヲ損スル毎年一再ナラス就中明治三十四年ハ郡下未曾有ノ慘害ヲ呈シ沿岸ノ民爾後其堵ニ安ンスル者ナシ是ニ於テカ郡ハ根本的治水ノ必

要ヲ認メ之カ復舊ト共ニ改修工事ヲ一決シ國及縣ノ補助ヲ得工費參拾萬圓ヲ投シ經營三星霜漸ク其功ヲ竣レリ時恰モ日露戰役ニ當リ國費多端百事緊縮ノ方針ヲ取リ去華就實ノ秋ニ際セシヲ以テ乃チ竣功ノ式ヲ廢シ資ヲ造林ニ轉用スルノ議ヲ遂ケ地ヲ上城井村大字寒田及合河村大字上川底ニトシ三十八年ヨリ二箇年繼續ヲ以テ杉扁柏等十四萬本ヲ植栽シ名ケテ河川改修及明治三十七八年戰役記念林ト稱ス爾來全ク水災ニ會セサルノミナラス植樹ノ繁茂ハ水源ヲ潤澤ナラシメ灌溉上利スル所大ナラントス今後三十年ヲ期シ參十萬餘圓ノ收益ヲ舉ケ投資ノ金額ヲ回收スルヲ得ヘシ

大分縣

(一) 廣瀬高森兩用水路工事

廣瀬用水路工事ノ起原ヲ尋ルニ驛館川東岸ノ水面ヨリ高キコト六七十尺ヨリ百尺ニ及ヒ之カ河水ヲ引用セント欲セハ遙ニ數里ノ山谷ヲ疏鑿セサルヲ得ス且廣袤三四里間地勢平衍溜池ヲ築クヘキ位置ナキヲ以テ從來數百町ノ耕田概ネ天水或ハ溜井ニ依頼スルノミ古ヨリ尤著シキ旱損地ニシテ旱歲ノ慘狀ハ實ニ見ルニ忍ヒサリキ寶曆ノ頃宇佐神領役所土木ヲ興シ廣瀬村(宇佐郡)ニ渠ヲ開キ河水ヲ分疏セシモ工事全カラス終ニ廢絶ス其後文化ノ頃宇佐村富田久兵衛、日田、矢田與兵衛再興ヲ企テタルモ事業困難前後五年ニシテ一蹴復タ起タス文政十二年日田郡代鹽谷大四郎幕府ニ聞シ水路ノ諸領ニ協議シ寶曆

以後ノ遺跡ヲ修理シ又宇佐村ノ下流ニ新渠ヲ開ク費ス所巨ニシテ衆難紛起終ニ工ヲ果サス天保十年ニ至リ前後十二年ニシテ又廢ス島原藩領宇佐郡高森村ノ人南一郎兵衛ハ當時藩ヨリ土木掛ヲ命セラレ此業ニ從事セシカ廢止ノ後常ニ慨嘆悲憤死ニ至ルマテ其言ヲ絶タス其子一郎平遺志ヲ繼キ始終念頭忘ルナシ偶マ文久元年ノ大旱ニ逢フ奮然宿志ヲ達セント欲シ各藩領ニ就キテ再興ヲ議ス然レトモ皆覆轍ニ懲リ之ニ應スル者ナシ皆言フ成功ヲ期シ疑ハスンハ私費ヲ以テ經營スヘシ通水ノ澤ヲ得ハ地方ノ幸福之ニ過ルナシ一時ニ費額ヲ償フ能ハサルモ灌溉反別ニ應シ年々相當ノ水料米ヲ納ル、ハ敢テ難キニ非ラスト一郎平遂ニ意ヲ決シ有志者ト議シ別ニ債主ヲ擇ヒ自費ヲ以テ開築シ成功ノ後ハ水料米ヲ以テ償却スルノ約ヲ定ム日田廣瀬久兵衛富豪ニシテ土木業ニ熟練ノ聞アリ一郎平ノ懇請止マサルニ依リ金參千兩ノ貸與ヲ諾ス是ニ於テ慶應元年五月水路開築ノ工ヲ起ス延長約五里餘ニシテ二里餘ハ丘原田圃ノ中ヲ通スト雖三里餘ハ山巒起伏巖壁絕壁相連ル此中堅石ヲ削穿シ懸崖ヲ洞貫スルモノ二千七百七十二間軟鬆ナル地中ニ石造ノ隧道ヲ構フルモノ二千百三十間河岸ニ大石ヲ疊ムコト高二間ヨリ六間ニ及フモノ千餘間溝渠ノ中ヲ三面石ニテ疊ミ漆喰ヲ付着スルモノ千百五十間通水路ヲ遮斷スル溪流ニ眼鏡橋或ハ掛樋ヲ架スルモノ五箇所河底及飛瀑ノ裏面ヲ穿ツモノ二箇所潤谷ヲ埋メテ堰壩ヲ築ク高五六間ヨリ十三間ニ及フモノ千三百六十間凸凹ヲ夷ケ或ハ田園ヲ掘割スルモノ四千七十一間實ニ事業ノ困難ナル言語ノ盡ス所ニアラス而シテ寶曆以後ノ遺跡ヲ存スルモノ多クハ水路狹隘構造粗漏或ハ線路迂回

速力ト水積トニ適セサルアリ十ノ八九改築セサルヲ得ス初メ之ヲ見ルモノ危懼ヲ抱カサルナシ既ニシテ通水スルニ及ヒテ驚嘆讚稱セサルモノナク爾來今日ニ至ルモ閘村旱損ノ憂慮ナキノミナラス荒蕪不毛ノ原野ヲ變シテ悉ク沃壤ノ良田ト爲ス其成績實ニ著大ト謂フ可キナリ廣瀨水路ノ開通スルヤ限有ル水量ヲ以テ一時ニ旱損ノ古田ニ沃キ加フルニ疏水ノ前ニ方リ畑圃及山野ヲ新田ト爲スモノ多ク用水上流ニ既注シ流末ノ新田ヲ霑溉スル能ハス乃チ該川ノ下流ヲ堰上ケ新ニ高森水路ヲ開通ス高森水路ハ廣瀨水路ノ如ク工事困難ノ箇所多カラサルモ水路ノ延長ハ殆ント三千間ニ垂ントシ土質ノ掘鑿一千二百數十間ニ及ヒ巖石ノ隧道一千五百間ノ長ヲ貫通ス風水ノ出入ヲ度ル等亦容易ノ業ニアラサルハナシ最初起業以來未タ半ナラスシテ物價累リニ騰貴加旃工事困難ナルカ爲メ意想外ニ費用ヲ増加シタリ即チ當初久兵衛ト約セシ資金參千兩ハ不足ヲ告ケ今ヤ工費七千兩ノ額ニ及ヒシモ久兵衛ハ費用ノ支出ヲ肯セサルニ依リ之ヲ各管應及ヒ地方人民ニ謀ルニ尙躊躇シテ之ニ應スル者ナク且ツ他ニ債主ト爲ルモノナク同志者亦各自負債相嵩ミ進退是レ谷マレリ是ニ於テ終ニ井手切符ナル者ヲ製シ之ニ宇佐神領朱印ヲ捺スルコトヲ申請シ其准許ヲ得漸ク金融ノ途ヲ得タリ既ニシテ工事漸ク成ルニ垂ントシ久兵衛等ノ債主ハ通水ノ後田圃ノ利澤多キニモ拘ラス出資者ニ償フヘキ水料米ノ初約ヨリ増加セルヲ厭ヘル官民ノ態度ニ慊タラスシテ曰ク官ハ其租入ヲ増シ民ハ其收穫ヲ加ヘタレハ官民宜シク水料米ノ收納ニ力ヲ盡シ損耗ヲ獨リ債主ニ歸セシムヘカラスト紛議決セス各管應ニ之カ處分ヲ請願セルモ各相讓リテ處理

スル能ハス會マ大政維新ニ際シ鎮撫使總督澤三位長崎ニ下向シ九州一般ノ事務ヲ總理ス是ニ於テ平一郎平長崎ニ至リ疏水起業ノ顛末ヲ具狀シ其處分ヲ上請ス總督之ヲ納レ古閑長岡ノ兩巡察使ヲシテ實地ニ就キ檢案セシム爾後松方日田縣知事其引繼ヲ受ケ明治二年正月實地ヲ檢閱ス同年八月天朝御普請所ノ名目ヲ賜ヒ之ニ關スル事務ハ日田縣ニテ總轄シ即チ一郎平ヲシテ專ラ該事務ヲ擔掌セシメタリ是ヨリ先キ同年五月兩水路開築ノ始末及ヒ費用ノ元利金計算ヲ同縣ヨリ民政部ニ上申ノ末費用總額ヲ灌溉反別ニ賦課シ藩縣ヲシテ之ヲ償却セシムルコト、ナレリ翌三年五月疏水成リ尙許多ノ殘工事及 繕箇所アリテ漸ク六年ニ至リ完ク功ヲ竣レリ文久二年起業以來實ニ十二年ノ久シキヲ經タリ費ス所廣瀨水路ニ係ルモノ金參萬七千七百九圓餘(内譯參千六百四拾六圓餘島原藩ヨリ下付米代六千九百貳拾參圓餘舊日田縣賦課金高舊中津藩百六拾九圓餘下付金高貳萬六千九百七拾圓餘舊島原藩高森水路ニ係ルモノ金八千貳百七拾四圓餘賦課金高(内譯千圓朝延ヨ參千九百六拾四圓餘舊日田縣參千參百拾圓餘課金)ナリ而シテ其後ノ灌溉反別ハ廣瀨水路舊十六箇村ニ亘リ四百九町步餘高森水路四新田ニ亘リ九十町步トス

(二) 大野川上流航路ノ廢止

本川ノ航路ハ從來大野郡菅尾村字細長ヨリ下流ナリシニ明治維新後上流直入郡竹田町字十川ニ至リ同所ヨリ左支稻葉川ニ移リ同町字古町迄凡四里ノ間新ニ航路ヲ開キシコトアリ然レトモ上流ニ湖ルニ從ヒ水勢急奔舟楫ノ來往ニ不便ヲ感スルノミナラス出水毎ニ航路ノ修築ヲ要シ損益相償ハサルヲ以テ數

年ニシテ大野郡大野村沈墮ヨリ上流ノ航通ヲ廢スルニ至レリ

佐賀縣

(一) 牛津川航路開鑿工事

牛津川(六角川左支)ノ上流小城郡東多久村大字納所字迦以上ハ曾テ通船ノ便ナシ然ルニ多久村地方ハ所々炭鑛アリ慶應ノ初佐賀藩軍艦ヲ増製シ石炭ノ販路好況ヲ來セルモ運搬不便ノ爲メ著シキ利益ナシ是ニ於テ藩士柴田勝永航路開鑿ノ利ヲ首唱スト雖躊躇應スル者ナシ明治三年ニ至リ奮然自己ノ資財ヲ投シ宿志ヲ果サント欲シ多久原村木村茂造ト謀リ同年四月出願許可ヲ得十月工ヲ起シ翌四年二月功ヲ竣ル即チ多久村字山崎ヨリ下流二里餘ノ溪間礫石ヲ竣去シ盤石ヲ鑿除シ用水路ニハ舟路ヲ開キ徒征ニ代ルニ撤架自在ノ板ヲ以テスル等工費千五百參拾五圓ヲ要シタリ起工以來沿岸里民ノ猜忌妨礙到ラサルナキニモ拘ラス毫モ屈撓スル所ナク開業ノ當初ハ絶エス浚深ヲ爲シ殊ニ出水ノ後ハ夥多ノ人夫ヲ役シ直ニ修理ヲ加フ斯クテ數年ヲ經テ遂ニ現今ノ如キ便利ナル航路トナレリ

熊本縣

(一) 石卷堤防修築工事

石卷堤防ハ下益城郡杉合村字釋迦堂綠、加勢兩川ノ中間ニ在リテ上下益城及飽託ノ三郡ニ界ス嘉永年間ノ築造ニ係リ蛟龍ノ水ニ臥セルカ如キ觀アリ單ニ粗割石ヲ積立テタルニ過キサレトモ此工成ルニ及ヒテ年々同地一帶ノ水害著シク減退セリト云フ即チ堤防ノ完備ハ一面綠川出水ノ逆流ヲ防止スルト共ニ他方加勢川ノ短縮直流ハ明カニ水害ノ幾分ヲ除却スルノ效果ヲ認ムルニ至レリ抑モ此堤防ノ位置ハ前ニ記スル如ク加勢、綠兩川末流ノ會合スル所ニシテ地勢平衍從ツテ流水勾配尤モ緩ナルヲ以テ一朝豪雨出水ニ際スレハ同地上流並ニ附近一帶浸水旬日ニ涉ルコト敢テ異トセス當時藩ノ倉廩並ニ藩主ノ茶殿ヲ川尻町ニ設ク是レ舟運ノ便アル所以ニ外ナラス然ルニ此地一帶出水毎ニ被害劇甚ナルヲ以テ藩主ハ天保年間託摩郡元三村地内大間堤防ヲ掘鑿シ新川ヲ設ケ兩岸ニ堤ヲ築キ加勢川流末ヲ直流ニ變更セリ然ルニ蛟功ノ歲非常ノ洪水ニ際會シ新堤ハ悉ク破壞シ氾濫横溢言語ニ絶スルノ慘狀ヲ呈シ其後兩三年尙水害ヲ防止スヘカラサルニ因リ一旦掘鑿セシ大間堤防ヲ復舊シ嘉永年間飽田郡走瀉村綠川大迂回ノ部分ニ新川ヲ開鑿シ下益城郡杉島村ノ堰下ケヲ斷行セルニ同堰ノ目的タル配水上ニ忽チ障礙ヲ來タシ且ツ川尻町藩廩ヘ分派舟運ノ便ヲ失フニ至レリ是ニ於テ飽田郡野田村字大慈寺前ヨリ下流川尻町大渡橋間約千數百間ノ新川ヲ更ニ開鑿シ舟運ノ方法ヲ講シ又加勢川流路曲折ノ部分ヲ短線直流ニ整理スルト同時ニ始メテ綠、加勢兩川ノ中間ニ石卷堤防ヲ設ケタルナリ是レ此ノ堤防ノ起源ナリ然レハ舊藩時代ハ會所ナル者之レカ修築防備ノ任ニ當リ工費ハ關係四郡ノ鄉備金ヲ以テ支出シ工役ハ四郡ノ人

夫ニ俟チタリト云フ明治維新後舊慣ノ制漸ク解弛シ修築費ハ七分ヲ地方税補助三分ヲ關係諸村ノ負擔ト爲セリ十八年ニ至リ大正寺水利土功聯合會組織成ルヤ上下益城郡長ノ管理スル所ト爲リ在來ノ積石堤防ヲ完全ニ修築スルノ企畫成リ二十年七月起工セルカ此時利害關係ノ異ル各村ヨリ苦情百出シ漸ク二十二年ニ至リ略ホ功ヲ竣レリ而シテ二十三年六月法律第四十六號水利組合條例發布ト共ニ從前ノ土功會ヲ解キ大正寺石卷堤防水害組合ヲ組織シ此堤防ノ維持修繕ニ當レリト云フ

(二) 綠川流域水防組合ノ事

綠川流域水防組合ハ前記石卷堤防ニ關スルモノ、外(一)下益城郡杉上村杉合村綠川水害豫防組合沿川長一萬二千二百廿一間水害豫防區、(二)同郡中山村大字岩下、中郡綠川水害豫防組合沿川長千五百九十八間水害豫防區、(三)飽託郡地内ニ於テ組合ヲ設置スルモノハ嘉永新川水害豫防組合堤防長千四百五十七間組合町村反別上、(四)綠川、加勢川水害豫防組合堤防長加勢川五千五百六十四間餘餘綠川千五百八十間餘右組合町村反別飽託加一千四百四十四町餘其他川口村字葭場鯨油堤防水害豫防組合同村綠川堤防水害豫防組合アレトモ堤防長及組合町村反別ノ調査ヲ闕ク

(三) 石塘水害豫防組合ノ事

白川流域飽田郡ト熊本市トノ界ニ一條ノ堤防アリ石塘ト稱ス利害ノ關スル所頗ル廣キニ亘ル從來ノ慣例ニ準シ白川、坪井川水害豫防組合ヲ組織シ郡長之ヲ管理ス組合ノ區域ハ第一區熊本市議員定員二名第二區飽田郡清水、黒髮二村同定員一名第三區池田、島崎、花園三村同二名第四區春日、横手二村同

四名第五區高崎、池上二村同四名第六區古町、白坪二村同四名第七區域山一村同七名第八區小島町、松尾村同六名計三十名田反別一千七十六町步餘戶數三千百二ヲ包括セリ

(四) 薄場石堰築造ノ事

白川ノ下流薄場渡(飽田郡力合村大字島新ノ字)ヲ去ル少許渠ヲ穿テ開テ施シ河水ヲ分引ス渠ヲ十八口渠ト稱ス池田、横手、錢塘三郷十五村ノ水田二百四十餘町步灌溉ヲ此ニ資ルモ蛇籠ヲ以テ水ヲ堰留ムルモノナレハ每歲洪水ノ際ハ潰破シ渠水涸レ十五村ノ水田龜拆稻苗枯槁シ又家井涸涸居民渴ニ苦ム當事者年ニ數々繕修シ人力ヲ用ユル概ネ四五千竹木繩索ハ勝テ計ルヘカラス明治三年各村里正議シテ更ニ堰ヲ築カントス里正右田淳則其事ヲ擔當ス砂原村千々波岬ナル者アリ之ヲ助ク二人堰上ヲ巡視シ晝夜肯テ休寢セス既ニシテ淳則石堰ノ議ヲ發ス衆頗ル之ヲ難ンス岬獨リ之ヲ贊ス此間紛議交起リ事殆ント壞レントス淳則苦諭竟ニ石堰ノ議ヲ成立セシム此年九月各村里正連署官ニ稟請ス官給スルニ金壹千貳百圓ヲ以テス池田、横手二村ノ物力ヲ併セ十月十八日ヲ以テ工ヲ起ス縣屬内藤義次來リ董ス翌年三月功ヲ竣ル堰長二百二十間幅之ニ稱フ蜿蜒石龍ノ水ヲ渡ルカ如シ爾來十餘年十五村乾涸ノ患ナキハ二子ノ力ナリトテ明治十五年岬ノ追遠祭ニ當リ二子ノ功ヲ多トシ而シテ岬ノ成功ヲ目セサルヲ哀ミ其事ヲ石ニ刻シ每歲三月十二日記念會ヲ開クト云フ岬補鍋ヲ以テ業トシ菊ヲ種エ自ラ樂ム工錢ヲ得數日ノ糧ヲ支ヘ得レハ業ヲ作サス菊ヲ撫ス人其ノ痴ヲ晒フ人呼ンテ奇翁ト爲ス淳則修堰ノ事起ルヤ慨然トシテ曰ク今日野人

カヲ致スノ秋ナリト悉ク其菊ヲ把リテ之ヲ棄テ淳則ヲ助ケ功ヲ成サシムルニ至レリ

(五) 氷川水害豫防組合ノ事

氷川筋八代郡宮原町以下ハ一帶平衍ノ地ニシテ遠ク八代、松橋ニ連リ肥沃ノ良田眸中ニ收マル然ルニ河底ハ殆ント田面ト水平ナルヲ以テ洪水ノ防禦ハ一ニ繋リテ兩岸ノ堤防ニ在リ南堤ハ宮原町大字宮原字一丁目ニ起リ鏡町大字鏡村字豊野ニ至リ海岸堤防ニ接續ス延長一里五町北堤ハ野津村大字河原字河原ニ起リ和鹿島村大字鹿島字北割ニ至リ海岸堤防ニ接續ス延長一里強堅牢ニシテ且ツ四時修繕ヲ事トセリ蓋シ明治二十五年南堤ハ宮原町有佐村鏡町千丁村ヲ北堤ハ野津村、和鹿島村、吉野村ヲ以テ各組合區域トシ知事ノ認可ヲ得何レモ一ノ組合會ヲ設ク組合會議員ハ組合員中公權ヲ有スル滿二十五歲以上ノ男子(若干ノ除外例アリ)ニシテ各町村長之カ選舉長ト爲リ利害關係ノ多少ニ應シ一町村ニ付一名乃至七名ヲ選出セルモノ郡長管理者ト爲リ毎歲一回通常會ヲ開キ利害ヲ討議ス(臨時會ヲ開ク場合アリ)議員ハ名譽職ニシテ其任期ハ六ケ年トシ三ケ年毎ニ半數ヲ改選ス現夫及ヒ現品ハ急遽ノ場合ヲ除ク外之ヲ金額ニ算出シ反別或ハ地價割ヲ以テ賦課徵收ス其夫役ヲ課スルトキハ本人或ハ適當ノ代人若クハ金員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得セシム

(六) 球磨川航路取締及右支川邊川航路開鑿ノ事

人吉町(球磨郡)以下球磨川ノ航路ハ水流急峻ナルヲ以テ行舟恰モ疾風ノ如ク八代町(八代郡)迄拾五里

餘ノ水程僅ニ六七時間ヲ要スルノミ湖航ハ之ニ反シ三日ヲ費スニ非レハ人吉町ニ達スルヲ得ス而シテ河身屈折多ク巨巖隱現シ顛覆破碎ノ虞アリ増水五尺ニ及ヘハ忽チ出船ヲ停止ス危險此ノ如キヲ以テ本縣知事ハ明治二十六年十月球磨川回漕營業取締規則(廿六箇條ヨリ成ル)ヲ發布シ之カ勵行ヲ期セリ右支川邊川ハ往古ヨリ航路ナク不便ナルヲ以テ明治二十三年八代郡高田村ノ人松岡長康ナル者其筋ノ許可ヲ得私費ヲ以テ航路ヲ開鑿シ通船及ヒ木流ニ對シ通航料ヲ徵收セリ然レトモ猶水程險惡ニシテ通航甚タ多カラス

宮崎縣

(一) 五箇瀬川上流ノ航路開鑿

五箇瀬川ハ水勢急激ニシテ其ノ湍瀨有ル處ハ岩石屏立シ河幅狹隘ニシテ倍備航行極メテ險惡ナリ初メ東臼杵郡北方村字瀧下以下八里間ノ航路アリシカ明治二十三年沿村ノ有志者之ヲ上流ニ及ホサンコトヲ企テ西臼杵郡字日ノ影迄四里間ヲ開鑿セリ然レトモ危險ナル箇所猶多ク貨物ヲ塔載シテ湖航スルコト難ク依然瀧下以下通船來往ノ便ニ頼ルノミ

(二) 美々津川上流ノ航路開鑿

美々津川ハ現ニ兒湯郡美々津村大字美々津町河口ヨリ西臼杵郡諸塚村大字家代字塚原崩ノ瀨ニ至ル十

三里餘ノ航路ヲ有スト雖東曰杵郡西郷村大字田代字花水流域河岸場以上凡七里間ハ激湍ニシテ航行容易ナラス平時高瀬舟ノ下航ニハ凡一里ニ三十分時ヲ要スルモ上航ニハ十六時間ヲ費スヘク而カモ陸運ノ不便ニ至リテハ駄馬ヲ通セサル處アリ其嶮惡想フヘキナリ依リテ木材、木炭ノ類ハ概ネ本川ニ由リテ輸出シ尙本流域中交通ノ要路タルヲ失ハス就中西郷村字花水流域河岸場以下凡六里間ハ船航稍便ニシテ來往頻繁ナリ明治二十二年村費及地方稅補助費ヲ以テ上流ノ開鑿ヲ企テ諸塚村地内荒谷ヨリ塚原崩ノ瀨ニ至ル航路凡九里餘ヲ延長シ又荒谷以下田代ニ至ル四里間ニ於ケル在來ノ航路ニ横ハル岩石等ヲ除却セリ曾テ崩ノ瀨以上松ノ平門ニ至ルノ間船路ヲ開鑿セシト雖工事十分ナラサリシヲ以テ一本流シノ外船筏俱ニ通セサルナリ若シ今一層ノ努力ヲ加ヘ之カ改修ヲ圖ラハ此地方陸運ノ不便ナルニ比シ其ノ便スル所幾何ナルヲ知ラス蓋シ船路修築ノ爲メ費ス所二十二年度以降二十五年年度ニ至ル總額貳千四百五拾壹圓餘内八百六拾七圓餘地方稅補助壹千參百五拾五圓餘村費ニシテ篤志者ノ寄附ニ係ルモノ貳百貳拾八圓ナリ

(三) 美々津川河口ノ水制工事

美々津川北岸ノ東端ニ權現山アリ東南ニ突出ス地ハ東曰杵郡ニ屬ス其南端字千鳥ト兒湯郡美々津村ヨリ突出セル附洲ト相對シ其間僅ニ二十餘間之ヲ本川ノ河口トス海上出入ノ船舶皆此處ヲ通過セリ此地太平洋ニ面シ波濤常ニ高ク北東若クハ東南ノ風ニ際シ殊ニ甚シ爲メニ砂礫河口ヲ壅塞シ全ク航路ヲ斷

ツニ至リシカハ明治二十四五年ノ比河口ヨリ五町餘ヲ距ル上流河中ニ突起セル岩石ヲ利用シ水制ヲ設ケ濬筋ヲ定メ以テ僅ニ現今ノ航路ヲ得ルニ至リシト云フ是ヨリ先キ十六年度ニ於テ地方稅補助金千參百九拾七圓餘協議費參百參拾八圓餘ノ工費ヲ以テ港口ヲ修築セシトアリ然レトモ四百石積以上ノ船舶ハ滿潮ニ非レハ出入自由ナラス此地木材木炭ノ輸出最モ多ク船舶常ニ輻湊ス若シ河口ヲ距ル東南海中ニ突起セル二三ノ巖石ヲ利用シ彼ノ權現鼻ヨリ突堤ヲ築キ風波ヲ防カン乎乃チ一ノ良港タルヲ得テ地方ノ幸福之ニ若クモノアラサルヘシ

(四) 大淀川中流ノ航路開鑿

大淀川ハ流速緩ニシテ穩水量多ク堰埭等ノ障礙ナシ唯中流北諸縣郡高崎村繩瀨ヨリ東諸縣郡高岡村浦之名ニ至ル六里餘ノ間左右山岳ニシテ巖石突起シ水勢急激ニシテ飛瀑ヲ成セル湍瀨本川及支川岩瀨川ニ於ケルモノ六箇所アリ就中繩瀨ノ觀音瀨ハ其高サ二丈餘ニ達シ古來奇觀ヲ以テ稱セラル明治二十二年是等難所ノ開鑿ヲ企テ數月ヲ閱シテ功ヲ竣ル爾來其ノ修築ヲ施シ舟筏來往シ物貨運輸ノ便ヲ得タルノミナラス其ノ曾テ産セサリシ鮎鰻等ノ魚族ノ繁殖ヲ見ル亦一利源トス費ス所ノ工費二十二年度以降二十四年度ニ至リ總額壹萬參百四拾九圓餘ニ上リ即チ地方稅支辨ニ屬ス然レトモ上流各地ハ都城町ヲ中心トシテ貨物總テ鹿兒島市ヨリ集散シ且道路ノ改修成リタルヲ以テ舟運廢絶シ航路ハ唯高岡村山下以下ニ存ス岩瀨川亦道路改修ノ影響ヲ受ケ本流ヲ下ルモノニ木材及櫓木等ニ過キス